



雑学 おもしろ

ものはじまり



本郷陽二
Yoji Hongo

楽しみながら
歴史・教養も身につく本!



知的生きかた文庫

書き下ろし 三笠書房

世界中の 「はじまりの物語」は トンデモ面白い

歴史、科学、食、スポーツ……
意外に深い258のルーツ!

三笠書房

もののはじまり おもしろ雑学

本郷陽二

この本は縦書きでレイアウトされています。

また、ご覧になる機種により、表示の差が認められることがあります。

はじめに

スマートフォンのアラームで目を覚まし、鏡を見ながら身支度を整えて、コーヒーをドリッパ―に入れて飲み、バスや電車、地下鉄などを乗り継いで会社や学校へ向かう。遅刻しそうになったら、タクシーに乗って電話やメールで連絡することもあるだろう。

どれも当たり前のように毎日使っている「もの」だが、かつてこれらは存在しなかった。つまり、現在のように便利な生活を送れるのは、それらを発明・発見、そしてインフラとして整えてくれた人たちがいたおかげというわけだ。

多くの食べ物や娯楽も、最初から存在していたわけではない。おいしいきしめんを食べたあとにアイスクリームを味わい、仕事終わりにポテトチップスをつまみにビールを飲んだり、カラオケをするのも先人のおかげだし、サッカーや野球などのスポーツを観戦したり自ら楽しめるのも、ルール作りに尽力してくれた人たちがいたからだ。

そこで本書では、普段はまったく気にしないまま使ったり楽しんでいる「もののはじまり」について、できるだけ深く掘り下げ、一部はクイズにしてみた。

埋もれた真実を知り、先人たちに感謝するのもいいだろうし、クイズを話のネタにするのもいいだろう。しかし、なによりも楽しんで読んでいただけることを念頭に置いたつもりだ。だから

ら、たまにはスマートフォンをポケットにしまって本書を楽しんでもらいたい。

ところで、「はじまり」の世界では、まったく別な場所で研究している人たちが、なんと、ほぼ同時に類似の発見や発明をすることがよくある。

本書でも触れたが、フランスのルミエール兄弟とアメリカのトーマス・エジソンはそれぞれ独自に映画を発明した。また、電話を発明したのはグラハム・ベルとされているが、実はエジソンもほぼ同時期に電話を開発していたし、発明家のイライシャ・ 그레이に至っては、ベルのわずか2時間後に電話の特許を申請したという驚くべきニアミスぶりだった。

なかには「人類が神秘の英知に導かれている証拠だ」と主張する人もいる。たしかにそう思いたくなるほど不思議な現象ではないか。

本書を執筆するにあたっては可能なかぎり信頼性の高い資料を参考にしてはいるが、ここで紹介した「はじまり」以外の「はじまり」を主張する人や資料があらわれる可能性はゼロではない。それもまた「はじまりの世界」を面白くしているのではないだろうか。

第1章

食のはじまり おもしろ雑学

——飽くなき好奇心から生まれた、意外な食べ物

【親子丼】店の格が落ちるからと店内では食べられなかった

【お好み焼き屋】男女が密会する“いかがわしい店”だった？

【チーズ】砂漠の真ん中、羊の胃袋の水筒で作られた

【マヨネーズ】日本での発売当初は1本2000円近くもした！

【カレーに福神漬け】苦肉の策で生まれた組み合わせだった

【キャラメル】日本ではタバコの代用品として愛された

【餃子】日本ではじめて食べたのは黄門様

【助六寿司】稲荷寿司とのり巻きの組み合わせの不思議

【ラムネ】日本へ持ってきたのはペリー提督の黒船だった

【ポテトチップス】クレーム対策の嫌がらせて生まれた料理だった

【海洋深層水】取りすぎて枯渇する心配はないのか

【ビール】日本初のビールにホップは使われなかった

【世界一高いコーヒード豆】その作り方は聞かないほうがいいかも……

【インスタントコーヒー】大金持ちになりそこねた日本人がいた

【きしめん】そのルーツは碁石のように丸かった

【チョコレート】カカオ豆は強壮剤として利用されていた

【タバコ】はじめて日本に持ちこまれた船にはザビエルが同乗していた

【あがり】寿司屋でお茶のことをこう呼ぶのはなぜ？

【桜餅】江戸の長命寺か、それとも大坂の道明寺か

【マドレーヌ】諸説あるものの、女性の名前に由来している

【ハチミツ】養蜂は『日本書紀』にも登場している

【立ち食いそば】はじめてホーム上に設置した駅はどこなのか

【ピザ】16世紀まではトマトソースもチーズもなかった

【トウモロコシ】宇宙人が与えてくれた奇跡の穀物？

【アヒル】食用アヒルとして人気の新品種「新大阪アヒル」

【イチゴ】日本人は「オランダイチゴ」の子孫を食べている

【パイナップル】種がないのにどうやって増やすのか

【チューインガム】歯磨き粉の代用品として広まっていった

【冷麺】暑い季節に食べるのは本場では邪道？

【銘柄牛】全国どこでも目にするようになったのはなぜ？

【豆腐】中国生まれで、とても硬いものだった

【ドロップ】正式名称は「サクマ式ドロップス」

【缶コーヒー】列車に間に合わなかったことから生まれた

【たい焼き】天然物のたい焼きと養殖物のたい焼きがある

【国産ウイスキー】大正時代にはアルコールに甘味料や香料などを加えていた

【キャベツの千切り】日露戦争がきっかけで、やむをえずつけ合わせた

【饅頭】ルーツを聞くと食べるのが怖くなる

【給食】あの世界遺産・富岡製糸場で始まった

【缶詰】缶詰を最初に利用した軍人は誰？

【バレンタインデー】バレンタインデーにはなぜチョコレートを贈る？

【クロワッサン】クロワッサンが三日月型なのはなぜ？

【柿の種】柿の種が誕生したきっかけは？

【カステラ】日本ではじめてカステラを作った人の職業は？

【野沢菜】野沢菜はどこから移植されたのか？

第2章

文化のはじまり おもしろ雑学

——「身の回りのもの」の、思いもよらないルーツ！

【名刺】江戸時代の武士も持ち歩いていた

【君が代】最初に作曲したのはイギリス人だった

【水洗トイレ】武田信玄は人力水洗トイレを愛用していた

【鏡】製造に1カ月以上かかったベニス製のガラス鏡

【ガラス】画期的だった「吹きガラス」の発明

【化粧】「メイクアップ」は「厚化粧しすぎ」の意味だった

【マツチ】使うのも命がけだったマツチの開発秘話

【カラオケ】バンドマン経験者だからこそ思いついた

【引きこもり】平安時代の若き秀才は引きこもりだった

【映画と電話】アメリカとフランスが論争する理由

【駅伝競走】古代ローマ時代は1日に225キロを走破した

【じゃんけん】最初はへび、カエル、ナメクジの戦いだった

【バンザイ】死に怯える始皇帝の長寿を願う掛け声だった

【豆まき】大豆を使って鬼の目や凶事の芽をつぶす

【駅ビル】はじめての駅ビルも日本一の高さの駅ビルも大阪にあり

【枕】昔の日本人は金庫がわりに使っていた

【原稿用紙】江戸時代は地色が茶色で罫線が白色だった

【エイプリルフール】由来はあいまいで不思議すぎる

【ラジオ体操】初めに考えたのはアメリカの保険会社だった

【家紋】公家が牛車を見分けるために考案した

【華族制度】公家と武家が国政を牛耳るために考えだした

【握手】中国でも古くから行われていた

【銭湯の富士山】何を描けばいいか思いつかなかったから誕生した

【上野の西郷像】西郷に親近感を抱く明治天皇が大金を寄付した？

【北枕】縁起が悪いが、じつは健康にいい？

【宝くじ】当選してもらえないのは賞金ではなかった

【号外】通常の新聞の2倍以上の値段だった

【肉食の禁止】仏教の教えの勘違いが原因だとか

【松・竹・梅】遊郭では「梅」が「竹」よりも上位だった

【出前】外国人も驚いた日本生まれの便利なシステム

【将棋】将棋とチェスはどちらもインド生まれ

【線香】最初は消臭剤として使われていた

【灯台】1000年間も使われていたエジプトのファロス灯台

【金魚】中国では文化大革命によって一時は消滅した

【雨傘】昔は雨よけでなく汚物よけに使われた

【年賀状】平安時代の公家のあいだでやりとりされていた

【デパート】売上高はネット通販に抜かれたが歴史の重みがある

【スーパーマーケット】開業当初は肉や野菜は売らなかった

【質屋】中国で救済事業として誕生した

【京都五山送り火】京都五山送り火の「大」の字を書いたのは誰？

【ティッシュペーパー】ティッシュペーパーが開発された目的は？

【ライター】ライターはどこの国の人が発明した？

【バーコード】バーコードが誕生したきっかけになったのは？

【〒】「〒」が郵便局をあらわしているのはどこの国？

【ランドセル】はじめてランドセルを背負って通学したのは誰？

【投げキッス】投げキッスのもともとの意味はどれ？

第3章

科学のはじまりおもしろ雑学

——やっぱりすごい、「発明」の先駆者たち！

【予防接種】紀元前1000年からあったが、とても危険だった

【光の速度の計測】天才ガリレオでも不可能だった

【エレベーター】ローマ帝国の皇帝ネロが乗った最初のエレベーターって？

【双子の順番】きんさん・ぎんさんは、姉が妹で妹が姉だった？

【有袋類の誕生日】カンガルーの誕生日は出産した日ではない？

【使い捨てカイロ】第1号はホカロンではなくアツタカサン

【シュレッダー】うどん製麺機をヒントにして誕生

【照明】日本の電信局はエジソンより早く使っていた？

【臓器移植】世界初は一卵性双生児からの移植だった

【木製の総入れ歯】仏像作りの技術を応用して日本で作られた

【時計の針の右回り】日時計がエジプトで発明されたから

【電話と電卓の数字配列】並びが異なる、その理由は？

【火薬】不老不死薬の開発中に誤ってできた

【日本の特許制度】江戸時代は「社会秩序を乱す恐れがある」とされた

【糖尿病の発見】患者の尿をなめた勇氣ある医師がいた

【尿の利用法】石けんよりも洗浄効果が高かった？

【進化論】最初に唱えたのはダーウィンではなかった

【恐竜の化石】最初に発見した人は何だかわからなかった

【地図】イギリス人も驚いた伊能忠敬の地図

【地下鉄】蒸気機関車が大量のガスを出した

【電子レンジ】ポケットに入れたチョコバーから生まれた

【遺伝子組み換え作物】すでに栽培面積の80%を超えた作物もある

【環境ホルモン】その影響で男性の生殖機能が低下した？

【本物のAI】2014年にはじめて登場した

【四則演算の記号】乗算の「×」は欧州では通じない？

【火縄銃】500年前でも100メートル先の敵を狙えた

【震度とマグニチュード】日本由来なのは、やはり地震国だから？

【消しゴム】食パンと深い関係がある

【天気図】 天候が変わりやすいイギリスで発達

【電源周波数の違い】 関西と関東の違いは明治時代から始まっていた

【体脂肪計】 横になって手足に電極をつなぐ必要があった

【血液型の発見】 最初はA B型が見逃されていた

【北極と南極】 南極は北極よりはるかに気象条件が厳しい

【麻酔薬】 妻を失明させてしまった華岡青洲

【ステルス機】 20年間で1機しか撃墜されなかった

【ダム】 最古のものは3300年以上経ったいまでも現役！

【ベンゼン環】 居眠り中に見た夢から思いついた

【アルミ箔】 誕生から100年以上の歴史がある

【乾電池】 乾電池を最初に発明したのはどこの国の人？

【バンドエイド】 バンドエイドの発明のきっかけは？

【宇宙飛行士】 日本人初の宇宙飛行士の第一声は何？

【コカ・コーラ】 コカ・コーラのCMに初出演したタレントは誰？

【GPS】 GPSが民間に広まったきっかけは？

第4章

社会のルールのはじまり おもしろ雑学

——この不思議な「決まり」はどこから来たのか？

【郵便ポスト】赤いポスト第1号は明治34年生まれ

【硬貨】円形ではなく、刀や農具の形をしていた

【保険】ロンドン大火がきっかけで誕生した火災保険

【警察官】一般人を「おい、こら」と呼んだ

【遊園地】浅草花やしきが日本のルーツで、遊具はブランコだけ

【駅弁】旅館の弁当から生まれた高級食

【コンビニエンスストア】ルーツは氷の専売店だった

【自動車事故】世界でも日本でも試運転中に発生した

【ラーメン店】明治の「南京そば」は1杯3000円！

【ハンコ】印章のはじめは動物柄だった

【朱肉】江戸時代には武士階級しか使用を許されなかった

【左側通行】ナポレオンが右利きだったら左側通行が主流になっていたかも

【東京の「区」】かつては35区だった

【金庫】日本ではじめて作ったのは鍛冶職人

【通信販売】 ヴィクトリア女王も顧客だった

【レンタカー】 日本初は運転手つきで1日12万円以上！

【円】 スペインやメキシコで流通していた銀貨に由来する

【バーゲン】 始めたのは日本初のデパート

【ローマ字】 時代によってさまざまな方式が使われてきた

【駅の忘れ物】 発見された最初の忘れ物は下駄だった

【パトカー】 最高速度はなんと時速26キロ

【ネクタイ】 恋人から贈られた兵士の首巻き

【「子」という名】 平安時代に「子」をつけられたのは上流階級だけ

【駅ナンバリング】 ローマ字が苦手な外国人が多いためにできた

【成人】 日本で20歳が成人と定められたのは明治9年

【トイレットペーパー】 当時は買うのが恥ずかしかった

【日本初のトンネル】 大分の耶馬溪に完成したトンネルは有料道路でもあった

【義務教育】 はじめの日本の義務教育は4年間だった

【ボランテニア】 神の意志に従う人のこと？

【競馬】 ルーツは古代ローマの戦車競技

【黒板】 外国人教師が使ったブラックボード

【パスポート】日本ではじめて交付されたのは芸人さん

【税】日本では1300年以上前から

【航空会社】日本初の東京・大阪便は大卒初任給並みの運賃だった

【シェフの帽子】有名シェフをまねして広まった

【日本のタクシー】初乗り3000円という高級移動手段だった

【ボーナス】ボーナスを日本ではじめて支給したのは？

【警察用オートバイ】日本初の警察用オートバイは何色だった？

【道の駅】道の駅が最後までなかった都道府県はどこ？

【世界遺産】世界遺産が最も多い国はどこ？

【盲導犬】最も古い盲導犬の記録が発見されたのは？

第5章

スポーツのはじまり おもしろ雑学

——思わず話したくなる「スポーツ」の物語あれこれ

【軟式テニス】用具代を節約するために考えだされた

【テニスのラブ】フランスで発展していたらいまも「ラブ」は「レフ」のまま

【カーレース】最速は、なんと蒸気自動車だった

【格闘技のリング】ボクシングの試合で使われてから

【ラグビー】イギリスのサッカーの試合で生まれた

【ラグビー監督の席】監督が観客席に座るようになった理由

【ラグビーのユニフォーム】横じまのユニフォームという常識は日本でしか通用しない

【闘牛】日本の闘牛とスペインの闘牛は似て非なるもの

【カーリング】日本初の大会は1937年と、意外と古かった

【野球】ルーツはイギリス説が有力か

【野球の9回制】料理人の苦情がきっかけで9回制になった

【サウスポー】左腕投手は南側の腕を振るから

【始球式】日本初のボールを投げたのは大隈重信だった

【夏の高校野球】かつては敗者復活戦があった

【ナイトゲーム】早稲田大学野球部の2軍対新人の試合だった

【バレーボール】お年寄りでも楽しめるスポーツとして考えられた

【サッカー】ロンドンで世界初の協会が設立された

【イエローカード】イエロー、レッドだけではなくグリーンカードもある

【フットサル】ブラジル人サッカー選手が日本に紹介した

- 【フィギュアスケート】18世紀後半にはすでに技術書があった
- 【サイコロ】ローマを支配したカエサルも遊んでいた？
- 【スキー】乃木希典が日本のクラブの開会式に駆けつけた
- 【スノーボード】考案者は世界王者となった
- 【ボウリング】基本ルールを作ったのはマルティン・ルター
- 【ビリヤード】日本ではオランダ人が出島に持ちこんだ
- 【アメリカンフットボール】ラグビー、ボストンゲーム、サッカーのいいとこ取り
- 【日本初のプロレス】靖国神社の相撲場で行われた
- 【空手】秘密の武術として沖縄で育まれた
- 【柔道】青色の柔道着になったのは昭和63年
- 【ヨガ】広めたのは、なんと旧日本軍のスパイだった!?
- 【マラソン】最遅記録は54年8月6日5時間32分20秒3
- 【クラウチング・スタート】最初はカンガル―・スタートといわれていた
- 【アイスホッケー】日本ではじめて行われたのは長野県の諏訪湖
- 【ゴルフクラブ】日本初のゴルフクラブに日本人は入会できなかつた
- 【1ラウンド18ホール】ホール数が減って喜んだ当時のプレイヤーたち
- 【ゴルフボールのデインプル(穴)】ゴルフ好きの医師がボールを改良した

【キャディ】「貴族の若者」と知るとバッグなど持たせられない!?

【ゴルフのニッカボッカ】不正をしないという無言のアピールだった

【卓球】ピンポンと名づけたのはイギリス人だった

【相撲】最古の記録は古代バビロンか、『古事記』の神様か

【横綱】西ノ海嘉治郎か、明石志賀之助なのか

【ラグビーボール】ラグビーボールはもともと何でできていた?

【甲子園の土】はじめて持ち帰られた甲子園の土はどこにある?

【バスケットボール】バスケットボール誕生のきっかけは何?

【スカイダイビング】スカイダイビングの最高速度記録は何キロ?

第6章

言葉のはじまり おもしろ雑学

—— 知れば知るほど面白い、「ちょっととした表現・用語」の起源

【無礼講】鎌倉幕府を倒すため苦肉の策として取り入れられた

【梨園】唐の皇帝の庭に梨の木があったから

【サボタージュ】木靴で仕事を邪魔することから生まれた

【さぼうる】店でサボる人が多いから命名したわけではない

【ガーター勲章】ジェントルマン精神が生んだ最高位の称号

【ボイコット】なんと悪代官の名前だった

【花道】相撲では花を飾り、歌舞伎では花を贈られる

【十八番】「おはこ」と読むのは十八番が箱に入っていたから

【左遷】左は右よりも劣っているという古代中国思想から生まれた

【オーエス】勝海舟がカッコいい言葉として広めたらしい

【スチュワードース】豚小屋の女性番人と言っても怒らないで！

【超ド級（超弩級）】「弩級」や「超超弩級」もあった

【忬度と斟酌】忬度ならギリギリセーフだけど、斟酌はギリギリアウト？

【台風の名】名前を決めたのは台風委員会に加盟している14カ国

【太平洋と大西洋】「穏やかな海」と「ヨーロッパの西にある海」という意味

【段取り】段取りがいいのは歌舞伎の演出家？それとも石工職人？

【一矢を報いる】一矢を報いたのは鎌倉時代の武将、少弐景資だった

【びた一文】現代風に言い換えると「1円」になる？

【打ち合わせ】もともと日本の伝統音楽由来の言葉だった

【談合】かつては戦争回避のために行われていた

- 【100万ドルの夜景】もともとの意味はとて「現金」なものだった
- 【2ちゃんねる】関東では放送局の割り当てがなかったから命名
- 【13日の金曜日】テンプル騎士団が逮捕されたのは事実だが
- 【ラッキーセブン】残念ながら日本では通用しないかも
- 【ハヤシライス】早矢さんが作ったからなのか
- 【二枚目と三枚目】イケメン俳優の名前は看板の2番目に掲げられた
- 【十二支】猫がないのはネズミに嘘をつかれたから？
- 【セ・リーグとパ・リーグ】2リーグに分かれたのは新聞社同士の争いが発端
- 【関東と関西】分けていたのは鈴鹿関、不破関、愛発関の三関
- 【ヘルメット】ルーツは、あのヘルメス神と同じ？
- 【もしもし】「申す申す」が「もしもし」に変わった？
- 【「はい、チーズ」】テレビCMの影響だった
- 【トヨタ】かつては存在していた「トヨタ」の自動車
- 【1週間の曜日】最初は「土曜日」がはじまりだった
- 【SOS】「Save Our Ship」の略だなんて知ったかぶりはしないこと
- 【辻褄】「辻褄」とは、本来どこをさした言葉？
- 【ピンからキリまで】「ピンからキリまで」と言うが、上等なのはどちら？

【音階】ドレミファソラシドを考案したのはどこの国の人？

【ちちんぷいぷい】「ちちんぷいぷい」「この不思議な言葉の由来は？」

本文イラスト 石川ともこ

編集協力 幸運社／岡崎博之／友楽社

第1章

食のはじまりおもしろ雑学

——飽くなき好奇心から生まれた、意外な食べ物



ものの起源

親子丼

店の格が落ちるからと

店内では食べられなかった

日本人はどんぶりモノが大好きだ。天丼、かつ丼、牛丼などいろいろあるが、なかでも人気が高いのが親子丼。

その親子丼をはじめて出したのは、日本橋の「玉ひで」という軍鶏料理専門しやも店といわれている。1887年（明治20年）ごろ、軍鶏鍋のシメとして、鍋に残った煮汁を卵でとじ、それをご飯の上のせて食べる客がけっこういた。これをヒントに5代目店主の妻が「店で出したらどうか」と提案。しかし、店主は「汁かけメシなど出したら店の格が落ちる」と大反対。そこで出前専用のメニューとして親子丼が生まれたのだった。

食べやすくて、しかもおいしいので、親子丼は、近くにあった魚河岸で大人気となった。しかし、店内で親子丼が出されるようになったのは1979年（昭和54年）のこと。歴代の店主はガソリンコなどところをしっかりと受け継いできたようだ。

ものの起源

お好み焼き屋

男女が密会する “いかがわしい店” だった？

広島出身者と大阪出身者が顔を合わせると、必ずといっていいほど、「どっちのお好み焼きが元祖か」という言い争いになるようだ。しかし、たいへん申し訳ないが、お好み焼きのルーツをたどると大正時代の東京に行きつく。当時、東京で食べられていたのは、お好み焼きではなく縁日の屋台などで売られていた「どんどん焼き」というもの。1918年の『読売新聞』には「どんどん焼き」の記事が見られる。客の注文を聞き、溶いた小麦粉のなかに好みの具を入れて焼きあげたというから、現在のお好み焼きとほぼ同じものと考えていいだろう。

店舗でお好み焼きが食べられるようになったのは、昭和初期のこと。東京・銀座の裏通りに複数開店したようだが、男女が密会するいかがわしい場所とされ、警察の取り締まりもあったという。家族で楽しめる現在のお好み焼き屋とは、ずいぶんとかけ離れた店だったようだ。

ものの起源

チーズ

砂漠の真ん中、羊の胃袋の水筒で作られた

人類がはじめてチーズに接したのは紀元前2000年ごろといわれている。当時、アラブの商人たちはラクダに荷物をのせて砂漠を往来していた。それに欠かせないのは飲み水で、羊の胃袋で作った水筒に水を入れて持ち歩いていた。羊の胃袋には適度な浸透性があり、蒸発するときに胃袋の中の水を冷やしてくれたのである。

ある日、その水筒にヤギの乳を入れた男がいた。砂漠を歩くうちにヤギの乳から次第に水分が抜けると同時に、胃袋に残っていた消化酵素によって発酵が起きた。その結果、気がつくとも水筒の中に入れたヤギの乳が固まっていたのだ。こうばしい香りがしたために捨てるのが惜しくなつて、恐る恐る食べてみたところ、想像以上においしかったことから、これがヨーロッパ全土に広まっていった。

ちなみに、チーズは朝鮮半島を経由して6世紀ごろに日本へも伝わっていて、奈良時代の文献に出ている「醍醐^{だいご}」が現在のチーズだと考えられている。

ものの起源

マヨネーズ

日本での発売当初は

1本2000円近くもした！

マヨネーズは18世紀以前からスペインのマヨルカ島で愛用されていた調味料だったが、これがフランスへ伝わり、島名のマヨルカからマヨネーズになったという。

日本でも大人気のマヨネーズだが、販売当初は苦戦だった。日本ではじめてマヨネーズが発売されたのは1925年。現在もマヨネーズのブランド最大手のキューピーの自信作だったようだが、当時は野菜を生食する習慣がなく、価格も高かったため、初年度の出荷量はわずか600キロだったという。

ちなみに、当時のマヨネーズの価格は126グラム入りで50銭。現在の価値にすると2000円近くに相当するというから、さすがに高い。しかし、キューピーの積極的な宣伝で次第に販売数は増えて、太平洋戦争が勃発して販売が休止する1941年には出荷量を500トンにのびたという。マヨネーズの再出荷が始まったのは、終戦から3年後のことだった。

ものの起源

カレーに福神漬け

苦肉の策で生まれた組み合わせだった

福神漬けは、みりん醤油に7種類の野菜を漬けた薬味だ。1885年に東京・上野の漬物店「酒悦」しゅえつの野田清右衛門が考案したとされ、七福神と同じ7種の材料が使われていることと、酒悦の近くにある上野の不忍池に七福神の弁財天まつが祀られていることから、戯作者げさくしゃの梅亭金鷲ばいていきんがが「福神漬け」と名づけたという。

現在ではカレーに欠かせない薬味になった福神漬けだが、この組み合わせを考案したのは、明治時代後半に日本郵船の欧州航路1等船客を担当していたシェフといわれている。

日本郵船の食堂で出されるカレーには、通常、チャツネというインド料理には欠かせないペーストをつけ合わせていたが、航海途中に在庫が底をついてしまった。つけ合わせなしでは格好がつかず、シェフが思いつきで福神漬けを出したところ、思いのほか客の評判がよかったという。こうして、まずは日本郵船内で福神漬けが定番化。それが大正時代に入って、次第に日本国内に広まっていった。ちなみに、喜劇王といわれたチャーリー・チャップリンも、この福神漬けつきカレーをたいそう気に入り、日本滞在中にはよく食べていたそうだ。

ところで、「カレーのつけ合わせといえはらっきょう」と言う人もいるが、福神漬け派とらっきょう派の比率は68対32と、らっきょう派が劣勢だ。



ものの起源

キャラメル

日本ではタバコの代用品として愛された

キャラメルは、アラブ人がクレタ島で栽培したサトウキビの砂糖菓子がルーツとされている。この砂糖菓子が十字軍によってヨーロッパにもたらされ、16世紀にフランスでバターやミルク、バニラなどを加えたバターキャラメルが作られるようになった。

日本にも16世紀に伝わったが、国内で製造されるようになったのは1899年。アメリカで製菓技術を学んだ森永太郎が森永製菓を設立して売り出したのだ。だが、当初のキャラメルは日本の気候に合わず、べとべとに溶けて評判も悪かったという。その後、森永は日本の気候でも溶けないキャラメルを開発し、気軽に持ち歩ける箱に入れて1914年の大正博覧会に展示・販売。これが大人気になったのだが、展示されたポスターには「煙草代用」というキャッチコピーが使用されていた。いまからは考えられないが、大人向けのお菓子だったのである。

ものの起源

ぎょうざ

餃子

日本ではじめて食べたのは黄門様

みづくに

徳川光圀といえは、日本ではじめてラーメンを食べた人として知られているが、餃子を食べたのも最初だとか。光圀にラーメンを供したのは中国から亡命した朱舜水で、彼は餃子も作り、食べさせたという。その後、『卓子調烹法』たくしちようほうという中国の料理本が1778年に出版され、それにも餃子の作り方が出ていたが一般庶民の食べ物としては広まらなかった。

日本で本格的に餃子が普及しはじめたのは、第2次世界大戦後。大陸から引き揚げてきた人たちがご飯のおかずに合わせて、薄皮で包み少量の油で焼いて食べていた「日本風餃子」が店舗で販売され、人気になったのだ。

げんぼうぎん

餃子といえは三日月形が定番だが、これはかつて中国で使われていた「元宝銀」という銀貨の形を模したものだという。銀貨と同じ形の餃子を食べることによって「お金に恵まれますように」と願っているのだ。

ものの起源

助六寿司

稲荷寿司とのり巻きの組み合わせの不思議

歌舞伎に『助六すけろく由縁ゆゑん江戸桜』という話がある。主人公は花川戸「助六」という男だが、じつは彼、仇討ちで有名な曾我兄弟そがの弟、曾我五郎の仮の姿である。その助六が、髭ひげの意休いきゆうという悪者に奪われた源氏の宝刀「友切丸」を探すため吉原に潜入した。そして、ついに髭の意休を見。ケンカをしかけ、彼から刀を取り返すという話である。

この話に登場する助六の愛人の名前を「揚巻あげまき」という。彼女の名前の「揚」から稲荷寿司、「巻」からのり巻きを連想し、それを組み合わせた弁当を江戸っ子が「助六」と呼ぶようになった。つまり、江戸っ子の「言葉の遊び」ということだ。

ちなみに、当時の江戸には贅沢を禁止する儉約令が出されていて、魚を使った寿司を食べるのも好ましくないとされていた。それも、この助六寿司が人気を博した理由となったそうだ。

ものの起源

ラムネ

日本へ持ってきたのは

ペリーていとく提督の黒船だった

ラムネはレモネードのなまった呼び方とされているが、アメリカのレモネードは炭酸が入っていないのが一般的だ。とはいうものの、当時は欧米でソーダ水がさかんに飲まれていて、それがペリー率いるアメリカ海軍艦隊によって1853年に日本にもたらされたのだった。

その後、横浜に居留地が設けられると外国人が飲むようになり、明治に入って居留地が開放されると日本人のあいだにも広まり、人気飲料になっていったという。

ラムネといえば、ビー玉入りの独特の形をした容器を思い浮かべる人が多いと思う。あれは、19世紀にイギリス人のハイラム・コッドによって考案されたもので、それより前はワインのようにコルクで栓がされていたため、どうしても炭酸が抜けがちだったという。ちなみに、ラムネは現在も販売されているが、ほとんどがペットボトルで、ビー玉も入っていない。

ものの起源

ポテトチップス

クレーム対策の嫌がらせで生まれた

料理だった

ポテトチップスが誕生したのは、1853年のこと。ニューヨーク州のレストラン「ムーンレイクロッジ」のシェフ、ジョージ・クラムは、大富豪のコーネリアス・ヴァンダービルトから「フライドポテトが厚すぎておいしくない」というクレームを何度も受けていた。

たび重なるクレームにうんざりしたクラムは嫌がらせをしてやろうと、その日、スライサーで薄く削ったジャガイモをカリカリに揚げて出した。すると、ヴァンダービルトは薄いフライドポテトを大絶賛。そこでクラムは「サラトガ・チップス」と名づけ、メニューにのせることにした。すぐに大人気となり、数多くのレストランや菓子メーカーで提供・販売されるようになったという。

ちなみに結果的にポテトチップスの生みの親となったコーネリアス・ヴァンダービルトは海運業と鉄道業で財を成した実業家で、20兆円近い資産を有していたそうだ。

ものの起源

海洋深層水

取りすぎて枯渇する心配はないのか

海洋深層水とは、光の届かない水深200メートルより深いところにある海水のことだ。窒素、リン、ケイ素などの無機栄養塩類が豊富に含まれ、細菌類も非常に少ないため、塩分を抜いて飲料や化粧品などに使われている。

海洋深層水の研究は、1881年にフランスの物理学者ダルソルバルが始めた。目的は低温の海洋深層水を発電に利用することで、成分に興味はなかったという。日本では、オイルショックをきっかけに、海洋深層水を利用した温度差発電の研究が始まった。しかし、発電よりも飲料や化粧品、養殖などへの利用法に注目が集まり、高知県が国の補助を受け、取水した深層水を民間へ無償提供する事業を始めたのだった。

ちなみに、海洋深層水の容量は約13億立方キロメートル。これは海水の約95%にあたる膨大な量のため、当分、枯渇する心配はなさそうだ。

ものの起源

ビール

日本初のビールにホップは使われなかった

ビールの起源はとても古い。紀元前2300年ごろのエジプトの壁画にはビールの製造方法が、紀元前1700年ごろのハムラビ法典（古代バビロニア）には給料の一部としてビールが支給されていたことが記されている。

ビールの伝来については、いろいろ諸説があるが、1724年に出版された『和蘭問答』わらんに紹介されているので、いちおう江戸時代中期にはあったようだ。

日本ではじめてビールを醸造したのは蘭学者の川本幸民で、こうみん 試行錯誤をくり返して1853年に完成させた。しかし、当時の日本にホップは自生していなかった。そこでカラハナソウという植物の実を使ってビールに苦味をつけたという。

また、日本で本格的なビールの醸造を行ったのはアメリカ人のウィリアム・コーブランドで、横浜天沼にスプリング・バレー・ブルワリーを設立し、1869年に「天沼ビール」あまぬまの販売を始めたのだった。

ものの起源

世界一高い

コーヒー豆

その作り方は聞かないほうがいいかも……

世界一高いコーヒーの名は「コピルアック」という。このコピルアックが発見されたのはまったくの偶然だった。

18世紀以降、インドネシアはオランダに統治されていて、農園で作られたコーヒーはすべてヨーロッパに輸出された。だから、農民たちはコーヒーを作っても一口も飲めずにいた。そこで、ある農民がジャコウネコのフンに含まれていたコーヒー豆を拾い集め、それをキレイに洗って飲むことにした。すると、なんと素晴らしい味と香りだったのである。

発見場所を聞くと飲む気にならないかもしれないが、ジャコウネコの腸内の消化酵素の働きでコーヒー豆に独特の香味が加わり、コピルアックは最高の風味だという。ただし、100グラムあたりの値段は6000円から1万円。コーヒー1杯で8000円を取る専門店もあるというから、とても気軽に飲めるものではない。

ものの起源

インスタント

コーヒー

大金持ちになりそこねた日本人がいた

コーヒーの消費量が最も多いのはアメリカ（EUを除く）で、現在も多くのコーヒーメーカーやコーヒーショップがアメリカ企業だ。だから、当然、インスタントコーヒーもアメリカが発祥と思いきや、なんと加藤了さとという日本人化学者が1899年（明治32年）に発明したといわれているのだ。ただし、この加藤博士は当時アメリカ在住だったから、やはりアメリカ発祥ということになるが……。

加藤博士は液体のコーヒーを真空状態で粉末化するという画期的な技術を開発し、1901年にニューヨークで開催されたパンアメリカ博覧会に「ソリュブル・コーヒー」の名で出品。コーヒー好きのアメリカ人の興味を強く惹きつけた。

ところが、博士はこの技術を企業に売りこもうとせず、特許も取らなかった。そこに目をつけて……というわけではないが、のちにジョージ・コンスタント・ルイス・ワシントンという人物がコーヒーの粉末の特許を取得し、大金持ちになったという。

ものの起源

きしめん

うどん

そのルーツは碁石のように丸かった

きしめんは名古屋地方の名物になっている平打ちうどんで、文献にはじめて登場するのは1750年である。『料理山海郷』という文献に、「薄く打ち、幅5分（1・5センチ）ほどの短冊に切り、汁にて加減するなり」とあるから、現在とほとんど同じレシピで作られていたようだ。なお、きしめんと名乗れるのは、JAS（日本農林規格）で「幅4・5ミリ以上、厚さ2ミリ未満の帯状に形成されたもの」と定められている。

そのルーツをたどると、こねた小麦粉をめん棒でのばし、碁石形の「丸型」に打ち抜いたものを煮たものだった。これが「きしめん」という料理で、次第に麺は平たく引きのばされていったが、名前だけが残ったそうだ。また、紀州では古くから帯状の麺が食べられていて、紀州の麺職人がそれを名古屋に伝えたので「紀州麺」といわれ、それがきしめんになったという説もある。

ものの起源

チヨコレート

カカオ豆は強壯剤として利用されていた

チヨコレートの原料となるカカオ豆の原産地は中南米だ。メキシコの先住民たちは「神からの賜物」と呼び、貨幣がわりに使うほど珍重していた。そのカカオ豆を最初にヨーロッパに伝えたのは、あのコロンブスだった。しかし、コロンブスは利用法を知らずに持ち帰ったため、このときはまったく広まらなかった。

1519年にスペインのコルテスがメキシコを征服すると、先住民たちがカカオ豆の飲料を強壯剤として愛飲していることを知った。その用法とともに再びカカオ豆をヨーロッパへ持ち帰ったところ急激に広まったのだ。ただし当時はココアのような飲料で、固形のチヨコレートが登場するのは17世紀に入ってからである。

ちなみに、日本へチヨコレートが持ちこまれたのは19世紀末。1878年に東京の風月堂ふうげつどうが「貯古齡糖」ちよこれいとうという名前の菓子かしを販売。それから40年後には森永製菓も板チヨコの製造・販売を始めたのだ。

ものの起源

タバコ

はじめて日本に持ちこまれた船には
ザビエルが同乗していた

タバコが日本に持ちこまれたのは1549年といわれている。鹿児島に到着した南蛮船（ポルトガル船）に乗り込んでいた船員たちが、口や鼻から煙を噴きだすのを見て、武士も庶民もおおいに驚いたという。この南蛮船には、日本にはじめてキリスト教を伝えたという宣教師のフランシスコ・ザビエルも乗船していた。

1601年には、ジェロニモという司祭が徳川家康にフィリピン産のタバコの種子を献上し、長崎の桜馬場で栽培がはじまった。そして、1605年ごろには近畿方面で喫煙が流行しはじめたという。当時、タバコは「薬」として吸われていたが、はじめてタバコを吸った人のなかには悶絶してそのまま絶命する人までいた。
もんぜつ

事態を重く見た幕府は「喫煙禁止令」を出したが、闇タバコが横行して、まったく効果がなかった。そこで、しかたなく喫煙を認め、逆に農家へタバコ栽培を奨励するようになったそうだ。

ものの起源

あがり

寿司屋でお茶のことをこう呼ぶのはなぜ？

現在では、お茶のことを「あがり」と呼ぶのは寿司屋だけだ。しかし、そのルーツをたどると意外なことに、江戸時代の遊郭に行きつく。遊郭では遊女にお客がつかないことを「お茶をひく」と言ったため、縁起をかついで「お茶」という言葉を口に出すのを嫌っていた。しかし、そんな遊郭でも、お客が来たらまずはお茶を出さなければならない。そこで、その接待を「あがり花」と呼ぶようになった。

当時、遊郭は流行の最先端だったから、この「あがり花」という呼び方が江戸界隈の飲食店へ広まっていき、やがて寿司屋でもお茶を「あがり」と呼ぶようになったといわれている。

また、箸はしのことをさす「おてもと」、仕事を終えて退出するという意味の「ひける」、仕事をきばきと処理する人をさす「やり手」も、もとは遊郭で使われていた隠語である。

ものの起源

桜餅

江戸の長命寺か、それとも大坂の道明寺か

桜餅といっても、関東と関西ではまったく製法が異なる。関東の桜餅は、小麦粉を水で溶いたものを焼いた生地でこしあんを巻き、それを桜の葉の塩漬けで包んだ菓子をさす。それに対し関西の桜餅は、道明寺粉を蒸して作った餅のなかにあんを詰め、それを桜の葉の塩漬けで包んだ菓子なのだ。

関東以外では、関東風桜餅のことを「長命寺」というが、その名のとおり、享保2（1717）年に、江戸向島の山本新六が創作し、長命寺の門前で売りはじめた菓子である。そして関西の桜餅は、この長命寺の人気に注目した大坂の菓子屋が、天保年間（1830～1844年）に作りはじめたといわれている。つまり、少なくとも桜餅にかぎれば、関東風の方がオリジナルということ。

ちなみに道明寺粉とは、もち米を蒸して天日干ししたものだ。大坂の道明寺で最初に作られたことに由来している。

ものの起源

マドレーヌ

諸説あるものの、女性の名前に由来している

洋菓子好きなら、はずせないのがマドレーヌ。小麦粉と卵、砂糖、バターなどから作った生地を、小さなホタテ貝の貝殻の型に入れてオーブンで焼いたものだ。名前の由来については諸説あるが、代表的なものは次の3つだ。

①枢機卿すうききやうのポール・ドゥ・グロンディが、マドレーヌ・シナモンという女性料理人に作らせたという説。

②フランスにかつて存在したロレーヌ公国で、召使いのマドレーヌ・ポルミエという女性が、合ありあわせの材料とホタテの貝殻を使って作った菓子だという説。

③マドレーヌという少女が、巡礼者のシンボルであるホタテ貝の形をしたお菓子を焼いて、スペインへ向かう巡礼者へ配ったからという説。

どれも本当かは、いまになっては知るよしもないが、いずれにしても、この菓子をはじめて焼いた女性の名前がつけられたことにまちがいはない。

ものの起源

ハチミツ

よつほう

養蜂は『日本書紀』にも登場している

ハチミツは蜜蜂が花蜜を採取したあと、自身の唾液を加えて濃縮したものである——こんな書き方をすると食べる気がしなくなるかもしれない。

ハチミツと人類の関係はとても古く、人類登場とほぼ同時に採取をはじめて、貴重な栄養源として利用していた。最古のハチミツ採取の様子は、紀元前1万8000〜前1万5000年ごろに描かれた有名なスペイン北部のアルタミラ洞窟の壁画に残されている。また、紀元前の古代エジプトでは、すでに養蜂業ようほうがあったという記録も残っている。

日本でも『日本書紀』に「奈良の三輪山に蜜蜂を放った」という記述があり、古くから養蜂が行われていた。ただし、日本人の嗜好にハチミツは合わなかったようで、ロウソクの原料となる蜜蝋みつろうの副産物扱いで、漢方薬を飲みやすくするのに少し加えられたり、強壯剤として使われていた。

ものの起源

立ち食いそば

はじめてホーム上に設置した駅はどこなのか

立ち食いそばのルーツは、江戸時代の屋台までさかのぼる。屋台のそば店が登場したのは、江戸時代の天文年間（1532〜1555年）といわれ、夜に店開きしていたので「夜鳴きそば」や「夜鷹よたかそば」などといわれた。

ちなみに、「夜鷹」とはフリーの娼婦のこと。それがそば屋の屋台の俗称となったのは、客を取る時間帯が夜だったから、夜鷹が好んで食べたから、夜鷹の花代とそばの値段が同じだったから、など諸説ある。

江戸でそば屋の屋台が好評だと聞きつけた上方商人も、夜中に屋台を出しはじめたが、売るのはうどん「夜鳴きうどん」と呼んだ。

立ち食いそば店といえば駅のホームにある「駅そば」を想像する人が多いだろう。このスタイルが登場したのは明治時代。乗り換えなどで停車時間が比較的長い、長野の軽井沢駅、北海道の長万部駅、森駅が最初だそうだ。
おしやまんへ

ものの起源

ピザ

16世紀までは

トマトソースもチーズもなかった

「ピザ」という言葉は、997年に成立したラテン語文献に登場している。しかし、当時のピザは現在とはまったく異なり、単なる平らなパンだった。

現在のようにトマトソースとチーズがのったピザが食べられるようになったのは、スペイン人が南米からトマトを持ち帰り、それからトマトソースが作られるようになった17世紀からだ。

最初のころに食べられていたのは、オレガノとトマトソースをかけて焼いただけのマリナーラというシンプルなピザだった。マリナーラとは「水夫」という意味。すぐにできて安いので、水夫が好んで食べていたことに由来する。

次にシンプルなピザが、バジリコとモッツアレラチーズ、トマトソースをのせて焼いたマルゲリータ。この名前は、色合いがイタリアの国旗の3色に似ているのを喜んだイタリア王妃マルゲリータが自らの名を冠することを許したためだ。

ものの起源

トウモロコシ

宇宙人が与えてくれた奇跡の穀物？

トウモロコシは不思議な穀物だ。いまも原産地や起源がはっきりしていない。そのため「宇宙人が持ちこんだ植物だ」と主張する評論家もいるくらいだ。主な学説では、原産地はメキシコやボリビアなどの中南米付近、起源はいまから5500〜7500年ほど前までさかのぼるのではないかといわれている。

トウモロコシが世界へ広まったのは、アメリカ大陸を発見したことで知られるコロンブスが、1492年の第1回航海でキューバ島へ上陸した際、その存在を知ったためだった。当時の船員の日記には「たいへん美味だ」と書かれていて、当然のようにコロンブス一行はそれをスペインへ持ち帰った。その後、わずか数十年でトルコや北アフリカまで伝わり、16世紀はじめにはインドからチベット経由で中国にも入り、各地で栽培されるようになった。

日本へは1579年にポルトガル人が長崎へ持ちこんだのが最初だが、当時のとうもろこしは実の固い種（現在、主に飼料用とされている種）だったので広まらず、広く栽培されるようになったのは、明治時代にアメリカの甘味種（現在、主に食用とされている）が北海道に持ちこまれてからだ。

ちなみに、世界最大のトウモロコシ輸入国は日本で、その量はなんと年間1500万トン！
その4分の3近くをアメリカから輸入しているという。



ものの起源

アヒル

食用アヒルとして人気の新品種

「新大阪アヒル」

「食用アヒル」と書くとは違和感を覚えるかもしれないが、もともとアヒルはマガモを家畜にしたもので、紀元前の時代から中国とヨーロッパで飼育が始まっていた。「アヒルなど食べたことがない」と思っている人も、北京ダックやフォアグラ、ピータンとして多くの人が食べているはずだ。

ピータンは、アヒルの卵を石灰や炭酸ソーダなどを含んだ泥の中で熟成させたもの。アヒルの卵を鶏卵のようにそのまま食べないのは、独特の臭みがあるからだ。フォアグラはアヒルやガチョウに大量の餌を与えて作る脂肪肝のことだ。

現在、日本で飼育されているアヒルの数は約28万羽にもなる。そのため、アヒルの研究は日本でもさかんで、大阪府農林技術センターが卵肉兼用種の「大阪アヒル」と「北京ダック」を交配して作った新品種「新大阪アヒル」は、肉厚で脂が少ない品種として人気である。

ものの起源

イチゴ

日本人は「オランダイチゴ」の子孫を
食べている

イチゴの仲間には野生種のキイチゴ、クサイチゴ、ヘビイチゴなどがあり、石器時代のころから食用にされていたようだ。ちなみに、スイスのトゥワン遺跡から出た紀元前3800年ごろの穀物スープのなかからも、イチゴの瘦果そうか（イチゴの表面にあるプツプツした種子）が発見されている。

現在、私たちが口にするイチゴはこうした野生種を改良したものではない。18世紀にオランダの農園で南アメリカ原産の「チリイチゴ」と北アメリカ原産の「バージニアイチゴ」を交配して作られた、いわゆる「オランダイチゴ」の子孫なのだ。

日本にこのオランダイチゴが伝わったのは江戸時代の末で、オランダ船が長崎の出島に持ち込んだのが最初だった。しかし、当時のイチゴは観賞用で、果物としては広まらなかった。日本でイチゴが本格的に栽培されるようになったのは明治になってからで、現在では年間およそ20万トンが生産されている。

ものの起源

パイナップル

種がないのにどうやって増やすのか

パイナップルの原産地はブラジルだが、比較的栽培が簡単だったので、温暖な中南米全域で古くから食べられていた。そのパイナップルをヨーロッパにもたらしたのもコロンブスである。西インド諸島のグアドループ島で栽培されていたものを持ち帰ったようだ。また、日本へ伝来したのは江戸時代末期の1830年で、小笠原諸島の父島に移植されたという。

しかし、移植したといってもパイナップルには種がない。では、どうやって植えたのか。じつは、パイナップルのなかには種をつけるものもあったが、種があると食べにくいいため、人が長い時間をかけて種がない品種を作りあげたのだ。

パイナップルを増やすときには、幹の下の方にできる「えい芽（パイナップルを小さくしたような形の株）」や、「吸芽（葉っぱの部分）」を乾燥させたものを土に挿す。すると不思議なことに、新しい株が育ちはじめるそうだ。

ものの起源

チューインガム

歯磨き粉の代用品として広まっていた

チューインガムのルーツ……それは、中央アメリカに自生するサポジラという樹木からとったチクルという樹液を固め、マヤ族がかんでいたところまでさかのぼる。とにかく紀元前から嗜好品として利用されていたらしい。

19世紀に入り、メキシコのサンタ・アナ将軍がチクルをかむと歯が白くなることを発見し、丸く加工して「チクル」という名で売りだした。ただし、このチクルは無味無臭で販売数はのびなかったという。その後、将軍の支援者トーマス・アダムスがチクルに甘味と香料を加え、「アダムス・ニューヨーク」という名で改めて発売。このとき「歯磨き効果がある」とPRしたので売り上げをのばしたのだ。

日本にチューインガムがはじめて輸入されたのは大正時代だが、当時はあまり受け入れられなかった。日本で本格的に広がったのは戦後からで、駐留アメリカ兵がかんでいるのを「カッコいい」と感じたからのようだ。

ものの起源

冷麺

暑い季節に食べるのは本場では邪道？

焼き肉をたらふく食べたあとのシメといえは冷麺。その発祥の地は朝鮮半島だが、詳しく調べてみると、現在の北朝鮮の平壤周辺ピョンヤンが本場とされている。

冷麺が登場する最も古い文献は、1849年の『東国歳時記』とうこくで、12月の季節料理として紹介されている。日本では冷やし中華と同様に夏だけ出す店もあるようだが、本場の平壤周辺では夏ではなく、寒い12月にあえて食べる特別な料理だったという。

寒いといっても、朝鮮半島ではオンドルという床暖房があるから、こたつに入りながら冷たいアイスクリームを食べるような贅沢な気分が味わえたのだろう。

韓国に冷麺が広まったのは1950年に朝鮮戦争が勃発した際、平壤周辺に住んでいた人たちが南へ逃れてきたのがきっかけだった。岩手県の名物になっている「盛岡冷麺」も、北朝鮮から盛岡へ移り住んだ人が考案した料理だ。

ものの起源

銘柄牛

全国どこでも

目にするようになったのはなぜ？

かつて銘柄牛といえば、松阪牛、近江牛、前沢牛など、ごく一部の超高級牛をさした。ところが、最近では全国どこへ行っても〇〇牛、△△牛を目にするようになった。それもそのはずで、全国にはなんと200種以上の銘柄牛があるという。

これは生産者団体が、品種・生産地・飼育法など一定の基準を設け、銘柄牛として認定しているため。つまり、肉質に関係なく名乗ることができるわけだ。意外なところでは、超高級牛肉の代名詞の松阪牛や但馬牛も、肉質に関係なく名乗ることができるという。

これに対し、「一定の品質を超えていなければ銘柄牛を名乗れない」としている厳しい生産者団体もある。たとえば佐賀牛や宮崎牛は、4等級以上の肉質でなければ銘柄を名乗れない。肉質に関係なく名乗れる松阪牛を選ぶか、4等級以上が保証されている佐賀牛を選ぶか……悩ましいところだが、どちらも高くて手が出ない。

ものの起源

豆腐

中国生まれで、とても硬いものだった

豆腐の歴史はとても古い。16世紀の『本草綱目』ほんぞうこうもくによると「豆腐は漢の淮南王劉安わいなんおうりゅうあんに始まる」と書かれている。この人は紀元前2世紀に実在したから、豆腐も4000年以上前に存在していたわけだ。

しかし、中国では豆腐を生食する習慣はなく、発酵させたり、炒める、揚げるなどして食べていた。だから現在の「木綿豆腐」よりさらに水分の少ない硬い豆腐——沖縄の「島豆腐」のようなものが好まれていた。

つまり、柔らかくて生食に適している「絹ごし豆腐」は日本で誕生したのだった。江戸時代に、玉屋忠兵衛という豆腐職人がはじめて絹ごし豆腐を作り、江戸の根岸ねぎしに豆腐料理店「根ねぎしぎしささのゆき笹乃雪」を開いた。「腐」という字を嫌い「豆腐」と書くことがあるが、これも根ねぎしぎし笹乃雪が発祥だった。ちなみに、いまでも元祖絹ごし「豆腐」を食べることができる。

ものの起源

ドロップ

正式名称は「サクマ式ドロップス」

現在のドロップは、砂糖と水飴、香料、着色料などから作られているが、昔のイギリスではラムの砂糖煮を小さく丸め、砂糖をまぶしたものをドロップと呼んでいた。「もっと安く入手できるように」という理由で現在ののような製法に変わったという。日本へ入ったのは江戸時代だ。ヨーロッパから輸入されたが、きわめて高かったため当時は薬として利用され、江戸の薬種問屋が「ズボウトウ」という名で販売したのが最初とされている。

やがてドロップは嗜好品になったが、すべてを輸入に頼っていたから、相変わらず高価だった。そこで、和菓子の製造をしていた佐久間惣治郎が国産ドロップの開発に乗りだし、1908年に完成。これが、あの「サクマ式ドロップス」のはじまりなのだ。ちなみに「サクマドロップ」と思い込んでいる人が多いようだが、正しくは「サクマ式ドロップス」。商標登録もされているのでまちがえないように。

ものの起源

缶コーヒー

列車に間に合わなかったことから生まれた

缶コーヒーがはじめて世に出たのは1876年。アメリカのチェイス・アンド・サンボーンカンパニーという会社が開発したとされている。しかし、アメリカではコーヒーを缶から飲むのに違和感を覚える人が多く、ほとんど定着しなかった。日本初の缶コーヒーは1958年に外山食品が開発した「ダイヤモンド缶入りコーヒー」だという説がある。ただし、残念ながらその詳細は不明だ。

缶コーヒーが定着するきっかけを作った製品は、1969年に上島珈琲が開発した「うえしまミルク入り缶コーヒー」だろう。これは、上島珈琲の創業者・上島忠雄が、列車の出発に間に合わず、コーヒーを飲み残しのまま駅の売店に返したことから生まれた製品だそうだ。

ただし、この製品はミルクの量が多かったから、厳密にはコーヒー飲料ではなく乳飲料になるそうだ。

ものの起源

たい焼き

天然物のたい焼きと養殖物のたい焼きがある

たい焼きは庶民の味だ。その誕生は明治の終わり。東京・麻布十番にいまも続く甘味処「浪花家総本店」といわれる。当時、浪花屋では今川焼きを店頭で作り販売していたが、どうも売れ行きがかんばしくなかった。そこで亀の形の「型」を特注して「亀焼き」を作ることにした。しかし、売れ行きは減る一方。それなら、めでたいタイの形にしたらどうだろうと考え、タイの「型」を再発注。こうして出来上がったたい焼きは飛ぶように売れ、浪花屋の名物になったという。

ところで、たい焼きの型には、1匹ずつ焼き上げるタイプと、複数を一度に焼きあげるタイプがある。たい焼き愛好家のあいだでは、前者を「天然物」、後者を「養殖物」と呼び、前者がより珍重されるとか。

ちなみに、浪花屋で出されるのはもちろん天然物。1916年に東京・人形町で創業した「柳屋」のたい焼きも天然物だ。

ものの起源

国産ウイスキー

大正時代にはアルコールに

甘味料や香料などを加えていた

ウイスキーは大麦やトウモロコシなどの穀類を発酵させてから蒸留したアルコール度の高いお酒だ。ウイスキーという名前がはじめて登場するのは、15世紀に入ってからだ。アイルランドでは紀元前からこの方法で蒸留酒が造られていたようだ。日本にウイスキーを伝えたのは1853年に来日したペリーで、幕府側の役人や通訳にウイスキーが振る舞われたという記録が残っている。

大正時代に入ると日本でもウイスキーが製造されるようになったが、当時はアルコールに甘味料や香料などを加えて作られた「イミターションウイスキー」だった。そんななかで本格ウイスキーを作ろうと決意したのが、赤玉ポートワインの販売で莫大な利益を得た寿屋ことぶきや（現在のサントリーホールディングス）の鳥井信治郎だ。鳥井はスコットランドで本格的なウイスキー造りを学んだ竹鶴政孝を迎えてウイスキーの生産に着手。1929年に本格ウイスキーの販売を始めたのだった。

ものの起源

キャベツの千切り

日露戦争がきっかけで、
やむをえずつけ合わせた

トンカツに欠かせないつけ合わせは、キャベツの千切りだろう。食べ放題の店もあり、「キャベツを食べるためにトンカツ屋へ行く」と言う人もいるほどだ。

トンカツにキャベツの千切りが添えられるようになったのは1904年から。日本ではじめてトンカツをメニューに加えた東京・銀座の洋食店「煉瓦亭」によると、それまでトンカツに添えられるのは温野菜やフライドポテトだったという。

キャベツの千切りに変更されたのは、日露戦争の勃発が原因だった。日露戦争では多くの男性が戦場へ送られ、煉瓦亭でも料理人が召集されてしまった。人手が足りず、手間のかかる温野菜やフライドポテトを作れなくなったため、やむをえず生のキャベツを切るだけですむ千切りをつけ合わせてみた。すると「口がさっぱりする」と好評だった。これがきっかけで、他店でもトンカツにキャベツの千切りが添えられるようになったそうだ。

ものの起源

まんじゅう

饅頭

ルーツを聞くと食べるのが怖くなる

観光地へ行くと、必ずといっていいほど目にするのが饅頭だ。観光地の名前や名物の名がつけられていて、航空自衛隊の浜松基地の売店で売られている饅頭は、「ブルーインパルスかすてら饅頭」と命名されている。

そのルーツを探ると「諸葛孔明が生贄しよかつこうめいのかわりに、羊や豚の肉を小麦粉に練りこみ、人の頭の大きさにして祭壇に供えたのがはじまり」という、ちょっと怖い話にたどりつく。この出来事以降、中国では肉入りの丸い点心を「蛮頭」と呼ぶようになり、それが食べ物らしい「饅頭」と書き改められたという。だが、「頭」という漢字はそのまま使われているところが、そこはかたなく恐ろしい。

日本に饅頭が伝わったのは、1241年か1349年とされている。僧侶が中国から帰国した際に伝えたとされるが、僧侶は肉食しないので、具が肉から大豆を煮たあんこに変わって現在に至っているという。

ものの起源

給食

とみおか

あの世界遺産・富岡製糸場で始まった

給食と聞くと、ほとんどの人が学校で出される昼食をイメージするはずだ。しかし、日本の給食史をさかのぼってみると、意外なところにたどりつく。そこは、世界遺産に登録された群馬のとみおか富岡製糸場なのである。

1872年（明治五年）に開業のこの製糸場では500人以上の女工が働いていた。それだけの数の女工が、1人ひとり弁当を作るのは非効率である。そこで、開業と同時に3食ともに給食が提供されたという。メニューは、朝食はご飯と味噌汁、漬物。昼食はご飯と煮物。夕食はご飯と干物という質素なものだったが、毎月1日、15日、28日にはお赤飯と特別なおかずが出されたという。

学校の給食が始まったのは、それから17年後の1889年だ。山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）の私立忠愛小学校で提供されたもので、メニューはおにぎり、焼き魚、漬物だったそうだ。

缶詰を最初に利用した軍人は誰？

A のぎまれすけ
乃木希典

B ナポレオン

C ネルソン

缶詰は、1804年にフランスの食品加工業者が、ナポレオンの遠征を助けようとして考えたといわれている。ただし、当時の缶詰は広口瓶びんにコルクの栓をするもので、重くて破損しやすいという欠点を抱えていた。

現在のようなブリキ製の缶詰を開発したのは、イギリス人商人のピーター・デュランドで、彼には国王ジョージ3世から特許が与えられた。これで食品の長期保存・携行が可能になり、1812年にデュランドの特許を利用した缶詰工場がイギリスに完成。早速、翌年から缶詰が英国陸海軍に納入されるようになった。

ただし、当時の缶詰はハンダによって封印されていたので、ハンダに含まれる鉛で中毒になる人もいたという。

豆知識 日本初の缶詰は1871年に長崎で作られたイワシの油漬け

バレンタインデーにはなぜチョココレートを贈る？

- Ⓐ その日にマリアが信者に贈り物を与えた
- Ⓑ その日に司祭が死刑になった
- ◎ 菓子店が宣伝した

バレンタインデーは、ローマ帝国時代の3世紀ごろに実在した司祭バレンチヌスの名前から来ている。バレンチヌスは、当時禁止されていた軍人と恋人たちの結婚を密かに認めていた。しかし、それがやがてクラウディウス皇帝にばれてしまう。

クラウディウス皇帝はキリスト教を厳しく弾圧していたため、バレンチヌスは捕らえられ、2月14日に絞首刑に処せられてしまった。のちにバレンチヌスは聖人となり、2月14日は「愛の誓いの日」といわれるようになったのだ。

この日が日本で「女性が男性にチョココレートを贈る日」になったのは、1936年に菓子店の「モロゾフ」が「恋人に贈り物をする日」として宣伝しはじめたから。

豆知識 海外では男性から女性に告白してもよい日とされている

クロワッサンが三日月型なのはなぜ？

- Ⓐ 餃子の形をまねた
- Ⓑ トルコ国旗の三日月をまねた
- Ⓒ 小麦の不作で材料が高騰したため

クロワッサンはフランス語で「三日月 (croissant)」という意味だが、クロワッサンが誕生したのはオーストリアのウィーンだった。1683年のこと、あるパン職人が、オスマン・トルコ軍がウィーンを急襲しようとしているらしいと気づき、宮廷に伝えた。その通報のおかげで、オーストリア軍はオスマン・トルコの急襲部隊を一網打尽にできた。

この功績を称え、オーストリア国王は、ウィーン市内のすべてのパン店にオスマン・トルコの国旗に描かれている三日月形のパンを焼く許可を与えた。市民たちのあいだでこの三日月形パンは大人気になり、やがてウィーンの名物になったそうだ。

豆知識 フランスにクロワッサンを伝えたのはマリー・アントワネット

柿の種が誕生したきっかけは？

- Ⓐ あられの金型を踏んでしまったため
- Ⓑ 余った餅を再利用した
- Ⓒ 喉につまらない小さなあられを作ろうとした

柿の種の考案者は、新潟県長岡市の「浪花屋」なにわや創業者・今井與三郎よしみさぶろうといわれている。当時のあられは、小判型の金型で餅を手作業で切り抜いて作っていた。ある日、今井がその金型を踏みつぶしてしまった。しかし、どんなあられができるのかとその金型で作ってみると、ゆがんだ形になったのだ。

それを取引先に見せたところ「これは柿の種に似ていますね」と言われて1924年に誕生したのが、現在の柿の種である。

ちなみに、柿の種状のあられは以前からあったので「柿の種」は一般名称扱いとなり、浪花屋は「元祖柿の種」を商標登録した。

豆知識 農村風景を描いた缶の図柄は1961年の誕生

日本ではじめてカステラを作った人の職業は？

Ⓐ 和菓子職人

Ⓑ 医師

Ⓒ 船大工

カステラが日本にもたらされたのは戦国時代末期。ポルトガル人宣教師が、長崎に西洋医学とともに伝えた。ただし、ポルトガルにカステラという菓子はなく、11世紀にイベリア半島に存在した「カステイリャ王国」の名前が変化したもので「カステイリャ王国で作られた菓子」という意味だった。はじめは病人食と思われていたが、江戸時代になると茶席でも出され、お金持ちのあいだで流行した。

日本ではじめてカステラを作ったのは殿村寿助という船大工だったといわれる。ポルトガル人から製造法を学び、日本人の口に合うように独自の改良を重ねて現在のカステラを作りあげたという。ちなみに、長崎県にあるカステラの老舗「福砂屋^{ふくさや}」は、殿村ゆかりの店である。

豆知識 栄養満点だったため当時のカステラは病人の治療食とされていた

野沢菜はどこから移植されたのか？

- Ⓐ 新潟 Ⓑ 山梨 Ⓒ 京都

長野県の名産品・野沢菜漬けになる野沢菜には葉と茎くきのイメージしかないが、昔は「蕪菜」と呼ばれていた。その名のおり、野沢菜にも蕪はある。しかし、市販の蕪とは比べものにならないほど固く、食べられたものではない。それなのになぜ「蕪菜」と言われているのだろう。

それは、1756年ごろに京都を訪ねた野沢温泉村にある健命寺けんめいの住職・晁天園瑞和尚こうてんえんずいが「天王寺蕪」の種を持ち帰り、村で栽培をはじめたからといわれている。天王寺蕪は、江戸時代に京都・大坂の名産品として知られた野菜で、与謝蕪村も「名物や 蕪の中の 天王寺」と詠んだほど有名だった。これが、野沢温泉村の土壌で変化し、現在の野沢菜になったといわれている。

豆知識 野沢菜漬けと呼ばれるようになったのは大正時代から

第
2
章

文化のはじまりおもしろ雑学

——「身の回りのもの」の、思いもよらないルーツ！



ものの起源

名刺

江戸時代の武士も持ち歩いていた

ヨーロッパでは17世紀から、トランプの裏に住所氏名を書いて相手に渡す習慣がはじまった。18世紀半ばに専用の名刺が作られたという。それなら「名紙」と書くのがふさわしいと思うのだが、実際には「名刺」という漢字があてられている。

じつは中国の後漢時代（25〜220年）に、木や竹を薄く削ったものに姓名を記したものを「刺^シ」といい、目上の人へ面談を求めるときに屋敷の前の箱に入れる習慣があり、「刺」が紙製になっても漢字だけは残ったというわけだ。

ちなみに、現存する最も古い名刺は、三国時代の呉の武将の墓から発見され、西暦240年前後のものと考えられている。

日本人の最古の名刺は、江戸時代の1778年に松前藩の代官がロシアの役人に渡したものが、ロシアの国立古文書館で発見されている。江戸時代の武士も名刺を持ち歩いていたというのが、ちょっと滑稽ではないか。

ものの起源

君が代

最初に作曲したのはイギリス人だった

「君が代」は1870年（明治3年）に作られた日本の国歌だ。歌詞の原型は『古今和歌集』の題知らず、詠み人知らずの「我が君は 千代にやちよに さざれ石の 巖いわおとなりて 苔こけのむすま

で」とされている。日本の国歌らしい歌詞だが、曲には意外な事実がある。最初に「君が代」に曲をつけたのは日本人ではなく、横浜のイギリス公使館の軍楽隊長のジョン・フェントンだったのだ。

こうして完成した「君が代」は、1870年にはじめて明治天皇の前で披露されたが、威厳が感じられないという意見が噴出。そこで改曲されることになったが、5年経っても6年経っても納得いくものが完成しない。10年後に宮内省楽部伶人（雅楽の演奏者）長の林廣守が選んだ雅楽風の曲が採用されて、現在の「君が代」が誕生した。そして、1893年に文部省が「祝祭日の儀式に必ず歌うこと」と、全国の学校に通達を出してから一般に浸透していったのだ。

ものの起源

水洗トイレ

武田信玄は人力水洗トイレを愛用していた

最近の子どもは汲み取り式トイレが恐ろしくて用を足せない——こんな話をすると、「まだ汲み取り式トイレがあるの?」と聞き返されるかもしれない。でも、日本の下水道普及率は全国平均でも約80%ほどで、なかには徳島県のように普及率が約18%という低い県もあるから、まだまだ汲み取り式に遭遇する可能性はあるようだ。

水洗トイレの歴史は意外と古い。エーゲ海に浮かぶクレタ島に残るクノッソス第2宮殿の遺跡を調査したところ、紀元前1600〜前1500年ごろの水洗トイレが発見されている。また奈良県の纏向遺跡まきむく（3〜4世紀ごろ）でも発見されているし、武田信玄は用便後に家臣が水を流す人力水洗トイレを愛用していたらしい。現在のような水洗トイレが日本にはじめて登場したのは明治のこと。横浜の外国人居留地に下水道が完備されて設置可能になった。

ものの起源

鏡

製造に1カ月以上かかったベニス製のガラス鏡

鏡に映った自分の姿を自分だと認識できる能力を「自己鏡映像認知能力」という。人間以外にこの能力を持っているのはチンパンジーやイルカ、象、ブタなど、ごく一部の動物だけのだ。

鏡の歴史は古く、トルコのチャタル・ヒユク遺跡（紀元前6000年ごろ）からはガラス質の黒曜石が発見されている。また、エジプトのサツカラ遺跡（紀元前2300年ごろ）で発見された壁画には、少女が手鏡のようなものを持って踊っている姿が描かれ、これが金属製の鏡の最古の資料だ。

ガラス製の鏡が最初に作られたのは1317年。ガラス細工で有名なイタリアのベニスでガラス板の上に薄い錫箔すずを置き、その上から水銀を流すという方法が開発された。この方法だと完成までに1カ月以上かかり、たいへん高価な商品になったが、いままででない美しい映り具合に魅了され、貴婦人たちが争って買ったという。

ものの起源

ガラス

画期的だった「吹きガラス」の発明

ガラスにも長い歴史がある。紀元前4000年ごろにはすでに製造がはじまっていたようだが、その製造法は偶然に発見されたらしい。古代ローマの博物学者プリニウスは「天然ソーダを運ぶ商人たちが海岸で食事をする際、荷物の上に大鍋をのせた。すると海岸の砂とソーダが混ざり合ったものが加熱され透明な物体ができた。これがガラスの起源である」と記している。

当時のガラス製品は、作るのに時間と手間がかかり、とても高価だった。ところが紀元前1世紀ごろ、シリアで金属のパイプを使って息を吹き込み、グラスや食器、花瓶などを短時間で作れる「吹きガラス」という技法が発明されて、ガラス製品の価格は200分の1以下にまで暴落した。まさに古代のバブル崩壊だ。

日本にガラスが伝わったのは弥生時代（紀元前300〜後250年）で、飛鳥時代（7世紀ごろ）からは国内でもガラス製品が作られるようになった。

ものの起源

化粧

「メイクアップ」は「厚化粧しすぎ」の意味だった

化粧の歴史はたいへん古く、呪術的要素があったことから、人類誕生と同時に存在していたと考えられている。最古の化粧の記録は、紀元前1200年ごろのエジプトで発見された壁画に描かれている人物で、目や唇に色を加えているのがわかる。また有名なツタンカーメンの黄金マスクも、目の周囲に青いアイラインやアイシャドウを入れているのがわかる。つまり、古代エジプトでは、男性も化粧をしていたわけだ。ただし、彼らがアイラインやアイシャドウを入れていたのは、眼病をもたらす虫を近づけないためだった。

日本では、3世紀後半の古墳から出た埴輪の顔や体の一部に赤い塗料が塗られているのが発見されていて、当時の人の化粧法がうかがい知れる。

化粧のことを「メイクアップ」というが、この言葉をはじめて使ったのは17世紀の詩人リチャード・クラシヨール。当時は厚化粧を揶揄する意味で使われたようだ。

ものの起源

マッチ

使うのも命がけだったマッチの開発秘話

最近「炎を見たことがない」という子どもが多いという。火を使わない電磁調理器を使う家庭が増えているし、子ども前でタバコを吸う人の割合も激減しているから当然かもしれない。だから、キャンプやお墓参りに行って大人がマッチをすり、炎が上がるとびっくりするそう。

マッチが発明されたのは1827年だった。イギリスのジョン・ウォーカーという化学者が、軸木の先に塩素酸カリウムと硫化アンチモンを塗ったマッチを考案して販売した。しかし、火つきが悪かったため、商業的には失敗に終わった。

この火つきの悪さを解消したのが、1830年にフランスの化学者シャルル・ソーリアが発明した黄燐おうりんマッチだ。しかし、黄燐は60度で自然発火するので保管が難しく、しかも猛毒なので使ったあとには手洗いが必要という、なんとも恐ろしいものだった。

現在は、タバコの箱に「健康に害があります」という意味の注意書きが印刷されているが、当時はマッチに「ガスを吸わないこと。肺が敏感な人の使用は厳禁」と印刷されていたそう。

現在のマッチに使われているのは安全な赤リンで、1845年にオーストリアの化学者アントン・シュロッターが発見し、スウェーデンのヨハン・ルンドストレームがマッチに利用すること

を考え出して、1855年に特許を得たものだ。



ものの起源

カラオケ

バンドマン経験者だからこそ思いついた

かつて、アメリカの週刊誌『タイム』が「20世紀に最も影響力を与えたアジアの20人」という特集を組んだことがある。そのとき、昭和天皇とともにランクインした日本人が井上^{だいすけ}大佑氏だった。

じつはこの井上氏、「カラオケ」の発明者だ。井上氏は大手証券会社を経てバンドマンになったという異色の経歴の持ち主。音楽業界に携わったことで、歌をうたいたがっている素人が多いのに気づいたという。そして1971年、客が好きな歌をうたえるよう、神戸のスナックに、プロ用の伴奏曲が入った8トラックのテープを自由に選べる「エイトジューク」という機械を設置した。これが大人気になり、またたく間に全国に広がっていった。

ちなみにカラオケという言葉も、もともとは業界用語だ。伴奏だけを録音したテープやレコードのこと。「空（から）のオーケストラ」という意味である。

ものの起源

引きこもり

平安時代の若き秀才は引きこもりだった

厚生労働省によると、「仕事や学校に行かず、6カ月以上続けて自宅にこもってしまう」のが「引きこもり」だそう。最近の問題と思うだろうが、文献を調べてみると、なんと平安時代にも引きこもる人がいたという。

その人の名は小野篁。おののたかむら平安時代の高官だった小野岑守おののみねもりの長男で、『小倉百人一首』に歌が選ばれるほどの才人だった。

篁は遣唐使に選ばれたのだが、それを拒み、屋敷に引きこもってしまった。当時、遣唐使に選ばれるのはそれ以上ない名誉だった。にもかかわらず篁がそれを拒んだのは、「欠陥がある」とわかっていて船へ乗ることを命じられたかららしい。

しかし嵯峨天皇の怒りを買って、篁はおき隠岐島へ流されてしまった。つまり、結局は船に乗る羽目になったというわけ。とはいってももの隠岐島には無事に到着し、2年間の流人生活を送った後に都へ戻り、左大弁という高い地位にまでのぼりつめたそう。

ものの起源

映画と電話

アメリカとフランスが論争する理由

「映画と電話を発明したのは誰か？」という質問をアメリカ人になると、例外なく「映画はトーマス・エジソンで、電話はグラハム・ベル」という答えが返ってくる。ところが同じ質問をフランス人に向けると、「映画はルミエール兄弟で、電話はシャルル・ブルサール」と返ってくることが多い。この違いはどうしてなのだろうか。

エジソンが1889年に発明した映画は、キネトスコープといって1人しか鑑賞できないものだった。それに対し、ルミエール兄弟が1895年に発明したのは複数の人が楽しめる「シネマトグラフ」。「たくさんの人が楽しめなければ映画とはいえない」というのがフランス人の主張だ。また、1876年にはじめて電話で音声を送るのに成功したのはグラハム・ベルだ。ところが、その理論は1854年にシャルル・ブルサールが提案したものだたと、今も「はじめて」論争が続いている。みなさんはアメリカとフランス、どちらに軍配を上げるだろうか。

ものの起源

駅伝競走

古代ローマ時代は

1日に225キロを走破した

長距離コースをいくつかの区間に分け、複数のチームがたすきを手渡しながらリレーし、合計タイムを競う……それが「駅伝（正確には駅伝競走）」だ。東京遷都^{せんと}50周年を記念して1917年に京都三条大橋〜上野不忍池間で行われた「東海道駅伝徒歩競走」が最初の「駅伝」とされ、現在では「フルマラソンと同じ42・195キロを6区間に分けて走る」という国際基準もできている。

まさに日本で発達した陸上競技だが、ルーツをたどっていくと古代ローマまでさかのぼるといふ説がある。ただし、当時の駅伝で走ったのは馬だった。初代ローマ皇帝のアウグストゥスが情報を迅速に伝えるため40〜50キロごとに駅を配置し、いつでも走りだせるように優秀な馬を置いたのが起源という。

馬を利用していただけあって、1日の移動距離は225キロにおよんだらしい。ちなみにこれは、現在の箱根駅伝で1日あたり走る距離のほぼ2倍だ。

ものの起源

じゃんけん

最初はへビ、カエル、ナメクジの戦いだった

簡単に勝ち負けを決められるので、よく利用されるのが「じゃんけん」だろう。「ぐー(石)」は「ちよき(ハサミ)」に勝つが「ぱー(紙)」には負ける。しかし「ぱー」は「ちよき」にはかなわない。この発想は、古代中国発祥の「三すくみ」の思想からといわれている。ただし、この三すくみはへビ、カエル、ナメクジの相関係数だった。へビはカエルを食べてしまうがナメクジには弱い。しかし、ナメクジはカエルに食べられてしまうという構図だ。

これが、日本に伝わって「三すくみ拳^{けん}」または「虫拳^{むしけん}」となり、より身近にある「石」「ハサミ」「紙」に置き換えられて江戸時代末期に成立したのが、現在の「じゃんけん」だとか。でも、日本学の専門家セツプ・リンハルト博士は、明治の初期から中期にかけて九州で成立したものだと言っている。どちらが正しいかは「じゃんけん」で決めた方がいいかもしれない。

ものの起源

バンザイ

死に怯える始皇帝の

長寿を願う掛け声だった

ひいきのチームが優勝したり、日本人選手が活躍したときに思わず飛びだすのが「バンザイ」。これを漢字で書くと「万歳」になるが、もともとはこれに「一」を加えた「一万歳」を「バンザイ」と読んでいたようだ。

バンザイの掛け声がはじめて使われたのは、紀元前3世紀とか。当時、中国を支配していた始皇帝は不老不死の秘薬を懸命に探していた。そのため、日本にまで密使を送っていたことは有名なだ。

しかし、いつまで経っても秘薬は見つからなかった。歳を重ねて死に怯えた始皇帝は、「私が一万歳まで生きることが願うように」と、一般大衆に「バンザイ」という掛け声で自分を称えるように求めたのだ。

この習慣が日本にも伝わり、嬉しいときに両手を高々と上げる日本の風習と交わり、めでたいときに「バンザイ」と叫ぶようになったといわれる。

ものの起源

豆まき

大豆を使って鬼の目や凶事の芽をつぶす

季節の変わり目のことを「節分」という。つまり、節分は1年に4回あるが、昔から最も重んじられてきたのが立春の前日の「春の節分」だった。

春の節分に欠かせないのが「豆まき」だが、この風習は室町時代に始まったようだ。それ以前の平安時代にも、節分に鬼を追う「鬼やらい」という行事はあったが、豆まきはなかった。節分に豆まきをするようになったのは、当時、農家で行われていた「豆占い」が関係しているという。囲炉裏の灰の中に大豆を並べ、焦げ目の具合でその年の天候や豊作を占った風習だ。占いに使うので大豆が神聖視されるようになり、「まめ」が「魔目」に通じるので、大豆を使って「鬼の目をつぶす」「凶事の芽をつぶす」ようになったといわれている。

地方では、節分にイワシの頭とヒイラギを門口に飾る風習が残っているところが多いが、これも鬼が家のなかに入ってくるのを防ぐための対策だ。

ものの起源

駅ビル

はじめての駅ビルも日本一の高さの駅ビルも

大阪にあり

駅ビルは最先端の流行発信基地になって、たいへんな混みようだ。大阪阿部野橋駅あべのぼしの駅ビル「あべのハルカス」に至っては、日本一の高さ（2018年現在）で、このビル目当てに来自する外国人観光客も多いという。

以前の駅ビルは、電車に乗ったり乗り換えたりするために通り過ぎるだけの存在だった。駅ビルを併設してショッピングセンターの役割を果たさせようと考えたのは、阪急電鉄の創業者として知られる小林一三いちぞうだ。

1920年、小林は阪急梅田駅に阪急本社ビルディングを建設。1階を白木屋（現在の東急百貨店）に貸し出したところ予想以上の成果をあげたため、この発想が全国へ広まっていったという。ちなみに東京の駅ビルの歴史は、1931年に開業した浅草雷門駅（現在の浅草駅）に松屋が入居したことで始まったそうだ。

ものの起源

枕

昔の日本人は金庫がわりに使っていた

合わない枕を使っていると、脳に送られる血液量が30%も減少するという研究結果がある。これでは安眠できなくて当然だ。

そこまで科学的に考えていたわけではないだろうが、くだいた石の上に頭をのせていたアウストラロピテクス（約400万年前から約200万年前に生存）の化石が発見されたという例もあるほど、枕と人類には長い関係がある。日本で発見された最古の枕は奈良県の燈籠山古墳とうろうやまや竜田たつた御坊山古墳ごぼうやまで発見されたもの。焼き物や石、琥珀こはくなどで作られていたが、これは埋葬用らしい。

日本人がかつて使っていた枕といえは、箱枕が有名だ。結髪やちよんまげをくずさないように箱の上に薄いクッションを取りつけてある。箱には引き出しがついているものが多く、金品や貴重品をそこにしまったのだ。泥棒のことを「枕探し」というのは、ここから来ている。

ものの起源

原稿用紙

江戸時代は地色が茶色で罫線が白色だった

レポートも企画書もワープロソフトで書いて、デジタルデータで提出するのが当たり前で、原稿用紙を見かけることはほとんどなくなった。先生や上司に「原稿用紙〇〇枚分の作文（レポート）を提出せよ」と命じられ、頭を抱えたりしたシニアにとっては、ちょっと寂しいかもしれない。

原稿用紙の由来をたどってみたら、予想外に難しかった。15世紀にヨハネス・グーテンベルクが印刷機を発明したころはあったらしい。だが、原稿用紙は印刷が始まると廃棄される運命なので、ほとんど残っていないのだ。

しかし、日本には江戸時代の考証学者・藤井貞幹が『ていかん好古日録こうこにちろく』出版で18世紀末に書きこんだ原稿用紙が残っていて、これが最古だと考えられている。当時の原稿用紙は20字×10行の200字詰め、文字を書き入れるところが茶色、罫線が白という現在とは逆の色使いだった。

ものの起源

エイプリルフール

由来はあいまいで不思議すぎる

4月1日はエイプリルフールと呼ばれ、社会の秩序を乱すようなことでないかぎり、うそをついたりイタズラをしてもよい日とされる。ほとんどの宗教や民族の価値観で「うそは好ましくない」とされている点を考えると、なんとも不思議な風習だ。しかも、この風習がどのようにして始まったかにも諸説あるのだ。

日本にエイプリルフールが伝来したのは、江戸時代のようにだ。中国で「衆愚節」しゅうぐせつや「万愚節」ばんぐといわれていたエイプリルフールの風習が伝わったものだが、当時は「不義理の日」と呼ばれ、現在のようにうそをついたりイタズラをする習慣はなかった。それがエイプリルフールと呼ばれ、うそをつくのを楽しむようになったのは、大正時代に入ってからなのである。

ちなみに、エイプリルフールや「4月馬鹿」という表現は、だまされたりイタズラされた人を「馬鹿」とみなしたことに由来している。

ものの起源

ラジオ体操

初めに考えたのは

アメリカの保険会社だった

ラジオ体操と聞いただけで、あのピアノ曲が思い浮かぶ人は少なくないはずだ。それほど浸透しているのは、NHKラジオで毎日オンエアされているからだろう。ラジオ体操のオンエアが始まったのは1928年8月だから、すでに90年以上続いている。他に類を見ない長寿番組だ。ただし、最初は大阪放送局だけで伴奏もなかったというから、現在のイメージとはずいぶん違っている。

東京放送局でラジオ体操が始まったのは、同年11月で、天皇の御大典記念事業の一環として放送が開始され、翌年から全国放送になった。

ラジオ体操のコンセプトが日本独自のものと思いついて入っている人も多いと思うが、最初の考案者はニューヨークのメトロポリタン保険だった。同社が新しい保険加入者を獲得するために始めた

「Setting up exercise」というラジオ体操番組の評判を聞きつけ、ていしん通信省（現在の総務省）が日本へ導入したものであったのである。

ものの起源

家紋

公家が牛車を見分けるために考案した

最近、自分の家の「家紋」を知らない人が増えて葬儀社が困っているそうだ。どうしてもわからない場合は、最も無難な植物を図案化した家紋をつけるという。そんなことがないように、自分の家紋を確かめておいてはいかがだろうか。

家紋のはじまりは、平安時代の初期に公家が牛車で宮中に入入りする際、自分の車を識別するために取りつけた「印」にまでさかのぼる。この印が、やがて冠婚葬祭にも利用され「家紋」として使われたと考えられている。

平安時代から武士が台頭して各地で戦が起きるようになると、敵・味方を判断するために武士も家紋を利用するようになった。そのため、公家の家紋には芸術的要素が多く、武家の家紋は遠くからでもわかりやすいシンプルな図柄になっていることが多い。また、一般庶民の場合は、明治維新以降に苗字みょうじと同時に考案されたので、苗字に関連している家紋が多いようだ。

ものの起源

華族制度

ぎゆうじ

公家と武家が国政を牛耳るために
考えだした

明治維新の版籍奉還で全国の大名は領地と特権を失った。そのかわりに新政府から受け取ったのが「華族」という特別な身分だ。また、公家と呼ばれた人たちも同時に華族となり、合計427の華族が誕生した。ひとくちに華族といっても、公爵、侯爵、伯爵、子爵、男爵と身分は細分化され、最上位の公爵を賜ったのは五摂家、徳川家宗家、三条家、岩倉家、島津家、玉里島津家、毛利家の11家だった。たまざとしまつ

華族制度が創設された理由は、明治維新後も公家、武家が国政に影響力を残したいと考えたからだろうだ。それは明治維新後も政治の主導権を握っていたのが、華族出身者のみで構成される貴族院だった点からもわかる。

ちなみに、「貴族」ではなく「華族」と命名された理由はよくわかっていない。制度作りにあたった伊藤博文らは、誰一人として「華族」という名称を提案していなかったというから、なんとも不思議な話だ。

ものの起源

握手

中国でも古くから行われていた

握手は西欧圏で行われてきたもの——と思いがちだが、じつは中国でも古くから習慣としてあった。たとえば5世紀に成立した『後漢書』ごかんじよにも、「握手はどちらもごく自然に行うことである」と出ている。

最も古い握手の記録は、紀元前9世紀にアッシリア王とバビロニア王が和解のための握手をしている姿を浮き彫りにしたレリーフである。これは、アッシリアとバビロニアが和睦した記念として作られたレリーフと考えられているので、当時から握手は友好を示すために行われていたようだ。

また、握手は利き腕の右手であることが多いので、「私は武器を持っていませんから、信頼してください」ということを相手に伝えるためにはじまったという説や、「フェデ・リング」という夫婦の誓約が由来だという説もある。

ものの起源

銭湯の富士山

何を描けばいいか思いつかなかったから誕生した

銭湯といえ、つきものなのが富士山の背景画だ。といっても、見たことのない人がかなり増えていと思うのだが。その富士山をはじめ描いたのは、画家の川越広四郎だという。

依頼主は1971年まで東京都千代田区で営業していた「キカイ湯」の主人・東雄三郎だが、「富士山を描いてほしい」と頼んだわけではないらしい。

東は、お風呂で騒ぎ回る子どもを見て「楽しい絵があればおとなしく湯に入ってくれるだろう」と考え、子ども連れが多かった女湯に自動車と汽車の絵を注文した。しかし、男湯に何を描くべきかを思いつかなかった。そこで川越に任せるところ、立派な富士山の絵が仕上がったのだ。

この絵は大評判になり、遠方からも客が訪れた。それにあやかろうと他の銭湯もまねをして、富士山の絵が当たり前になっていったそうだ。

ものの起源

上野の西郷像

西郷に親近感を抱く明治天皇が
大金を寄付した？

西郷隆盛は西南戦争を起こして賊徒ぞくととして政府軍に追われ、鹿児島の城山で戦死した。のちに復権したとはいえ、その銅像がなぜ上野公園に建っているのか。

じつは明治天皇は西郷に強い親近感を持っていた。それは重臣たちの要請によって「西郷は賊徒」という勅令ちよくれいを出さざるをえなくなると、務めや行事を拒否する日がしばらく続いたことでもわかる。

西郷の戦死後も、明治天皇はことあるたびに彼の復権を主張していた。しかし、西郷の賊名を取り除けたのは1889年の明治憲法公布の特赦だった。これと同時に持ちあがったのが、「西郷の銅像を造り、彼の功績を後世に残す」という動きだった。2年後、政府から銅像建設の許可が下り、さらにその後には宮中から製作費として金5000円が贈られた。現在の価値で1000万円以上だが、明治天皇の働きかけがあったと思われる。

ものの起源

北枕

縁起が悪いが、じつは健康にいい？

頭を北に向けて寝るのは縁起が悪いとされている。これはお釈迦様が沙羅さらかの木の下で亡くなられた時に、頭を北、顔を西に向けていたと伝えられるから。そこで死者を寝かせるときに頭を北にするようになり、「死者と同じように寝るのは不吉」とされたのだ。では死者を北枕に寝かせられない場合はどうするのか。お釈迦様は顔を西に向けていたといわれ、西枕にするのが作法だという。

ただし、健康のことを考えると、北枕は悪くないとされている。頭を北にして寝ると、足が南になって頭寒足熱の状態になり、安眠できるといわれるのだ。さらに、南北に体を横たえていると地磁気が体の中をまっすぐ通り、血行が促されるという説もある。お釈迦様も、頭を北に向けていると体が楽だったため、その姿勢で亡くなったのではないかともいわれている。スペースの都合で北枕でしか寝られないという人も、さほど心配する必要はなさそうだ。

ものの起源

宝くじ

当選してもらえるのは賞金ではなかった

宝くじの原型が生まれたのは、古代ギリシアの選挙がきっかけだったとか。紀元前500年ごろのギリシアでは、汚職を防ぐため、くじ引きで政治家を決めていた。このくじ引き選挙が面白いので、誰が当選するかを予想するくじが発売され、当選者に賞金が与えられるようになったそう。

日本最古の宝くじは、1620年ごろに摂津美濃（現在の大阪府）にある瀧安寺（りゅうあん）ではじまった「富法会」（とみほうえ）だといふ。正月の7日までに参拝した人たちが自分の名前を書いた木の札を桶の中に入れ、7日の夜に僧侶が3枚の札を選び出し、その三人に福運のお守りを授けたというものだ。

その後、社寺の再建や修理の資金を集めるため、賞金付きの宝くじ（富籤）（とみくじ）がさかんに発売されるようになった。ただ、射幸心（しゃこうしん）をあおりすぎるので禁止される。ところが、第2次世界大戦末に、禁止した張本人の政府が戦費調達のために「勝札」という宝くじを発行したのだ。しかし、この勝札は抽選を待たずに終戦を迎えたので「敗札」と擲揄（やゆ）された。

宝くじが現在ののような形で発売されるようになったのは、それから3カ月後。当時の販売価格は1枚10円で、1等賞金は10万円。これは家を5軒建てられる大金だった。



ものの起源

号外

通常の新聞の2倍以上の値段だった

地震や台風などで大きな被害が出たり、記念すべき出来事があると、繁華街などで「号外」が配られることがある。号外という名前は、新聞社が定期的に出している新聞とは別に発行され、通し番号（通巻）に含まれないためだ。

はじめて号外が発行されたのは、1868年（明治元年）だった。「中外新聞」が、上野で起きた彰義隊（徳川慶喜の警護などのために結成された）と明治新政府軍の戦闘を伝えたものだ。

ただし、当時は号外ではなく「別段」といわれ、1部5銭で販売されていた。当時の新聞は2銭ほどだったから、2倍以上の特別価格がつけられていたわけだ。テレビやラジオなどがなかった時代なので、この値段でも人々は争って買い求めたという。その後、別段は「付録別紙」などの名となり、明治20年ごろに「号外」と呼ばれるようになったという。

ものの起源

肉食の禁止

仏教の教えの勘違いが原因だとか

肉食というのは人間の旧石器時代からの習慣である。ところが、日本では明治時代まで肉食が禁じられてきた。

6世紀に仏教が伝来すると、天武天皇がその教えを忠実に守るため「殺生禁断令」を出し、ウシ、ウマ、イヌ、サル、ニワトリの肉を食べることを禁じた。さらに、後の聖武天皇は家畜の屠殺を禁じ、違反者は処罰されるようになった。

ただし、インドで生まれた原始仏教では肉食を禁じておらず、「不殺生戒（ふせつしようかい生き物の命を絶つのを禁止する）」だけだった。そのため、托鉢僧が信者から肉をもらった場合には、普通に食べていたし、現在も同様だ。

ところが、仏教が中国、朝鮮を経て日本へ伝わる間に、「仏教徒は肉を食べてはいけない」と変化してしまった。もっとも病人の滋養強壮にタヌキや熊などは「殺生禁断令」以降も食べられていたし、水戸黄門も内緒で牛肉を食べていたという。

ものの起源

松・竹・梅

遊郭では「梅」が「竹」よりも上位だった

松・竹・梅は、めでたさをあらわすとして慶事でよく使われる。松・竹は冬でも青々として、梅は厳寒期に花を咲かせるので、中国で絵によく描かれ、「歳寒三友」のめでたい絵柄と考えられたのが由来とされる。

松・竹・梅を等級名として使うようになったのは、江戸時代らしい。最初に格づけに使われたのは、当時の京都や大坂の遊郭だったという説があり、松は最上級の大夫たいふ、梅は天神てんじん（大夫の下）、竹は鹿恋かこいといって、一般的な遊女をさした。このように遊女を呼ぶことで、男たちは「粹」を示そうとしたようだ。

ちなみに、当時は竹よりも梅が上位だったが、これは天神様すがわらみちぎね（菅原道真）がかわいがっていた梅が、九州の大宰府まで飛んで行ったという伝説があるためだ。松竹梅が料理の特上・上・並をあらわすようになったのも江戸時代というが、松が最も高い料理をあらわすのは単に「松竹梅」にした方が語呂がよかったからとか。

ものの起源

出前

外国人も驚いた日本生まれの

便利なシステム

最近ではケータリングやデリバリーと呼ばれている「出前」だが、そのルーツは日本のようだ。

明治時代に来日した外国人が「東京では商人がいろいろなものを届けてくれるので、買い物へ行かなくてもいいんだ」と手紙に書いているから、現在の出前のようなシステムは江戸時代からあったらしい。「御用聞き」や屋台という移動販売のシステムが存在していたので、食べ物を家に届ける出前も自然に発生したのだろう。

ファミレスやコンビニの登場で出前は衰退したが、宅配ピザの登場で、またまた利用されるようになった。出前復活のきっかけになった宅配ピザは、アメリカのドミノ・ピザによって1960年にスタート。日本で宅配ピザを始めたのもドミノ・ピザで、1985年に東京・恵比寿に宅配ピザ専門店がオープンした。自宅で本格ピザを食べられるから大人気で、全国へ広がっていった。

ものの起源

将棋

将棋とチェスはどちらもインド生まれ

藤井聡太棋士の活躍により、通販サイトのアマゾンでは、一時的に将棋セットが品薄になったというから、驚くべき影響力だ。

将棋のルーツは200〜300年ごろ、古代インドで遊ばれていた「チャトランガ」というボードゲームまでさかのぼるといわれる。チェスもこのチャトランガがルーツだとか。

チャトランガが中国将棋となったあと、日本へ伝来したのは8世紀ころ。717年に遣唐使として大陸へ渡った吉備真備が持ち帰ったようだが、現存する最古の将棋の駒は、奈良県の井戸状遺構から『天喜六年（1058年）』と書かれた木簡とともに発掘されたものなので、それ以前の歴史ははっきりしていない。

ちなみに、この遺構から発見された将棋の駒は15枚で、玉将や金将、銀将、桂馬、歩などが確認できたが、「王将」はなかった。

ものの起源

線香

最初は消臭剤として使われていた

お墓参りに欠かせないのが線香だ。びやくだん白檀などの香木を粉末にしたものにまつやに松脂と糊のりを加えて練り、細い形に押しだして作られる。仏教発祥の地のインドなどでは竹を芯にして香を塗り固めて作られ、最初は体臭などを消すことが目的で使われていたが、心の浄化にも用いられるようになったという。

この風習が日本へ伝わったもので、『日本書紀』には、法会でそがのえみし蘇我蝦夷が焼香礼拝したと出ている。しかし、当時使われていたのは粉末の抹香で、現在、葬式などで行う焼香と同じスタイルだった。

棒状の線香が日本で使われるようになったのは江戸時代で、中国から伝来して仏教行事や葬式などで利用された。中国産が使われていたが、やがて日本でも作られるようになった。線香の製法を日本にもたらしたのは、キリシタン大名として知られる小西行長の兄で、朝鮮半島から技術を持ち帰ったという。

ものの起源

灯台

1000年間も使われていた

エジプトのファロス灯台

灯台の歴史は古い。岬や島の上に石などで塔を建て、そこでたき火をしたり、煙を上げて船の道しるべにしたのがルーツという。灯台として記録に残る最も古いものは、紀元前7世紀にエジプトのナイル河口の寺院の塔上で火をたいたものとされている。

また、航路を示すために造られた専用の灯台は、紀元前280年ごろにエジプトのファロス島に建てられたファロス灯台がある。高さ110メートルにもなり、建造には19年の歳月がかかったという。この灯台は、690年の地震で半壊するまで使われていたというから、1000年以上も稼働していたわけだ。

日本最古の灯台は、839年に遣唐使船の目印になるように九州各地の岬でたき火をたかせたものといわれている。また、海上保安庁から正式に承認されている最古の灯台は、兵庫県西宮市の今津灯台で、1810年に建てられたものだ。

ものの起源

金魚

中国では文化大革命によって一時は消滅した

金魚はフナの突然変異のヒブナが中国の長江下流域で長年にわたって改良されたものだ。しかし、1966年に毛沢東主導の文化大革命で贅沢品とされ、中国での金魚の養殖技術は完全に消滅した。

日本に金魚がもたらされたのは室町時代だが、当時は飼育方法が詳しくわからず、とても高価なものだった。また、1691年にはイギリスへ輸入されたという記録があり、フランスでも18世紀に観賞用として輸入された記録が残っているから、当時の貴重さがうかがい知れる。現在のように手軽に飼育されるようになったのは、江戸時代に現在の愛知県やとみ弥富市、奈良県やまとこおりやま大和郡山市、東京都江戸川下流の3カ所で大規模に養殖されるようになってからだ。

ちなみに、1978年に日中平和友好条約が調印されると、日本から金魚養殖の技術者が中国へ出向き、文化大革命で絶えてしまった金魚の養殖復興に協力したそうだ。

ものの起源

雨傘

昔は雨よけでなく汚物よけに使われた

古代人でも雨に濡れたくなければ、葉っぱなどを頭にかざしたはずだ。そういう意味では、おそらく傘は人類の歴史が始まったころからあったといっていだらう。

今のような形の傘が使われるようになったのは4000年以上前だ。エジプトやペルシアで発見された彫刻や絵画に描かれている。しかし、雨に濡れるのを防ぐためではなく、王や統治者が権威の象徴として使ったものだった。

その後も、日よけや、2階から捨てられる汚物よけとして使われるにとどまっていた、雨よけとして使われるようになるのは18世紀から。イギリスの慈善事業家が、1778年に雨傘をさしてロンドン市街を歩いたところ、人々が驚いたという記録が残っている。

日本には紙や竹で作られた伝統の「和傘」があるが、「唐傘からかさ」という異名を持つことからわかるとおり、6世紀に百済を経由して唐から伝わったものなのだ。

ものの起源

年賀状

平安時代の公家のあいだで
やりとりされていた

メールやSNSで年賀状の発行枚数は年々減っているようだ。ピーク時の2003年には44億6000枚近く発行されていたが、2018年には半分近くの25億8600枚に減った。もともと年賀状は、お世話になった人の家を訪問して祝賀の挨拶を述べる「年賀」という習慣を簡略化したものだ。それがさらに簡略化されてメールやSNSに変わっていくのはしかたがないのかもしれない。

年賀状は最近できたように思えるが、実際には、すでに平安時代に公家のあいだでやりとりされていたという。江戸時代に入ると、年賀状の風習が武家にも広まり、書状による年始の挨拶が一般になっていった。そして、この書状の年始の挨拶が庶民にも伝わり、簡略化されていったのだ。

現在のような年賀はがきが売られるようになったのは1899年のこと。お年玉つき年賀はがきは1949年に始まり、第1回の特賞はミシンだった。

ものの起源

デパート

売上高はネット通販に抜かれたが
歴史の重みがある

かつては「デパートへ行けば何でもある」といわれたが、そのお株はネット通販に奪われていくようだ。事実、ネット通販大手3社（アマゾンジャパン、楽天、ヤフー）の売上高は2017年に6兆7000億円となり、はじめて全国のデパートの売上高（6兆円弱）を抜いてしまった。

それでもプレゼントやお使い物はデパートで買うという人も多い。これはデパートの信頼性やブランド力が高いことを示している。それは歴史と伝統に関係しているのだろう。世界初のデパートとされるボン・マルシェ（パリ）は1852年設立で現存し、創業160年以上になる。イギリスのハロッズも創業は1824年だ。ただし創業当時は小売店ほどの大きさだったので世界初のデパートとは認定されていない。また、日本初のデパートである三越も創業から100年を超えている。このような歴史の重さがデパートの魅力なのだ。

ものの起源

スーパー

マーケット

開業当初は肉や野菜は売らなかつた

デパートでは主に高級品を対面販売している。それに対し、スーパーマーケットで売られるのは食料品や日用雑貨、衣料品などで、商品も自分で選ぶセルフ販売だ。

このスタイルの店舗をはじめて考えたのは、アメリカの起業家クラレンス・ソーンダースで、1916年、テネシー州に「ピグリー・ウイグリー」を開いた。セルフ販売方式は人件費を抑えられ、商品価格を低く設定できた。ピグリー・ウイグリーは大当たりし、またたく間に全米へ広がっていった。ただし、保存の問題で、肉や野菜などの生鮮食品は販売せず、それが始められるのは1920年代に入ってから。

日本初のスーパーマーケットは、1952年に大阪の旧京橋駅の「京阪スーパーマーケット」で、いまのようなセルフ販売方式のスーパーマーケット第1号は、1953年に東京の旧神宮前駅（現在の表参道駅）に開店した「紀ノ国屋」だった。

ものの起源

質屋

中国で救済事業として誕生した

質屋はどんどん減っている。最も利用されたのは1955年から1960年の間で、当時は全国に2万1000店もあった。しかし、クレジットカードや消費者金融、ネットオークションなどが広まって利用者が激減し、現在はおよそ3000店になっている。

質屋の特徴は、腕時計や貴金属など個人の品を担保にお金を貸すところだ。このようなシステムがはじめて誕生したのは中国で、五世紀ごろに寺院が救済事業として始めたのが最初といわれている。イタリアでもやはり修道院が公益質屋を開き、貧乏な庶民にお金を貸したという記録が残っている。

日本にはじめて質屋ができたのは鎌倉時代。当時は「土倉^{どそう}」と呼び、客は主に武士で、担保は刀剣類が多かった。質屋という名になるのは江戸時代初期。このころから庶民金融の代表になり、江戸だけで2700軒もの質屋がひしめいていたという。

京都五山送り火の「大」の字を書いたのは誰？

- ① 醍醐天皇 ② 空海 ③ 織田信長

うらぼんえ
孟蘭盆会（お盆）が終わり、精霊（ご先祖様の霊）を送る際にたかれる火を「送り火」という。京都の五山送り火が有名で、その名のとおり「山」「妙法」「左大文字」と舟、鳥居の形が暗い山腹に浮かび上がるさまは美しい。この文字、形のなかでとくに神聖とされているのが、如意ヶ嶽の支峰・大文字山に浮かび上がる「大」の文字だ。なぜ神聖かというと、平安時代初期に活躍した空海（弘法大師）が自ら切り開いたものと伝えられているためである。

「大」という文字をこの山に刻んだのは、かつて大文字山にあった浄土寺が火事で焼けたとき、本尊の阿弥陀仏が天に上って5本の光明を放ったから。空海は、この光明をまねて「大」の文字を山腹に残したといわれている。

豆知識 「大」のサイズは横棒80m、2画160m、3画120m

ティッシュペーパーが開発された目的は？

- Ⓐ 手術用
- Ⓑ 宇宙開発
- Ⓒ 軍専用

花粉症の季節になると手放せなくなるのがティッシュペーパーだ。日本で最もティッシュペーパーを買うのは宮城県で、年間1089円に達するという。まさか宮城県の花粉濃度が最も濃いわけではないと思うが……。花粉症でなくても、私たちの生活には欠かせないものになったティッシュペーパーだが、もともとは軍用に開発されたというからびっくり。

第1次世界大戦中、米軍は防毒マスクに綿のフィルターを使っていた。しかし、綿は天然素材だから性能が安定しなかった。そこで軍は、キンバリークラーク社に「綿の代用品を作ってほしい」という依頼を極秘で行ったという。そして研究を続けた結果、完成したのがティッシュペーパーなのだ。

豆知識 キンバリークラーク社は「クリネックスティッシュ」の販売元

ライターはどこの国の人が発明した？

- Ⓐ 日本人
- Ⓑ アメリカ人
- Ⓒ フランス人

世界初の実用ライターの発明者は、平賀源内だといわれている。源内は1772年に、バネと火打ち石、モグサを組み合わせ、「刻みたばこ用点火器」を発明。新しいもの好きで知られた坂本龍馬も、これを愛用していたそうだ。

マッチが発明されたのは1827年のこと。つまり、マッチより先にライターが発明されていたことになる。

ただし、現在のように入るライターが発明されたのは1910年。アメリカのロンソン社がポケットライターの特許を取得したという記録が残っている。それから20年以上たってからジッポーが発売され、風が吹いても火が消えないので人気になった。

豆知識 ガス式のライターが発明されたのは1946年のフランス

バーコードが誕生したきっかけになったのは？

- Ⓐ 従業員の関節炎 Ⓑ 兵器の部品管理 Ⓒ 薬の誤投与

太さの違う線とその間隔で英字や数字などを表わす符号がバーコード。最近では、ほぼすべての店舗で利用されているから知らない人はいないだろう。

バーコードが誕生したのは1949年だった。当時、アメリカのドレクセル大学大学院生だったバーナード・シルバーとノーマン・ウッドランドが発明し、1952年に特許を取得した。当初はどのように利用したらいいのかわからず、ほとんど見向きもされなかったが、やがてアメリカのある食品チェーン店が採用。これがきっかけで世界中に広まった。

ちなみに、この食品チェーン店では、レジを打つ従業員が関節炎になったため、体の負担を軽くする方法としてバーコードに注目したのだった。

豆知識 バーコード内の日本の国番号は「45」と「49」

「〒」が郵便局をあらわしているのはどこの国？

- Ⓐ ほぼすべての国 Ⓑ 日本とイギリス Ⓒ 日本だけ

日本の近代郵便制度はイギリスを見習ってつくられたものだ。そのため、「〒」がイギリス由来という印象を持っている人も多いと思う。しかし、実際には日本でしか通用しないマークなのだ。

現在、郵便事業を一手に引き受けているのは日本郵政株式会社だが、その歴史は近代郵便を取り扱うようになった郵便司えきていしという組織にさかのぼる。

この郵便司が1885年に逓信省として独立するとき、郵便事業のシンボルマークとして逓信省の頭文字「T」が定められた。ところが、のちに「T」が国際的に郵便料金不足のマークだとわかり、「テイシンショウ」の「テ」に由来する「〒」にマークを改めたのだった。

豆知識 ワープロで「〒」を入力したい場合は「ゆうびん」と入力し変換する

はじめてランドセルを背負って通学したのは誰？

- Ⓐ 伊藤博文 Ⓑ 大正天皇 Ⓒ チャールズ皇太子

ランドセルは、リュックサックを意味するオランダ語「ランセル (ransel)」が変化した言葉。幕末に江戸幕府が軍隊制度を導入する際、兵士の装備品としてオランダからリュックサックを輸入したことに由来する。

子ども用のランドセルが誕生したのは1887年（明治20年）のこと。当時の総理大臣・伊藤博文が、皇太子（のちの大正天皇）の学習院初等科入学を祝い、ランセルをもとにして特別に作らせたのが現在のランドセルの原型だ。

皇太子が利用していたことと、ひどく高価だったので、ランドセルは第2次世界大戦前まではごく一部の富裕層と華族が利用するだけだった。しかし、昭和30年代に入り高度経済成長期を迎えると一般に広まっていった。

豆知識 ランドセルを日本土産として買っていく訪日外国人が急増中

投げキッスのもともとの意味はどれ？

- Ⓐ 信仰の証
- Ⓑ 別れがづらい
- Ⓒ 服従します

海外のドラマや映画では、自分の手にしたキッスを投げる「投げキッス」をよく見かける。欧米では子どものころからやり慣れているらしいが、自分の気持ちをあらわすのが苦手な日本人はめったにやらないようだ。

このように、現在ではもっぱら愛情表現の方法とされている投げキッスだが、もともとは宗教的な目的を持った仕草だったという。

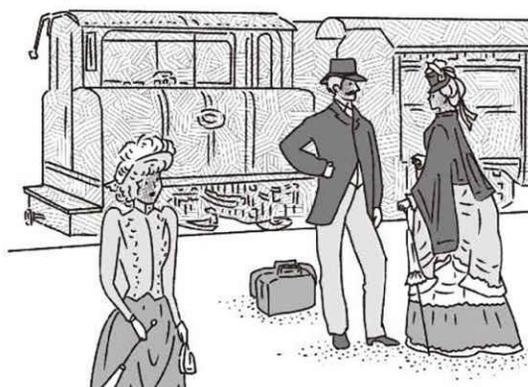
古代の神殿や教会は一般庶民が気安く入れるものではなく、王侯貴族など身分の高い者しか入ることが許されなかった。つまり、ほとんどの人が信仰の対象に近づきたくても近づけなかった。そこで彼らは、投げキッスで「私はあなたを信仰しています」「神を愛しています」という気持ちを伝えようとしたのだ。

豆知識 古代ローマでは皇帝も投げキッスの対象になっていた

第3章

科学のはじまり おもしろ雑学

—— やっぱりすごい、「発明」の先駆者たち！



ものの起源

予防接種

紀元前1000年からあったが、とても危険だった

予防接種は1796年、イギリスの医師エドワード・ジェンナーによってはじめて行われた——と習ったと思う。しかし病原菌を弱毒化せず、そのまま投与するという乱暴な予防接種なら、紀元前1000年ごろにインドで行われていた。当時使われていたのは天然痘患者の膿うみで、これを健康な人にそのまま接種し、軽度の発症を起こさせて免疫を得る「人痘法じんとう」というものだった。

いうまでもなく危険な予防法で、天然痘を発症して亡くなる人や、この予防法がきっかけで天然痘が広まることも少なくなかった。しかし、これ以外の方法がなかったことから、18世紀前半にイギリス、アメリカに伝えられ、日本にも清の商人・李仁山が1744年に紹介したという記録が残っている。

ジェンナーは人痘にかわって牛に感染する牛痘ぎゅうとうを利用することを考え、それに成功。このとき、はじめて安全な予防接種が完成したといえるわけだ。

ものの起源

光の速度の計測

天才ガリレオでも不可能だった

光の速度は秒速およそ30万キロ。地球の外周は約4万キロだから、わずか1秒で7周半してしまふという驚くべき速さだ。この光の速度をはじめて計測しようとしたのは、17世紀の天文学者ガリレオ・ガリレイとされている。彼は、2つのランプをできるだけ遠くに置き、点滅させることで光の速度を計測しようとした。しかし、光の速度があまりにも速くて、この方法では不可能だった。

同じ17世紀にデンマークの数学者オーレ・レーマーは、木星の衛星イオの「食」が1年周期で変化することから、光の速度を秒速21・3万キロと導きだすことに成功した。実際の速度より3割も誤差があるが、「光の速度は有限」と明らかにしたレーマーの功績は大きい。

やがてレーザー光線と鏡を使う計測法が開発され、正確な速度が出せるようになると、1983年に秒速29万9792・458キロメートルと定義されたのだ。

ものの起源

エレベーター

ローマ帝国の皇帝ネロが乗った

最初のエレベーターって？

現在、最速のエレベーターは日立製作所が中国・広州の高層ビル「CTF金融センター」に設置したもので、分速1260メートル。時速にすると75・6キロという速さで、1階から95階までを約43秒で上るといふ。

驚くべき進化を遂げたエレベーターだが、ルーツは紀元前までさかのぼる。古代ギリシアの科
学者アルキメデスが、ロープと滑車で操作するものを開発したのが最初とか。ローマ帝国の暴君
として知られる皇帝ネロは、紀元50年ごろにエレベーターを利用して宮殿内を移動していたとい
う。彼が利用したのは奴隷が引っ張り上げる人力のエレベーターで、宮殿内に3基も設置されて
いたそうだ。

日本ではじめてエレベーターが設置されたのは、1890年にオープンした東京・浅草の展望
台「りょううんかく凌雲閣」で、現在と同じ電動式モーターが利用されていたが故障が多く、まもなく撤去さ
れてしまった。

ものの起源

双子の順番

きんさん・ぎんさんは、

姉が妹で妹が姉だった？

双子の兄弟・姉妹を目の当りにすると、どうしても「どちらがお兄さん（お姉さん）ですか？」と聞きたくなる。「私が兄（姉）です」という答えを聞いても、まだ疑問が残ることが多い。それは、「兄（姉）」というのは先に生まれた方なのか、それともあとに生まれた方なのかということ。この疑問を持つのは、かつて日本では後から生まれた子を兄（姉）として扱う習慣があったから。これは日本独自の習慣ではなく、古代ローマ時代も同じように考えられていた。あとに生まれてきた子がお腹の中では上にいた＝上位にあるという考え方によるのだ。

日本では1874年の「太政官指令」で、「先に生まれた方が兄（姉）」と定められたが、その後も「あとに生まれた方が兄（姉）」という考えが残り、こんな混乱が生まれたようだ。かつてテレビで人気を博したきんさん・ぎんさんも、あとから生まれたきんさんが姉扱いされていたが、これもじつは誤りということだ。

ものの起源

ゆうたいるい

有袋類の誕生日

カンガルーの誕生日は
出産した日ではない？

人間の誕生日は、母親のお腹から生まれた日をさしている。当たり前といえば当たり前だが、生物界には誕生日がいつなのか特定しにくい生き物もいるのだ。たとえば、昆虫や魚、鳥のように卵を産んで数日から数週間後に孵化^{ふか}する場合は、いつが誕生日になるのか？ これは卵が孵化した日が誕生日と考えられている。

では、カンガルーやコアラなどの有袋類の誕生日はいつになるのだろうか。

カンガルーの場合、動物園によっては袋から顔を出してから8カ月さかのぼった日を誕生日としているところもある。これは、そのくらいの時期に出産したと考えられるからだ。有袋類の赤ちゃんは、出産というよりも発育の途中で未熟状態で生まれ、母親の袋の中で発育を続けるので、「出産≡誕生日とはいえない」という説が主流になっているようだ。そこで、母親の袋の中から顔を出した日を誕生日にするのが一般的だ。

ものの起源

使い捨てカイロ

第1号はホカロンではなくアツタカサン

寒い冬には欠かせないものとなったのが「使い捨てカイロ」だ。その歴史は意外に新しい。朝鮮戦争時にアメリカ軍が防寒具として利用していた「フットウォーマー」を参考に、旭化成工業（現在の旭化成）が開発した商品にたどり着く。

この使い捨てカイロが1975年に「アツタカサン」という名前で発売された。現在よりかなり高価な300円だったものの、手軽に暖を取れるので人気になり、当時の有名俳優、田宮二郎ばんじゅんざぶろうや伴淳三郎も愛用していたという。

しかし、アツタカサンは惜しまれながらも販売終了。これを原型に日本純水素（現在の日本パイオニクス）が開発を続け、ロツテ電子工業（現在のロツテ健康産業）が1978年に発売したのが、使い捨てカイロの代名詞にもなっている「ホカロン」だ。ちなみに、使い捨てカイロは鉄がさびるときに出す酸化熱を利用しているが、その他のレシピはメーカーごとに違って、企業秘密だそうだ。

ものの起源

シュレッダー

うどん製麺機をヒントにして誕生

戦争といえは銃やミサイルを敵に撃ち込むことなどと考えるのは古い。最近では情報を得ることが勝利の近道とされている。それは企業間の争いにもいえることだ。そのため、多くの企業が機密が漏れないように細心の注意を払っている。

そうした機密漏洩ろうえいの阻止に貢献しているのがシュレッダーだ。不要になった書類を細かく切り刻むわけだが、最近では個人情報が悪用されることもあり、自宅で利用している人も珍しくなくなつた。

このシュレッダーの生みの親は、なんと日本人！ 事務機メーカーの明光商会創業者・高木禮れい二じが、うどん製麺機にヒントを得て1960年に開発したのだ。

かつてはストレートカットといって、紙を縦に長く切るだけだったが、これだと情報が読み取りやすいので、明光商会の最新モデルでは書類を2ミリ四方に細かく切り刻むパイラルカットが採用されている。

ものの起源

照明

日本の電信局は

エンジンより早く使っていた？

アメリカの発明家トーマス・エジソンは、1879年に木綿糸を炭化したフィラメントの白熱電球を、40時間ほど点灯させることに成功した。これが白熱電球が発明された日で、発明者はエジソンと思いきこんでいる人が多いが、それより以前に白熱電球は発明されていた。真の発明者はイギリスの物理学者ジョセフ・スワンだ。1860年以前に白熱電球の点灯に成功し、1878年にはエジソンと同じ40時間まで点灯寿命を延ばしていたのだ。

ちなみに、日本ではじめて照明が使われたのは1878年（明治11年）だ。電信中央局の開局を祝って灯ともされたものだが、ということは、スワンより発明が早かったということ？ じつは、このときに灯されたのはアーク灯という放電現象を利用した照明器具で、白熱電球ではなかった。点灯時間も3分ほどだったが、この日は「電気記念日」とされ、毎年さまざまな行事が開催されている。

ものの起源

臓器移植

世界初は一卵性双生児からの移植だった

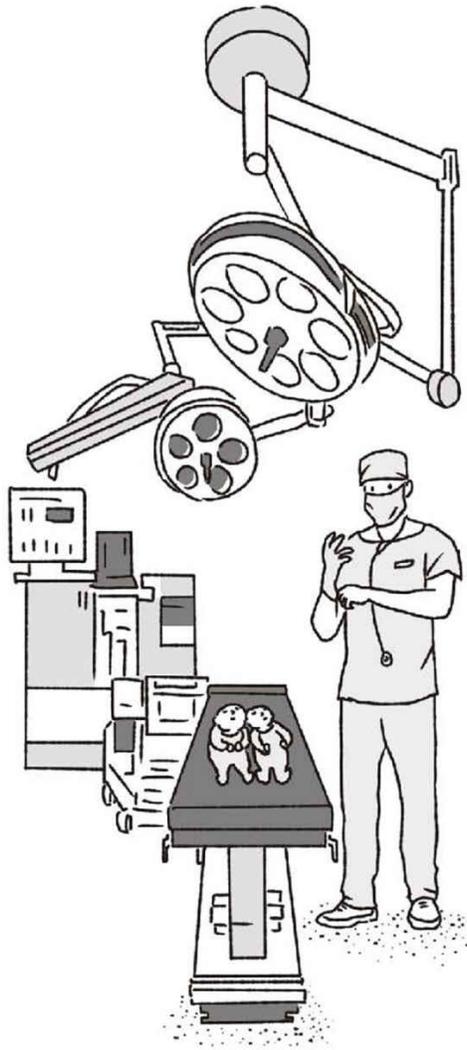
世界初の臓器移植は1936年に行われた。旧ソ連のポロノイ医師が急性腎不全患者を救うため、死者から摘出した腎臓を患者の大腿部だいたいに移植したものだ。でも当時は拒絶反応を解決できていなかったため、患者は36時間後に死亡した。

恒久的な臓器移植手術がはじめて成功したのは1954年。アメリカのジョセフ・マレーしんぞう医師の腎臓移植手術だが、一卵性双生児からの移植で、拒絶反応が起きにくかったのが成功の理由とされている。そのため、これ以降も患者を長く生存させることは困難をきわめた。

1967年には、南アフリカのクリスチャン・バーナード医師が世界初の心臓移植を実施。しかし、このときも患者を18日間生存させるに留まった。

日本では、急性腎不全の患者に一時的に腎臓を移植するという手術が1956年に新潟大学で行われたのが最初だ。しかし、このときに移植した腎臓も100時間後に壊死し、再摘出された。また、1968年には札幌医科大学の和田寿郎教授が日本初の心臓移植手術で日本中の注目を浴びたが、患者は83日後に死亡した。

しかし、1980年代に画期的な免疫抑制剤サイクロスポリンが登場すると、臓器移植の成功率はグンと上昇した。現在、日本国内で行われた心臓移植患者の5年生存率は95%を超えるというから驚きではないか。



ものの起源

木製の総入れ歯

仏像作りの技術を応用して日本で作られた

歯を失って入れ歯をしていない人は、入れ歯をしている人に比べて認知症の発症リスクが最大1・9倍になるといふ。大昔の人はここまで入れ歯の重要性を知っていたわけではないだろうが、すでに紀元前3000〜前2500年ごろの古代エジプト人のミイラには、義歯の痕跡が見されている。

これは現在の「ブリッジ」だが、総入れ歯がはじめて作られたのは室町時代以前の日本だといわれる。和歌山県の願成寺には、尼僧が1538年まで実際に使っていた木製の総入れ歯が残されている。当時の総入れ歯は硬いツゲの木を彫って作られていたが、江戸時代にはロウ石で作った歯をツゲの木につけたものが開発された。これらの作製には、仏像や能面の木工技術が応用されていた。その後、1737年ごろにフランスの歯科医も総入れ歯を考えだしているが、機能的には日本の木製義歯の方が勝っていたという。

ものの起源

時計の針の右回り

日時計がエジプトで発明されたから

機械式時計が最初に作られたのは13世紀末だ。しかし、当時の時計には文字盤がなく、鐘を鳴らして時を知らせるだけだった。文字盤のある時計が作られたのは14世紀に入ってからで、「多くの人の目にとまるように」と市役所や聖堂などの高い位置に取りつけられた。

ところで、当時から時計の針は右回りだった。「時計回り」が右回りを示すのは当たり前になっているが、なぜ右回りになったのか。その理由は、時間を計るために最初に利用した日時計にある。日時計は紀元前2000年ごろにエジプトで発明されたといわれる。エジプトは北半球なので太陽は東から昇り西に沈むから、日時計の影は右回りに動いていく。つまり、この影の動き方が機械式時計にも引き継がれたのだ。南半球では影の動きが逆になるから、もし日時計が南半球で発明されていたら、左回りを時計回りといっていたかもしれない。

ものの起源

電話と電卓の

数字配列

並びが異なる、その理由は？

スマホで電卓アプリを呼び出すと、数字の並びが電話をする場合と上下逆になる。電話の場合は「1」が左上で「9」が右下にくるが、電卓では「1」が左下で「9」は右上にくる。言われるまで気がつかなかった人もいるかもしれない。

このように、電卓と電話で数字の並びが異なるのは、電話が国際電信電話諮問委員会（CCITT）、電卓は国際標準化機構（ISO）のそれぞれの基準で作られたから。つまり、2つの組織が連携しなかったことが関係しているわけで、いつの世も、泣かされるのは利用者である。

ちなみに、電卓で「0」や「1」が手前なのは、利用する頻度が高い数字を近くに配置した方が手の移動距離が短くなって打ちまちがいが少なくなるという論理的な理由だ。しかし電話の配列については、プッシュホンを最初に開発したアメリカのAT&Tが現在ののような数字の配列を利用したためという単なる慣習による。

ものの起源

火薬

不老不死薬の開発中に誤ってできた

「人類の三大発明」といえば、最近ならインターネットやコンピューター、iPS細胞といったところかもしれないが、一般的には「火薬・羅針盤・印刷」となる。「人類」という大きな時代のくくりでは、こうした発明が世界を変えたとされるのだ。

3つの発明の中でとくにユニークなルーツを持っているのは「火薬」だ。火薬は古代中国で発明されたといわれているが、きっかけは不老不死薬の開発だった。当時の中国では、水銀が不老不死に関係していると考えられ、抽出には硝石しようせきという薬品が必要だった。ある日、研究者が硝石と硫黄、炭を混ぜ合わせたところ、いままでにない激しい火力が生まれた。現在でも黒色火薬の製造に利用されている組み合わせだから、当然といえば当然の結果だった。

不老不死薬の研究から生まれたものが、人々を殺傷する武器として使われるようになったのだから、なんとも皮肉ではないか。

ものの起源

日本の特許制度

江戸時代は

「社会秩序を乱す恐れがある」とされた

アメリカのIBMがパソコン事業から撤退して久しいが、これは最先端の技術開発に特化するためだったといわれる。その判断は功を奏し、IBMが2017年中に取得した特許はなんと9000件以上。第2位のサムスは約5800件、日本一のキヤノンは約3300件だから、さまざまな開発力を発揮しているわけだ。

特許を取得すると、その技術を公開する代償として独占的な使用权が得られる。特許のことを「パテント」と呼ぶが、これも「公開」の意味だ。

特許の歴史は1443年までさかのぼる。当時のベニス共和国で、発明に対して特別な権利がはじめて与えられた。日本で特許が制定されたのは1885年。ヨーロッパよりかなり遅かったのは、江戸時代に「新しい発明や工夫は社会秩序を乱す恐れがある」とされていたから。日本の特許第1号は「鉄・銅製品のサビ止め塗料とその塗り方」という、ちょっと地味なものだった。

ものの起源

糖尿病の発見

患者の尿をなめた勇氣ある医師がいた

厚生労働省の調査によると「糖尿病が強く疑われる」成人患者は、2016年に1000万人を超えた。これに「糖尿病の可能性を否定できない」予備軍を加えると約2000万人になる。つまり、日本の成人の5人に1人以上が糖尿病の可能性があるという。もはや糖尿病は日本人の国民病なのだろう。

糖尿病が発見されたきっかけは1674年。当時、ヨーロッパには「多尿症」と呼ばれる奇病がまん延していた。喉が渇き空腹に悩まされるが、いくら大量に飲食しても太らず、尿の量だけが増えるという不思議な病気だった。患者に共通するのは、尿から甘酸っぱい臭いがすること。といっても検査方法がなく、お手上げ状態だった。

イギリスの臨床医学者トーマス・ウィリスは考えあぐねた末に、健常者と患者の尿をなめてみた。すると、患者の尿だけが砂糖水のように甘かった。これがきっかけになって研究が進み、糖尿病の存在が証明されたのだ。

ものの起源

尿の利用法

石けんよりも洗浄効果が高かった？

もうひとつ、尿が関係する「はじまり」の話を紹介しよう。現在、クリーニングといえば洗剤や有機溶剤を使って汚れを落とすのが一般的だ。ところが、古代ローマでは、なんと人間の尿を洗剤として使っていたという。

尿を発酵させるとバクテリアの働きによって、現在の洗剤のような界面活性力（水と油を混ぜたりやすくする力）が生まれ、洗濯物についた汚れが落ちやすくなったのだ。とくに垢や油污れなどには抜群の効果があつたから、古代ローマの洗濯職人たちは人々の尿を争って集めたそうだ。

ポンペイの遺跡からは1世紀ごろの石けん工場が発見されているが、尿を使った洗濯法は石けんよりもはるかに洗浄効果が高かったらしく、イギリスでは19世紀になるまで毛織物の洗濯に使われていた。ちなみに、仕上がった洗濯物に尿の臭いが残ったかどうかはわからないが、そうではないと願いたい。

ものの起源

進化論

最初に唱えたのはダーウィンではなかった

進化論は、イギリスの博物学者チャールズ・ダーウィンが1858年に発表したとされている。だが、じつは、この考え方はダーウィン以前からあった。最も古い記録は、古代ギリシアの哲学者アナクシマンドロスが「大地の泥の中に原始生物が生じた。それが発達し、さまざまの動植物ができ、最後に人間があらわれた」と説いたものだ。ダーウィンが進化論を発表する直前にも、イギリスの植物学者アルフレッド・ウォーレスがアマゾンやマレー諸島（インドネシア）で研究を続けた結果、ダーウィンの進化論に酷似した結論に達していた。ウォーレスが自説を手紙にしたためてダーウィンに送ったところ、ダーウィンはおおいに驚き、論文を一気に書き上げてウォーレスの論文とともに発表した。

しかし当時のウォーレスは駆け出しの学者で、ダーウィンに心酔していたため、進化論に関するほぼすべての手柄をダーウィンに譲ったという。

ものの起源

恐竜の化石

最初に発見した人は何だかわからなかった

あちこちの博物館に恐竜の化石が展示されているが、恐竜のものと考えられるようになったのは19世紀初めというから意外と最近である。きっかけは、1815年ごろにイギリスの地質学者ウィリアム・バツクランドが下あごの一部と脊椎骨せきつゝいの化石を発見したことだった。しかし、彼はそれがどんな動物のものかわからなかった。

1818年、フランスの博物学者ジョルジュ・キュヴィエがその化石を検分し、「大型爬虫類はちゆうのものだ」と指摘した。のちの研究で、これはメガロサウルス（2本足歩行の肉食獣）と判明し、最初に発見された恐竜の化石とされている。

「恐竜」という名称もイギリスの科学者が命名した。古生物学者のリチャード・オーウェンが、1842年に「deinos（恐ろしい）」と「sauros（トカゲ）」という2つのギリシア語を合成して作ったもので、「恐竜」という言葉は、地質学者の横山又次郎博士が1894年にはじめて使ったそうだった。

ものの起源

地図

イギリス人も驚いた伊能忠敬の地図

いのうただたか

地図の歴史は文字の成立より古いといわれるが、現存する最古のものは、古代バビロニアで紀元前600年ごろに作成された世界地図だ。ただし、世界地図とはいっても、正確に描かれていたのはバビロン周辺だけだった。現在のような地図をはじめて描いたのは、古代ギリシアの学者プトレマイオス。2世紀ごろに作られたその地図は現存していないが、当時のデータを基にして15世紀に作られた地図には、アラビア半島やイタリア半島などが忠実に描かれている。

日本では、720年成立の『日本書紀』に「諸国に境界を調べさせ、図にして提出させた」とある。日本の地図で忘れてはならないのが伊能忠敬の存在だ。幕府の命を受けた伊能は16年かけて日本全土を測量したが、地図が完成したのは彼の死後3年経った1821年だった。後日、その地図を見たイギリス人たちは正確さにびっくりし、独自の地図作りをやめて、伊能の地図を利用することにしたという。

ものの起源

地下鉄

蒸気機関車が大量のススを出した

経路を比較的自由に設定できて、騒音対策や用地買収の手間も少なくすむ地下鉄は、世界の大都市の公共交通手段として欠かせないものになっている。

地下鉄がはじめて開通したのは1863年のロンドンだった。当時のロンドンにはすでにたくさん建物が立ち並び、新しい鉄道路線の建設は難しかったので地下鉄が造られたのだ。

ただし、当時の地下鉄では蒸気機関車を利用していた。駅は吹き抜けで有害な煙を地上に排出するようになっていたし、蒸気機関車にも煙を抑える特別な機能が取りつけられていた。それでも蒸気機関車が吐き出す大量のススを完全に排出できず、駅舎も乗客もススマみれで、ボヤが出ることも珍しくなかった。

そのため、電化が始められたが、一部区間ではしばらく後まで蒸気機関車が走り続けていたという。

ちなみに、地下鉄のことを「メトロ」とも呼ぶが、これは当時の地下鉄路線を「メトロポリタン鉄道」と呼んでいたから。

日本初の地下鉄は、昭和初期に現在の浅草駅と上野駅間の区間で開通したとされているが、じつはそれより前に、東京駅と東京中央郵便局（現在のＪＰタワー）を結ぶ地下鉄が１９１５年に開通していた。これは貨物専用だったが、やがて仙台駅と東七番丁駅を結ぶ旅客用地下鉄路線が開通している。



ものの起源

電子レンジ

ポケットに入れたチョコバーから生まれた

私たちの生活には欠かせない電子レンジだが、パーシー・スペンサーというエンジニアがだらしなくなかったら、発明されていなかったかもしれない。1945年、スペンサーが軍事用レーダーを調整していたところ、ポケットの中に入れっぱなしにしていたチョコバーが溶けているのに気づいた。なんと、これが、電子レンジの原理でもあるマイクロ波による加熱現象の発見につながったのだ。

この原理を応用し、アメリカのレイセオン社は1947年に世界初の電子レンジを発売した。当時の電子レンジは高さ180センチ、重さ340キロ、価格は2000ドル以上（現在の価値で200万円以上）という巨大で高価なものだったが、売れ行きは好調だった。

日本で一般家庭用の電子レンジが発売されたのは1964年。松下電器の「NE・500」で19万8000円。ちなみに当時の大卒初任給は2万円くらいだった。

ものの起源

遺伝子組み換え

作物

すでに栽培面積の80%を超えた作物もある

作物を人間に都合のよい性質に変える作業は、人類が農耕生活を始める以前から品種改良という形で行われてきた。でも、その変化はとても遅かった。しかし、遺伝子の組み換えをすれば、短時間で劇的な変化を得られるから、研究はどんどん進んでいる。

その技術は、1973年にアメリカのスタンリー・コーエン博士とハーバート・ボイヤ博士が、ブドウ状球菌の遺伝子を大腸菌に組みこむ実験に成功したことから始まるといわれる。

また、市場にはじめて出た作物は「フレーバー・セーバー」というトマト。1994年から販売されたが、他のトマトと比べて皮や果肉が柔らかくなりやすく、輸送や日持ちの面で便利だという。現在は、大豆の77%、綿花の80%、トウモロコシの32%が遺伝子組み換え作物になっている。

ものの起源

環境ホルモン

その影響で男性の生殖機能が低下した？

たき火は晩秋の風物詩だが、最近ではほとんど見かけなくなった。それは環境ホルモンをまき散らすからだという。環境ホルモンというのは通称で、正式名は「外因性内分泌攪乱かくらん化学物質」。人間を含めた生物のホルモンに似た働きをする物質で、ほんの少量でも生殖機能を悪くしたり、ガンを引き起こすそうさだ。

最初に環境ホルモンの危険性を唱えたのは、アメリカの生物学者レイチェル・カーソン。さかんに使われていた殺虫剤のDDTが、生態系へもたらす深刻な影響を著書『沈黙の春』で訴えた。これがきっかけで、アメリカではDDTの使用が全面的に禁止された。デンマークのニルス・スキヤベク教授は1992年に「男性の精子が過去50年間で半減し、精液の量も25%減少しており、その原因は環境ホルモンによるもの」という論文を発表して世界に衝撃を与えた。やがて日本でも、「ダイオキシン類対策特別措置法」が制定され、野焼きなどが禁止されたのだ。

ものの起源

本物のA I

2014年にはじめて登場した

「A I搭載」を売りにしている電気製品をよく見かけるようになった。しかし、厳密な意味でのA Iとは「今まで人間にしかできなかった認知や推論、問題解決、創造などを行える技術」などで、残念ながら電気製品はそこまで達していない。電気製品などに使われるA Iとは「弱いA I」という意味で、思考するほどの問題ではないことを解決したり推論するソフトウェアをさしている。

本当のA Iが完成したかどうかは、数学者のアラン・チューリングが考案した「チューリングテスト」で判断される。コンピューターと会話をした審査員が、相手がコンピューターと見抜かなかった場合にはA Iと認定されるというテストだ。

テストにパスするコンピューターは当然あらわれないだろうと思われていたが、2014年に、ロシア人エンジニアが開発した「ユージン」が見事にパス。見抜けなかった審査員は3分の1だったが、それでもユー진은世界初のA Iと認定された。

ものの起源

四則演算の記号

乗算の「 \times 」は欧米では通じない？

四則演算の記号「 $-$ 」「 $+$ 」「 \times 」「 \div 」は、同時に使われはじめたわけではなかった。いちばん早くこの世にあらわれたのは「 $+$ 」と「 $-$ 」。中世の船乗りが貴重な飲料水の量を把握するため、樽から飲料水をくみ出すとチョークで「 $-$ 」を引き、雨が降って飲料水の量が増えると、その「 $-$ 」を打ち消すために縦線を加えて「 $+$ 」としたようだ。

「 \times 」を乗算（掛け算）の意味で最初に使ったのは、イギリスの数学者ウィリアム・オートレットじょうしで、1631年に上梓した『数学の鍵』の中で紹介している。「 \times 」は十字架を斜めにしたものだが、アルファベットの「 x 」と混同しやすいので、現在でも欧米では「 \cdot 」や「 $*$ 」などを使うことが多い。

「 \div 」を最初に使ったのは、スイスの数学者ヨハン・ラーンだが、「 \div 」は分数の形をそのままあらわしたものだという。

ものの起源

火縄銃

500年前でも

100メートル先の敵を狙えた

最新のライフルの最大射程距離は、なんと3600メートルに達するという。つまり、新宿駅から発射された銃弾が渋谷駅まで楽に届くということだ。ただしこの距離は、あくまでも銃弾が届くだけ。狙って命中させられる距離（最大有効射程距離）は2000メートルほどになるが、これでも新宿駅から原宿駅を狙えるというから、かなりの距離だとわかる。

では、ライフルのルーツの火縄銃の弾はどれくらい飛んだのか。日本で火縄銃が活躍するようになったのは織田信長の時代だから、400年以上前になる。そんな昔なのに、最大射程距離は700メートル、最大有効射程距離は100メートル前後だったという。現在のライフルと比べると見劣りするが、当時の飛び道具は弓だけで、その最大射程は400メートル以下、最大有効射程は数十メートル程度だったから、当時の戦では圧倒的な力を誇ったことがよくわかるではないか。

ものの起源

震度と

マグニチュード

日本由来なのは、やはり地震国だから？

地震のニュースでよく耳にするのが、マグニチュードという言葉。これは地震そのものの大きさを対数であらわした値だ。対数のため、マグニチュードがひとつ大きくなるだけでエネルギーの大きさは32倍になり、2つ違うと1000倍になる。マグニチュードという単位は、1935年にアメリカの地震学者チャールズ・リヒターが考案したが、その誕生の陰には日本の地球物理学わだちぎよお者・和達清夫の存在があったことはあまり知られていない。リヒターは最大震度と震源までの距離が地図上に書き込まれた和達の論文を見て、マグニチュードの考え方を思いついたという。

ちなみに、マグニチュードは地震そのものの大きさをあらわしているのに対し、震度はそれぞれの場所での揺れの強さをあらわす単位だ。そのため、マグニチュードの小さな地震でも震源に近い場所では揺れが大きくなる。この震度という単位は日本だけで利用されていて、海外では通じない。

ものの起源

消しゴム

食パンと深い関係がある

デッサンをするには食パンが欠かせない。デッサンに時間がかかるからお腹がすいて食べるわけではなくて、不要な線を消すために使われる。つまり、消しゴムがわりということだ。

じつは、デッサンだけでなく、かつては文字や数字の書きまちがいも食パンで消していたが、1770年にイギリスの科学者ジョセフ・プリーストリーが、カウチユクという天然ゴムに文字を消す成分があるのを発見し、ラバー (rubber) と命名した。イギリスでは、この日が消しゴム誕生の日とされ、「Rubber Eraser Day」という。

日本で消しゴムが生産されるようになったのは1886年だが、当時の国産消しゴムは性能が悪く、大正初期までは輸入品に頼っていたという。その後は日本でも開発が進んで、1959年にプラスチック消しゴムの開発に成功し、逆に輸出するようになった。

ものの起源

天気図

天候が変わりやすいイギリスで発達

現在のように気象衛星や観測データがなかった時代には「観天望気かんでんぼうき」といい、雲や自然現象を見て翌日の天気を判断したり、伝えられてきた「天気俚諺てんきりげん（天気のことわざ）」で天気を予想していた。

ヨーロッパでは昔から「イギリス人ほど天気に敏感な民族はいない」といわれるが、その言葉どおり、世界ではじめて天気図を作ったのはイギリスの気象庁だ。1870年に天気図の作成を始め、1879年からは新聞に情報提供を開始しているから、これが近代天気予報の始まりといってもいいだろう。

現在の天気予報は「数値予報」といって、風や気温などの変化をコンピューターで計算して天気を割り出している。日本でこの数値予報が始まったのは1959年。当時としてはたいへん珍しく高価な大型コンピューターを、気象庁が他の省庁に先駆けて導入したことで、さらに精度の高い天気予報を出せるようになったのだ。

ものの起源

電源周波数の違い

関西と関東の違いは

明治時代から始まっていた

日本国内なら、どこの地域でも家庭用コンセントから得られるのは交流100ボルトだ。しかし電源の周波数は西日本が60ヘルツ、東日本は50ヘルツと微妙に異なる。以前ほど多くはないが、いまでも周波数が違うと利用できない家電があり、この地域をまたいで引っ越しをすると大いに困ってしまう。ではなぜ、同じ国内で2つの周波数の電源が使われるようになったのか。

東京周辺で電気が利用されるようになったのは明治中期からで、東京電燈（現在の東京電力）では直流の送電をしていた。これを交流に変更する際に周波数50ヘルツのドイツ製の発電機を導入し、1893年に送電を開始。しかし、大阪電燈（現在の関西電力）では1888年から60ヘルツのアメリカ製発電機を利用していた。イギリスやアメリカでもかつては50ヘルツと60ヘルツの電源が混在していたが、現在は統一されている。しかし、日本では統一されないままになっている。

ものの起源

体脂肪計

横になって手足に電極をつなぐ必要があった

BMIという指標がある。これは、「体重（キロ）÷（身長（メートル）²）×身長（メートル）」という式で出され、肥満度をあらわしている。ところが、同じBMIでも体つきが違う人がいることがわかってきた。この違いは脂肪の量と筋肉の量の違いによる。脂肪は筋肉よりも軽いので、BMI上は「普通」と判断されても、実際には脂肪が多くて不健康な人がいるというわけだ。

この隠れた脂肪を数値化するために開発されたのが体脂肪計だ。脂肪は骨や筋肉などと比べて電気が流れにくい性質を持っていることに着目してアメリカで開発されたのが最初だが、当時の体脂肪計は、横になった状態で手と足に電極をつないで測定するという面倒なものだった。現在のように乗るだけの体脂肪計は、1992年に日本の計測器メーカー・タニタが販売したのが第1号。当時の価格は48万5000円とかなり高価なものだった。

ものの起源

血液型の発見

最初はA B型が見逃されていた

血液型にはさまざまな分類方法があるが、最も有名なのは「A B O式血液型」だ。1900年にこの血液型を発見したのはオーストリアの病理学者カール・ラントシュタイナーで、この功績で1930年にノーベル生理学・医学賞を受賞している。ただし当初、ラントシュタイナーはA B型を発見できず、A型・B型・C型の3タイプに分別していたのだった。

次に有名なのは「R h式血液型」で、これもラントシュタイナーが弟子とともに1937年に発見。「R h」という名称は、実験にアカゲザルの血球を利用したのに由来する。ただし「Red Hair」の頭文字ではなく、学名の「Rhesus monkeys」から。他にも「M N S s式血液型」「P式血液型」「白血球型・血小板型」などがあり、臓器移植をする場合は「A B O式血液型」「R h式血液型」だけではなく、「白血球型・血小板型」の適合が重要とされている。

ものの起源

北極と南極

南極は北極よりはるかに気象条件が厳しい

1909年、アメリカの探検家ロバート・エドウィン・ピアリーが、はじめて北極点へ到達した。ノルウェーの探検家ロアル・アムンゼンが南極点へ到達したのは1911年だった。南極には陸地があるのに対し、北極は氷が浮かんでいるだけだから、南極の方が到達は簡単そうだが、実際には2年遅れたことになる。なぜこんな差が出たのだろうか。

ひとつの理由は気温。同じ極地でも、北極の平均気温はマイナス30度前後、南極中心部の平均気温はマイナス60度に達する。この違いは海水よりも大陸の方が熱しやすく冷めやすいためだ。海水は凍らないかぎりマイナス1・8度以下にならず、北極の方が気温が下がりにくいのだ。また、北極の標高は高くても数十メートルだが、南極大陸の標高は平均2000メートル以上。つまり、南極探検の成功には、寒さと高度という2つの難関を突破しなければならなかったのだ。

ものの起源

麻酔薬

はなおかせいしゆう

妻を失明させてしまった華岡青洲

薬物で痛みを一時的に消失させたり、意識を喪失させる技術は太古の昔からあった。しかし、この方法だと麻酔の長さや深さを調整することが難しく、大きな副作用が出ることもあった。

江戸時代の外科医・華岡青洲は、1804年に世界ではじめて全身麻酔を使って手術を行ったとして知られるが、彼も麻酔の実験中に妻の視力を失わせている。

こうしたリスクを減らすために考えだされたのが吸入麻酔だった。アメリカの歯科医師ホーレス・ウェルズは亜酸化窒素を利用して1845年に抜歯手術を、1846年にはやはりアメリカの歯科医師ウィリアム・モートンが硫酸エーテルを利用して腫瘍の切除を、イギリスでは1847年にヴィクトリア女王が出産する際、医師のジョン・スノーがクロロホルムを投与したという記録が残っている。しかし、初期の吸入麻酔に使われた薬品には問題を起こすものも多かった。

ものの起源

ステルス機

20年間で1機しか撃墜されなかった

かつて「隠密剣士」という連続テレビ時代劇があった。『ザ・サムライ』という題名で海外でも大人気になったが、本来なら「stealth swordsman」という英訳の方がふさわしいという意見もある。このことからわかるとおり、ステルスとは「隠密」という意味だが、最近では「発見されにくい兵器」として使われることが多い。

世界初のステルス兵器といわれているのは、1989年にアメリカ軍がパナマ侵攻で使ったF・117Aである。初飛行は1981年までさかのぼるが、開発は最高機密で、アメリカ国防省が1988年に不鮮明な写真を公開するまで、まったく知られていなかった。そのため、80年代に目撃されたUFOの多くが、このF・117Aだったともいわれている。

最新のステルス機の登場によってF・117Aは2008年に退役したが、それまでに撃墜されたのはコソボ紛争時のわずか1機だけだった。

ものの起源

ダム

最古のものは3300年以上経った
いまでも現役！

発電や治水のために河川をせき止めて造られるのがダム。人間が造った巨大建造物のひとつだ。その歴史は意外に古く、記録に残っているものは紀元前2750年ごろにさかのぼれる。それは古代エジプト時代に造られたサド・エル・カファラダムで、幅108メートル、高さ11メートルもあり、人と家畜に水を供給するために造られたといわれる。

現存する最古のダムは、シリアにあるナー・エル・アシ・ダムで、なんと紀元前1300年以前に建設され、いまでも現役だといふから驚きだ。

さやまいけ

日本初のダムは、現在の大阪府に残る狭山池だ。720年に成立した『日本書紀』に登場し、平安時代の821年には弘法大師が改修したという記録が残っている。シリアのナー・エル・アシ・ダムにはおよばないが、狭山池も完成から1300年以上経っても灌漑用のため池として利用されているのだから立派なものだ。

かんがい

ものの起源

ベンゼン環^{かん}

居眠り中に見た夢から思いついた

高校の化学の授業で、ほとんどの人をつまずかせるのが「ベンゼン環」だ。覚えがない人も「六角形の形に化学記号が並んだアレ」といえば、思いだすだろう。

ベンゼンは、1825年にイギリスの化学者マイケル・ファラデーが鯨油げいゆを加熱中に発見した物質だ。現在の工業化学には欠かせない物質だが、ベンゼンがどんな構造なのかは長いあいだ、謎のままだった。しかし1865年、ドイツの化学者アウグスト・ケクレが、炭素原子が6つ並んで六角形を成し、それぞれの炭素原子がひとつずつ水素原子と結合しているベンゼン環の構造を発表したのだ。

ケクレがベンゼン環を思いついたのは、ストーブの前で居眠りをしたとき。ベンゼンを構成する原子がへびに変わり、そのへびが自分の尾をくわえてぐるぐる回る夢を見て、ベンゼン環を思いついたという。湯川秀樹も「中間子理論を思いついたのはウトウトしていたときだった」というから、居眠りもしてみるものだ。

ものの起源

アルミ箔はく

誕生から100年以上の歴史がある

料理に欠かせないグッズのひとつにアルミ箔がある。「箔」とは薄くのばした金属のことで、比較的柔らかかな金で作られた金箔が、人類がはじめて作った「箔」といわれている。いつごろから作られていたかはわからないが、エジプトから発見された4600年前の金箔が、現存する世界最古の「箔」だそうだ。

アルミ箔がはじめて作られたのは1911年。ドイツのラウバー博士が圧縮法という方法で作ったのが最初といわれている。そして、1930年にドイツから圧縮機械が輸入されると、日本でもアルミ箔の製造がはじまった。

アルミ箔には裏表がある。ピカピカ光っているのが表で、つや消しの面が裏だ。裏表ができるのは、アルミ地金を2枚重ねて圧延するため。アルミとアルミのあいだに圧延油が塗られ、あとではがしやすいようにされるのだが、油が圧縮される際にアルミ箔の表面に微小な凹凸が作られ、白っぽいつや消し面になってしまうという。

乾電池を最初に発明したのはどこの国の人？

- Ⓐ ドイツ Ⓑ フランス Ⓒ 日本

電池は紀元前の時代から使われていたようだ。その証拠とされているのが、イラクのホイヤツトラブヤ遺跡から出土した「つぼ型電池」だ。紀元前250年ごろのもので、酢やブドウ酒などを利用して1・5〜2ボルトほどの電圧を得ることができ、金銀のメッキに使っていたと考えられている。

電池には液体が使われていたため、19世紀に入っても内部の液体がこぼれるなどして使い勝手^{やいさきぞう}がとても悪かった。そこで、ドイツ人のガスナーが1888年に液体がこぼれない電池を発明した。これが世界初の乾電池とされているが、じつはその3年前に、日本の時計技師の屋井先蔵^{やいさきぞう}が、取り扱いが簡単で寒冷地でも使用可能な「屋井式乾電池」を発明したという記録が残っている。

豆知識 筒形の金属ケースに入った乾電池を生産したのは日本人だった

バンドエイドの発明のきっかけは？

- Ⓐ 犬によくかまれた
- Ⓑ 奥さんが不器用だった
- Ⓒ 通院回数を減らそうとした

救急ばんそうこうの代名詞にもなっている「バンドエイド」を考案したのは、アメリカのアー・ディクソンだ。妻のジョセフィーヌは驚くほど不器用で、料理を作るたびに指先や手を切ったりやけどしていた。そのたびにアーは彼女の指先や手に包帯を巻いてあげていたが、「もし、私が出張中にジョセフィーヌが怪我をしたらどうしよう。不器用な彼女では包帯も満足に巻けないはずだ」と心配になった。

そこでアーは、不器用な妻が1人でも簡単に傷の手当てができるように、粘着テープと包帯を組み合わせた救急ばんそうこうを考案。「バンドエイド」の名前で彼が勤めていたジョンソン・エンド・ジョンソンから販売された。このバンドエイドは会社に莫大な利益をもたらし、アーは同社の副社長になった。

豆知識 最初のバンドエイドは幅9センチ、長さ54センチもあった

日本人初の宇宙飛行士の第一声は何？

- Ⓐ 地球は青かった Ⓑ これ、本番ですか Ⓒ お母さん

人類初の宇宙飛行は1961年だ。旧ソ連のユーリ・ガガーリンを乗せたボストーク1号が地球の周回に成功し、無事に帰還した。そのとき、ガガーリンが発したのは「地球は青かった」という言葉だった。

では、最初の日本人宇宙飛行士が発した第一声は何だったのか。これを知るためには、まず日本人宇宙飛行士第1号が誰なのかを明らかにしなければならない。1992年にスペースシャトルに乗りこんだ毛利衛もうり まもるさんが第1号だと思っている人も多いようだが、じつはその2年前にTBS社員の秋山豊寛とよひろさんがソユーズ宇宙船で宇宙へ行っていったのだ。その模様はテレビとラジオで生中継されたが、放送局の呼びかけに答えた秋山さんの第一声は「これ、本番ですか」だった。

豆知識 秋山さんは宇宙ステーション「ミール」に滞在した唯一の日本人

コカ・コーラのCMに初出演したタレントは誰？

- Ⓐ 市川雷蔵 Ⓑ 浜美枝 Ⓒ 井上順

最も知名度の高い炭酸飲料といえばコカ・コーラだろう。アメリカの薬剤師ジョン・ペンバートンが、コーラ（熱帯産常緑樹）の実と炭酸などを調合しているときに偶然誕生し、最初は強壮剤として売りだされていた。

コカ・コーラの名前がはじめて使われたのは1886年。ペンバートンから製造権を2300ドルで譲り受けたアーサー・キャンズラーが大々的に売りだすために使ったのだが、当時から契約店舗へ原液を卸すという、レシピ秘密主義だった。日本にはじめて輸入されたのは1919年だが、その5年前には高村光太郎の処女詩集『道程』に名前があがっていた。ちなみに、コカ・コーラのCMは1962年に始まり、最初にCMキャラクターとなったのはスパイダース（当時）の井上順。

豆知識 「コカ・コーラの唄」はフォー・コインズによるもの

GPSが民間に広まったきっかけは？

- Ⓐ 大韓航空機撃墜事件
- Ⓑ ソ連のアフガニスタン侵攻
- Ⓒ バミューダトライアングルでの軍艦失踪事件

かつてはドライブに欠かせないものが地図帳だった。しかし、いまではそれがカーナビに取ってかわられている。そのカーナビに欠かせないのがGPSだ。

GPSとは、「全地球測位システム (Global Positioning System)」の略で、アメリカが打ち上げた30機ほどのGPS衛星から電波を受けて現在位置を確認する装置のことだ。

軍事用に開発されたものだったが、1983年に大韓航空機がソ連の領空を侵犯し、撃墜されたことを受け、当時のレーガン大統領が民間への開放を許可してから利用が始まった。

豆知識 軍事用と同じ精度での利用開始は1995年 (平成7年)

第4章

社会のルールのはじまり おもしろ雑学

——この不思議な「決まり」はどこから来たのか？



ものの起源

郵便ポスト

赤いポスト第1号は明治34年生まれ

世界で最初に郵便ポストが設けられたのは1653年のパリで、1829年までにはフランス全域に設置されたという。

日本初のポストは1871年（明治4年）。当時は「集信箱」しゅうしんばこ「書状集箱」しよじょうあつめばこなどと呼ばれ、白木造りのものが東京、京都、大阪や東海道の宿駅ごとに設けられた。その翌年、イギリスの黒いポストをまねて、杉の木をくりぬいて作られた黒塗りのポストが登場した。しかし、「黒塗りでは見えにくい」などの苦情が多数寄せられ、1901年（明治34年）に目立つ赤色で塗られたポストを日本橋に試験的に設置。その評判がよかったので、それからは赤く塗られるようになった。

ただし、街並みや景観などに配慮し、赤以外のポストが置かれるケースもある。たとえば、R京都駅前のポストは焦げ茶色、江ノ島内にある郵便局のポストは黒色になっている。

ものの起源

硬貨

円形ではなく、刀や農具の形をしていた

かつて人類は物々交換で欲しいものを手に入れていた。しかし、相手の欲しいものがないと交換に応じてもらえないし、交換するための品物を持ち歩くのもたいへんな手間になった。そこで考えられたのが貨幣（お金）だ。

世界で最初に貨幣が使われたのは2800年ほど前の中国で、青銅製で農具の形をした「布銭」^{せん}や、小刀の形の「刀銭」^{とうせん}が流通していた。それから1000年ほど遅れて、リディア（現在のトルコ）でも金と銀の合金の貨幣が使われはじめた。

日本の貨幣の流通は、7世紀ごろといわれている。ただし、使われていたのは中国から輸入された「無文銀銭」^{むもんぎんせん}という貨幣で、それ自体がとても高価だった。庶民に貨幣が流通するようになったのは、8世紀初頭に国内（秩父地方）で銅鉞山が発見され、通貨の製造コストを下げられるようになったからだ。708年に作られた「和同開珎」^{わどうかいほん}が実質的貨幣の第1号とされている。

ものの起源

保険

ロンドン大火がきっかけで誕生した火災保険

自然災害や事故で損失が出た場合、その一部か全額を補償してくれるのが保険だ。保険の歴史は古い。紀元前2〜前3世紀ごろの中国やバビロニアには、シルクロードを行き交う商人たちが盗賊に荷物を奪われた場合の補償制度があったという。

保険が制度として確立したのは1601年のイングランド王国で、法律の下、イタリア系商人が1622年に商業船が沈没したり海賊に遭遇した場合の補償を行う海上保険を始めた。さらに、1666年に起きたロンドン大火後の復興に尽力した経済学者のニコラス・バーボンが、その翌67年に火災保険事業を開いた。

日本には「たのもしこう頼母子講」とか「むじん無尽」という、地域社会でお金を積み立てる制度が鎌倉時代からあり、これが保険の役割を担っていた。現在のようないん保険制度が普及したのは1879年、東京海上保険会社（現在の東京海上日動火災保険）が創立されてからのことだ。

ものの起源

警察官

一般人を「おい、こら」と呼んだ

明治時代の警察官は一般人を「おい、こら」と呼んだので、高圧的だと嫌われた。しかし、これは薩摩弁で「ちょっと、あなた」程度の意味だった。ではなぜ、警察官は薩摩弁を使ったのか。それは、薩摩出身の大久保利通が、警察の前身の「邏卒^{らそつ}」という組織を作った関係で、薩摩出身者が優先して採用されたからだだった。

話が大きくそれてしまったが、警察官のルーツは古代ローマ時代までさかのぼる。当時の古代国家では軍隊と警察の違いがあいまいだったが、古代ローマには軍事目的に利用されない「ウィギレス」という警察組織がすでに存在していた。

日本で警察制度が確立したのは江戸時代だ。よく知られているように町奉行所の同心たちが江戸の治安を担っていた。しかし、当時の江戸の人口が100万人だったのに対して、警察業務を担う同心はわずか240人ほど。とても手が回らなかったので、岡っ引きや下っ引きという部下を雇って治安維持に努めていたようだ。

ものの起源

遊園地

浅草花やしきが日本のルーツで、
遊具はブランコだけ

以前、マイケル・ジャクソンがプライベートな遊園地を持っていることが話題になった。彼の遊園地には最新の遊具がそろっていたが、1728年にロンドンに開園した世界初の遊園地「ヴオクスホールガーデンズ」は、現在のイベント会場に近いものだった。コンサートや花火が開かれ、当時として最先端の熱気球にも試乗できた。園内では飲食が楽しめたという。

さて、はじめて観覧車が出現したのは、1893年のシカゴ万博会場だ。1度に2000人以上が乗れたという。ちなみに、この大観覧車を設計したのはジョージ・フェリスという技術者。英語で観覧車を「フェリス・ホイール」というのは、彼の名前にちなんだものである。

日本初は、1853年に開園した「浅草花やしき」だ。ただし、当時の遊具はブランコだけだった。

ものの起源

駅弁

旅館の弁当から生まれた高級食

列車旅行に欠かせないものといえば駅弁。昔は立ち売りといって、駅弁を盆に入れた売り子がホームにいて、短い停車のあいだに買うのが一般的だったが、最近は窓が開かない車両も多くて、そんな販売形態は絶滅寸前。現在も立ち売りがあるのは、岐阜県みのおおたの美濃太田駅、熊本県ひとの人吉駅など10駅以下だという。

駅弁が最初に販売されたのは1885年（明治18年）だった。当時、上野と宇都宮を結ぶ路線が建設されていて、作業員たちが宿泊していた白木屋という旅館では、彼らのために毎日弁当を作っていた。

その弁当が「ウマイ」と好評だったことから、宇都宮駅が開業すると乗客向けに売られるようになった。ただし、駅弁といっても現在ののような豪華なものではなく、握り飯2個とたくあんを竹の皮に包んだだけで、それでも5銭した。現在の値段にすると2000円以上になるが、売り上げは好調だったという。

ものの起源

コンビニエンス

ストア

ルーツは氷の専売店だった

最近ではスーパーマーケット並みの豊富な品揃えを誇っているが、世界初のコンビニエンスストアで販売されていたのは氷だけだった。というよりも、氷の専売店だったテキサス州の「JJグリーン」という店がコンビニエンスストアのルーツだから、氷しか売られていなかったのは当然だった。

「JJグリーン」では、需要の高まる夏のあいだだけ、1日16時間無休という長時間営業をしていた。すると、常連客から「食料品や日用品も取り扱ってほしい」という声が出た。店主がその声に応じたところ、「便利なお店」という意味の「コンビニエンスストア」と呼ばれるようになったのだ。

ちなみに、日本にはじめてコンビニエンスストアが開店したのは1974年。東京・豊洲に開店した「セブン・イレブン」が第1号店で、最初に売れたのは、なぜかサンガラスだったという。

ものの起源

自動車事故

世界でも日本でも試運転中に発生した

日本で交通事故の死者数が減っているのはご存知のとおり。それでも1日あたり1300件近い事故というのだから、油断は禁物だ。

世界初の自動車事故も油断が原因で起きてしまった。事故が起きたのは1769年。フランスの技術者ニコラ・ジョセフ・キュニョーが蒸気自動車を試走中、スピードを出しすぎて壁に激突。ちなみに、スピードの出しすぎといっても、この蒸気自動車の最高速度はわずか10キロ。このくらいのスピードなら……という油断が原因だったのだろう。

日本初の事故も試走中に起きた。1900年、皇太子（のちの大正天皇）へ献上するためアメリカから贈られてきた電気自動車を走らせていたところ、交番へ突っ込みそうになったのだ。あせった運転手は急ハンドルを切ってそのまま皇居のお堀に転落したという。やはり、スピードの出しすぎには注意したいものだ。

ものの起源

ラーメン店

明治の「南京そば」は1杯3000円！

現在、日本には約3万2000軒のラーメン店があるという。しかも、これは「ラーメン店」として電話帳に出ている数。「ラーメンもあります」という中華料理店や、定食店を加えたら何万軒になるか想像もつかない。

前にも触れたとおり、ラーメンをはじめて食べた日本人は徳川光圀だそうだ。では、日本で最初にラーメンを出した店舗はどこなのか。

店名は明らかではないが、1870年に横浜の居留地内に中華料理店が開かれたという。「そば」という名がはじめて使われたのは、1884年に函館に開店した中華料理店の「養和軒」で、「南京そば15銭」という新聞広告を出した。現在の価格にして1杯3000円という高価な料理だ。そして、1910年には、東京・浅草に「来々軒」という中華料理店が開店。「シナソバ」が1杯6銭（現在の価格で500円前後）で出された。なお、来々軒は1976年に惜しまれながら閉店したのだった。

ものの起源

ハンコ

印章のはじめは動物柄だった

よく「印鑑を押す」という。しかし、厳密には、印鑑とは押した際に書類などに残る印影のこと。正確には「印章」もしくは「ハンコ」と呼ぶ。

印章は中国発祥……と思いがちだが、実際には紀元前5000年ごろに古代メソポタミアに始まったものとされている。当時の印章は動物柄や幾何学模様のスタンプ風だった。中国で印章が使われるようになったのは、紀元前1300〜前1050年頃の殷代^{いん}で、秦代^{しん}（紀元前221〜前206年）、漢代（紀元前206〜後220年）になると、現在のように個人や国家の地位を示すようになったようだ。

現存する日本最古の印章は、57年ごろに中国の光武帝から与えられたとされる有名な「漢委^{かんのわの}奴国王^{なのこくおう}」の金印だが、当時の日本には印章を使う習慣がなかったので、単なる貢物のお礼の品だったと考えられている。実際に印章が使われるようになったのは奈良時代で、仏教伝来とともに中国から渡来したのだった。

ものの起源

朱肉

江戸時代には武士階級しか
使用を許されなかった

印章と切っても切れない関係にあるのが朱肉だ。しかし、朱肉が使われるようになったのは中国でも5世紀の南北朝時代からで、それ以前は粘土に印を押して文書の封印に用いたり、泥を利用していたという。朱肉に「印泥^{いんでい}」という別名があるのはこのためなのだ。

日本へは印章とともに奈良時代に伝わり、官印として使われるようになった。奈良の正倉院には8世紀ごろの印影つきの文書が多数残されているが、当時の朱肉は現在のような油で塗り固められたものではなく、辰砂^{しんしゃ}（水銀硫化物）を使ったものだった。

ところで、朱肉といえは赤色だが、江戸時代に赤い印影を使うのを許されたのは武士階級だけだったそう。そのため、当時の一般庶民は黒い印影を使っていた。一般庶民にも朱肉が広まったのは明治からで、これとともに署名捺印をもって「証」とする慣習が広く定着していったという。

ものの起源

左側通行

ナポレオンが右利きだったら

左側通行が主流になっていたかも

かつて輸入車の多くは左ハンドルだった。これは、欧米諸国のほとんどが右側通行を採用し、需要の少ない左側通行用の車両（右ハンドル車）を作るとコストが高むという理由による。最近では、高級外車のなかにも右ハンドル仕様がが増えていますが、日本やイギリスが右側通行なら、そんな手間をかけずにすんだわけだから、さぞかし自動車メーカーは恨めしく思っているだろう。

しかし、古代ローマ時代には左側通行が主流だった。これは、右利きの人が剣を抜く際に相手の左側に立っていた方が有利になるから。ところが、ナポレオンが左利きだったので18世紀終盤に右側通行がヨーロッパに広まっていった。ナポレオンはイギリスを支配できず、イギリスにだけ左側通行が残されたというわけだ。

日本でも、武士が刀を抜きやすいたため江戸時代以前から左側通行だったが、明治維新後にイギリスの交通制度を手本にしたため、左側通行が完全に定着したとされる。

ものの起源

東京の「区」

かつては35区だった

負けず嫌いの大阪出身の芸人がテレビで「東京には23区しかないが、大阪には24区ある。どうだ、参ったか」と話していた。たしかに現在はひとつ負けているが、かつて東京には35区あったこともあるのだ。

東京に区ができたのは、1878年のこと。郡区町村編制法によって、千代田区、中央区、港区など15区が置かれた。その後、都市化が進んだのを受け、1932年に周辺の郡や町村が東京市に編入される際に新しい区が設けられ、東京は35区になった。終戦後の1947年に35区は22区に統合されたが、板橋区から練馬区が分かれ、現在の23区になった。

ちなみに、東京の区は「特別区」と呼ばれ、市に準じる独立性を認められている。だが、政令指定都市の区は「行政区」といって市庁の事務執行を分担しているだけで、独立した自治体とは認められていない。つまり、似て非なるものなのだ。

ものの起源

金庫

日本ではじめて作ったのは鍛冶職人

ここ数年、家庭用金庫の売り上げが急激にのびているという。その理由は、マイナンバーカードの普及と自然災害の増加だという。つまり、大切なものを安全に保管したいと考える人が増えたわけだ。

この考え方は昔からあり、金庫の歴史も古く、古代ローマ時代にはすでに使われていた。ただし、当時の金庫は木製で、満足な鍵もなく、武装した人間が守っていたという。現在のような金属製の金庫が登場したのは、19世紀に入ってからなのだ。

日本製の金庫が作られたのは、江戸時代末期に横浜を襲った大火がきっかけだった。たくさん外国商館も被害を受け、金庫も破損した。その修理を依頼されたのが、竹内弥兵衛という鍛冶職人だった。彼は金庫についての本や資料を外国から取り寄せ、苦勞しながら修理して、そのノウハウを元に、1869年に、やっとオリジナルの金庫を完成させたそうだ。

ものの起源

通信販売

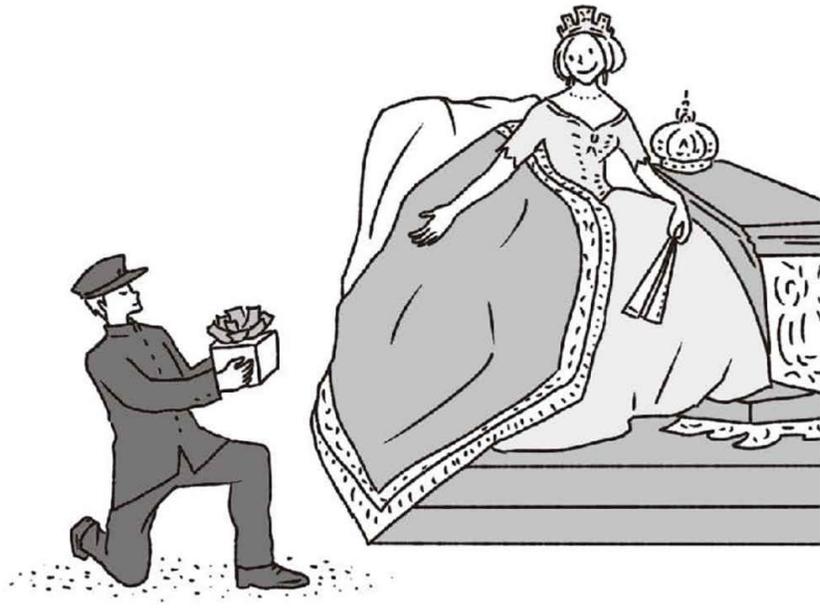
ヴィクトリア女王も顧客だった

実店舗は作らずにメディアを利用して商品を紹介し、通信で注文を受けて宅配便などで商品を配送する……。これが通信販売だ。一見すると、アマゾンや楽天は最先端ビジネスのようだが、これらも結局は通信販売の一種である。

世界初の通信販売は、1861年にウェールズの実業家プライス・ジョーンズが興したロイヤル・ウェールズ・ウェアハウスが始めたといわれている。このころに最も売れた商品は寝袋の一種で、ロシア軍から6万枚という大量発注を受けたこともあったようだ。ピーク時の顧客数は10万人を超え、そのなかにはヴィクトリア女王をはじめとしたヨーロッパの王室も含まれていたという。

日本の通信販売は、1876年に始まった。農学者の津田仙博士が、つだせん『農業雑誌』という専門誌に、アメリカ産のトウモロコシの種を販売するという広告を掲載したのが最初とか。当時の広告には、「1袋10銭」とあるから、現在の貨幣価値に換算すると4、5000円で、かなり高かったようだ。

大正時代に入ると、講談社が自社で発行している雑誌に広告を載せて本格的に通信販売を始めた。この通信販売では、生活用品や雑貨のほか、食品、化粧品、家具まで買うことができ、近隣の配達はその見習い社員が自転車やオートバイを利用して行ったというから、なんともどかな話だ。



ものの起源

レンタカー

日本初は運転手つきで1日12万円以上！

レンタカーの人气が急上昇中だという。たしかに、高額税金や保険代を支払う必要がないし、必要なときだけ利用できるから賢い選択かもしれない。

世界ではじめてこの賢い選択をしたのは、女性とデートの約束をしていたアメリカのセールスマンだった。彼が利用したのは、ネブラスカ州のレンタカーショップ。当時はT型フォードを、1マイルあたり10セントで借りることができたそうだ。

日本初のレンタカーの登場は、明治の終わり。5人乗り40馬力の自動車が出しは禁止されているが、当時、東京で円、半日15円で貸し出された。現在、運転手つきの貸し出しは禁止されているが、当時、東京で運転免許を持っている人は1000人にも満たなかったから、車だけ貸しても運転できなかったのだ。

当時の30円は現在の12万円以上になるが、それでも大人気で、予約がまったく取れなかったという。

ものの起源

円

スペインやメキシコで流通していた銀貨に由来する

明治時代に入り、日本の貨幣単位は「両」から「円」に改められた。では、そもそも「円」という単位名はどこからきたのだろうか。

じつは、お金の単位として「円」が使われたのは中国が先だったという。当時の中国では銀塊が主に流通していたが、貿易によってスペインやメキシコの銀貨が流入するようになった。こうした銀貨は円形だったので「銀円」と呼ばれ、それがやがてお金の単位になり、日本でも使われるようになったようだ。

ちなみに、初期の円は信用に欠けていたので、当時、先進国で行われていた「金本位制」といって「いざとなったら金に交換する」という保証を1897年に実施し、安定化を図った。しかし、世界経済が活性化すると金の生産量が貨幣の流通量に追いつかなくなり、先進国は次々に金本位制から離脱。日本も1931年に離脱し、現在のような国家の保証による貨幣制度となっている。

ものの起源

バーゲン

始めたのは日本初のデパート

1904年（明治37年）、日本初の株式会社百貨店になったのが現在の三越。日本ではじめてバーゲンセールをしたのも、日本橋の三越といわれている。1923年のことだが、「高級品が安く買える」と、朝から大勢の客が押し寄せたという。

その日のチラシが残されているので、いくつか紹介しておく。牛肉大和煮の缶詰が70銭のところを40銭（現在の価格にして400円が230円）、75銭のコンビーフは45銭（同430円が260円）、醤油1升1円5銭が92銭（同600円が530円）などとなっている。

海外でバーゲンといえば、感謝祭が過ぎた11月第4金曜日から週末にかけてのブラックフライデーが有名だ。この言葉は、小売店が儲かって黒字になるからで、1952年にアメリカのフィラデルフィアの小売店が始めたのが最初とされている。

ものの起源

ローマ字

時代によって

さまざまな方式が使われてきた

私たちは日常的に使っているのほとんど意識しないが、日本語は、ひらがなとカタカナ、そして漢字という3種類の文字で構成される、世界的に見て非常に珍しく難しい言語だという。そのため、戦国時代に来日した宣教師たちも、日本人とコミュニケーションを取るのにたいへん苦労したらしい。

その苦勞の末に彼らが生み出したのがローマ字だった。当時のローマ字は、「たちつてと」を「*ta chi tzu te to*」とするポルトガル式だった。

江戸時代に入り、キリシタン弾圧が始まると一時的にローマ字は使われなくなったが、第8代将軍の吉宗が1720年に洋書を解禁して、オランダ式ローマ字 (*ta ne to e te to*) が使われるようになった。

明治時代に入り、西洋文化が積極的に取り入れられるようになり、日本式ローマ字 (*sa ne tu se to*) やヘボン式ローマ字 (*ta chi tsu te to*)、ドイツ式ローマ字 (*ta tsi tsu te to*)、フランス式ローマ字 (*ta tsi tsou te to*)、など、さまざまな形式のローマ字が登場した。

混乱を避けるため、日本政府は1937年に日本式をやや簡略化した「訓令式」を使用する
したが、第2次世界大戦後に、英語により近いヘボン式も認めるといふ告示が出されたのだ
た。



ものの起源

駅の忘れ物

発見された最初の忘れ物は下駄だった

拾ったお金を警察に届けた場合、持ち主が6カ月間現れないと拾った人のものになる——こう思いこんでいたら、時代遅れだ。

遺失物の所有権が拾った人に移るまでの期間が1年と定められたのは、明治のこと。それが1958年に6カ月に短縮され、2006年には、さらに3カ月に短縮された。ちなみに、埋蔵金のように土の中から発見され、所有者が簡単に識別できないものは6カ月のままとまっている。

ところで、遺失物が多い場所といえば、やはり列車内や駅だろう。駅ではじめて遺失物とされたのは下駄だった。1872年10月14日の鉄道開業の日に、横浜行き列車が出発したあとのホームに下駄が揃えて置かれていたのである。

どうやら、列車が土足厳禁だと思いこんで、素足で乗りこんだ乗客がいたらしい。そして、これ以降も履物の忘れ物は多発したという。

ものの起源

パトカー

最高速度はなんと時速26キロ

世界ではじめてパトカーが配備されたのは、1899年のアメリカ・オハイオ州のアクロンという町だ。世界初のパトカーはワゴンタイプの電気自動車で、最高速度は26キロ、走行可能距離はわずか48キロだった。そして、初仕事は酔っ払った男の収容だったそうだ。

日本初のパトカーは1950年、当時、自治体警察だった警視庁に導入された3台で、すでに無線が装備されていた。ただし、巡視や警戒などが目的で、自動車やオートバイを取り締まる交通パトカーの配備は、7年後の1957年。

ところで、パトカーといえば白黒ツートンが特徴だが、最初は真っ白だった。しかし、車体の汚れが目立つのでアメリカのパトカーをまねて、自動車の下部を黒色に塗るようになったのだ。

ものの起源

ネクタイ

恋人から贈られた兵士の首巻き

ネクタイの起源は17世紀にまでさかのぼる。当時のフランス国王ルイ13世を守るために、クロアチアの兵士がフランスにやって来たが、彼らは「クラブット」というスカーフを首に巻いていた。「無事に帰還してほしい」と願った妻や恋人から贈られたもので、これがネクタイのルーツだそうだ。

このクラブットがフランスの上流階級で好まれるようになり、それがイギリスに伝わったという。

現在ではネクタイといえば、フォア・イン・ハンド・タイ（体の前に下げる長いタイプ）が主流だが、クラブットから最初に派生したネクタイは、結び目のみを残した蝶ネクタイで、上流階級ではこちらが好まれた。それに対し、フォア・イン・ハンド・タイは馬車の御者が使ったのが最初で、労働者階級に広まっていった。ちなみに、フォア・イン・ハンドとは「4頭立ての馬車」の俗称だ。

ものの起源

「子」という名

平安時代に「子」をつけられたのは
上流階級だけ

明治安田生命が2018年に発表した「名前ランキング」によると、女の子に最も人気の名前は「結月」で、「結愛」「結菜」「杏」がそれに続くそう。かつては女の子の名前の定番だった「子」がつく名前は「莉子」がかるうじてベスト10に入るに留まった。この結果を見ると、どうやら「子」はイケていない名前と思われるようだが、その由来を知れば印象が変わるはずだ。

「子」の字が名前に利用されるようになったのは、中国の春秋時代（紀元前770〜前403年）といわれている。このころの「子」は先生という意味の尊称で、我が子の名前に使うことで、才能豊かな人になってほしいという願いを込めたのである。

女性の名前に使われるようになったのは平安時代だが、明治前期までは公家や華族の女性にしか使われることがなかった。つまり、当時はとても高貴な名前だったということ。そんな「子」という字を使えるとは素敵なことではないか。

ものの起源

駅ナンバリング

ローマ字が苦手な外国人が多いためにできた

東京や大阪で電車や地下鉄に乗ると、駅名の下にアルファベットと数字が振られているのに気づく。これは「駅ナンバリング」といって、日本を訪れる外国人にもわかりやすいようにつけられたもの。2002年に「日韓サッカーワールドカップ」が開催されるのに合わせて、横浜市営地下鉄が導入したのが最初だ。その後も地下鉄や私鉄で導入が進み、東京オリンピックの開催が近づいたことから、2016年にはJR東日本も首都圏エリアに導入した。

「ローマ字表記があるじゃないか」と思った人もいるだろうが、外国人にとっては、たとえば「Shinjuku（新宿）」と「Shimbashi（新橋）」の違いを見分けるのは難しいそう。そのため、路線名をアルファベット1文字（関西やJR東日本では2文字の路線もある）で表わし、それに駅番号が組み合わされるようになった。なお、駅番号は原則として西または南から01、02と割り振られていく。

ものの起源

成人

日本で20歳が成人と定められたのは

明治9年

何歳から成人かは国によって異なるが、日本ではずっと20歳が成人年齢とされてきた。これは、今から140年以上も前の1876年（明治9年）の「太政官布告」で決められたものだが、古代までさかのぼると、21歳以上を成人とみなしていたこともある。ところがその成人年齢が、18歳に引き下げられることになった。施行は2022年4月1日で、これもある意味で「はじまり」といえるだろう。この日からは18歳でも親の同意なしでローンが組めるし、民事裁判を1人で起こすこともできる。ちなみに、選挙権については、すでに2016年夏の参議院議員選挙から18歳以上が投票できるようになっている。

ただし、心身への悪影響を考え、飲酒や喫煙、ギャンブルなどができるのは現在と同じ20歳以上のみだ。また、いままでは16歳でも親の同意があれば結婚できた女性の結婚可能年齢が、今回の改正で18歳に引き上げられた。

ものの起源

トイレット

ペーパー

当時は買うのが恥ずかしかった

総務省の「家計調査」によると、全国でトイレットペーパーの消費量が最も多いのは滋賀県大津市だという。買うのは年5288円。平均が2880円だから、1・8倍にもなる。大津の人はトイレへ行く回数が極端に多いのだろうか。

ところで、いまのようなロール型のトイレットペーパーが量産されるようになったのは1880年ごろとか。アメリカのスコット兄弟とイギリスのオルコックが生産を始めたが、どちらが先かは明らかになっていない。これは余談だが、当時、トイレットペーパーを買うのはとても恥ずかしかったそうだ。

日本ではじめてトイレットペーパーが使われた時期はわからないが、1899年5月1日発行の『中央日報』の広告にトイレットペーパーという言葉が出てくるから、これ以前に使われていたようだ。国内生産は1924年に開始。「土佐紙会社の紙が島村商会で加工され外国航路の汽船に積まれた」という記録が残っている。

ものの起源

日本初のトンネル

やばけい

大分の耶馬溪に完成したトンネルは
有料道路でもあった

日本が打ち上げた月探査衛星「かぐや」で、月面に全長50キロにもおよぶトンネルが発見され、月面基地に利用できるのではないかという期待が高まっている。この月面トンネルは、10億年ほど前に自然にできたものだが、地球最古の人工トンネルは、今から4000年ほど前にユーフラテス川に造られたバビロンの水底トンネルだといわれている。宮殿と神殿をつなぐためにレングとアスファルトで造られ、全長は900メートル以上というから、現代の技術者もびっくりの高度なトンネルといえる。

記録に残る日本初のトンネルは、大分県の耶馬溪に残る「青の洞門」だ。住民が通れる安全な道がないことを知った禅海和尚が、1735年にノミと鍬つちだけで掘りはじめたトンネルで、完成したのは1764年だったというから、約30年かかったのだった。ちなみに、青の洞門を通行するには「人4文、牛馬8文」の料金が取られたので、日本初の有料道路ともいわれているそうだ。

ものの起源

義務教育

はじめの日本の義務教育は4年間だった

義務教育とは、国が国民の子に教育を受けさせるのを義務づけていることをいう。日本では小中学校の9年間だが、ドイツでは13年間、イギリスでは11年間、フランスでは10年間。アメリカでは州によって異なるが、基本的には日本でいうところの小学校から高校までの12年間と、国によってだいぶ違う。

義務教育が世界ではじめて法制化されたのは1852年のアメリカで、「マサチューセッツ州義務教育法」を皮切りに各州でどんどん制定された。次いでイギリス、フランスなどでも義務教育が制度化された。

日本では1886年の小学校令で、はじめて4年間の義務教育が定められ、やがて6年に延長され、さらに1941年の「国民学校令」で8年間になった。9年制になったのは、第2次世界大戦後に教育基本法が制定されてからだから、けっこう歴史は浅いものなのだ。

ものの起源

ボランティア

神の意志に従う人のこと？

ボランティアは、「自由意志」という意味のラテン語「voluntas（ボランタス）」から来た言葉だ。その歴史は古く、11世紀末に始まった十字軍遠征の際に「神の意志に従う人」のことを指したとも、1647年のイギリスで自警団を指したともいわれている。しかし、現在のように「困った人を助ける」という意味のボランティアのルーツは、「セツルメント運動」といって、1884年にイギリスのバーネット牧師夫妻が貧困問題解消のために始めた活動だとされる。

日本でボランティア活動が始まったのは、1897年のこと。アメリカ留学中にイギリスから伝わったセツルメント運動に触れた片山潜せんが、帰国後、東京の自宅をキリスト教社会事業の拠点としたのが最初だ。しかし、日本にボランティア活動が本格的に定着したのは阪神・淡路大震災以降のことで、この年を「ボランティア元年」と呼ぶことも多い。

ものの起源

競馬

ルーツは古代ローマの戦車競技

競馬のルーツは、映画『ベン・ハー』にも登場した古代ローマの戦車競技にまでさかのぼる。しかし、現在ののように勝馬に賞金が与えられるようになったのは18世紀のイギリスで、その後、馬券が売られるギャンブルに発展していった。

馬を競わせる風習は日本にも古くからあり、『続日本記』には701年5月5日に「走馬が行われた」という記述がある。「競馬」という言葉は、この「走馬」が変化したもので、平安時代に使われるようになった。その後、競馬は神社の境内で行われるようになり、京都の上賀茂神社では現在も残されている。

近代競馬が日本ではじめて行われたのは、江戸時代の末で、イギリス人などの居留民が横浜の根岸に馬場を仮設して開いたもの。1866年に江戸幕府が横浜競馬場を根岸に設けると、そこで競馬が開催されるようになった。

ものの起源

黒板

外国人教師が使ったブラックボード

学校生活でおなじみの黒板が最初に使われたのは16世紀頃のヨーロッパだ。それが普及したのは教育制度が確立した19世紀からだ。

日本では、江戸時代から寺子屋で漆塗りの「塗板」が使われていたが、現在の黒板のルーツといえるものは、東京師範学校で外国人教師のスコットが、1872年（明治5年）にアメリカから取り寄せた「ブラックボード」が最初だ。

翌年、全国各地に小学校が設立され、「ブラックボード」は大量に輸入されて全国に広まり、次第に「黒板」と呼ばれるようになった。日本ではじめて黒板が製造された当時は板に墨汁と柿渋を塗ったり、漆が塗られていたので表面がひび割れやすく、しかも反射して見にくかった。

ところで、最近の黒板は緑色だが、これは1954年にJIS規定によって変更されたもの。黒色よりも緑色の方が目が疲れにくいという理由からだ。

ものの起源

パスポート

日本ではじめて交付されたのは芸人さん

パスポートをきちんと説明すると、「海外へ旅行しようとする自国民の身分を証明し、旅行先の国に対して便宜供与と保護を求めるために政府が交付する公文書」となる。なんとも面倒くさい表現だ。

その歴史はとても古く、かつてメソポタミア北部のミタンニ王国が、紀元前14世紀にエジプトへ使者を派遣する際、途中の諸国の王に対し、安全な通過を要求した「アマルナ文書」が、現存する最古のパスポートだそうだ。

また、古代ローマの市民が旅行するのにも、「この旅行者に危害を加える者は、ローマ皇帝に宣戦布告したものとみなす」という文書を持ち歩いていた。

日本ではじめてパスポートが発行されたのは、江戸時代末期。曲芸団がパリ万博へ行くときに江戸幕府が発行したもので、当時は「印章」と呼ばれた。写真がなく、年齢、身長のほか、「鼻高キ方」「面細長方」のように、人相書きがあったそうだ。

ものの起源

税

日本では1300年以上前から

税の最も古い記録は、古代エジプトの遺跡から発見されたパピルス文書に書かれた農民からの徴収記録らしい。

日本で正式に税が徴収されるようになったのは、646年に行われた有名な「大化の改新」からのこと。土地と人民はすべて国家の所有と定めた「公地公民制」が確立して、「租そ（米を納めること）・庸よう（労役）・調ちよう（特産物）」という3種類の税が課せられるようになったのだった。このあたりは学校の教科書に出てくる。

室町時代に入ると、収穫された作物にかけられる年貢が税の中心になり、江戸時代末期まで続いた。

しかし、年貢は収穫量に左右されるために予想がつきにくい。そのため明治時代に入ると、所有している土地の価格や収入、会社の利益に対して課税されるという現在の仕組みが取り入れられたわけだ。

ものの起源

航空会社

日本初の東京・大阪便は

大卒初任給並みの運賃だった

ライト兄弟がはじめて動力飛行に成功してから6年後の1909年……なんと航空事業が始まったというから驚きだ。ただし、このとき使われていたのは飛行機ではなくて飛行船。ドイツの発明家フェルディナンド・ツェッペリン伯爵が飛行船で旅客輸送を始めたのが、世界初の航空会社なのだ。ちなみに、この会社のヒンデンブルク号がアメリカで爆発炎上事故を起こしたことは有名だ。

飛行機を利用した航空会社は、1914年に設立されたサンクトペテルブルク・タンパベイ・ポート・ラインといわれている。最初の乗客はロシアのサンクトペテルブルクの元市長で、タンパまでの約23分のフライトに400ドル（現在の約100万円）を支払ったという。

日本初の航空会社は1951年に設立された日本航空で、東京・大阪間で運航が始められた。ちなみに当時の運賃は6000円で、大卒初任給並みだった。

ものの起源

シェフの帽子

有名シェフをまねして広まった

料理の国籍を問わず、ほとんどの料理人は帽子をかぶっている。髪の毛が料理に落ちるのを防ぐのが目的だが、それなら西洋料理の料理人がかぶっているような背の高い帽子は必要がないはずだが……。

はじめてあの高い帽子をかぶったのは、18世紀のフランス人シェフのアントン・カーレムだという。客がかぶっていた背の高い白いシルクハットを気に入ったカーレムが、背の高い帽子を調理場にかぶるようになったらしい。当時、カーレムは有名なシェフだったので、その高い帽子がたちまちフランス中のシェフに広まったとか。

ちなみに、日本のシェフが高い帽子をかぶるようになったのは昭和初期から。1927年に帝国ホテルが数名の料理人をフランスのホテル・リッツに派遣した際、ホテルのシェフの高い帽子を見て、帰国後にかぶるようになったそうだ。

ものの起源

日本のタクシー

初乗り3000円という高級移動手段だった

もともと「タクシー」は、19世紀にドイツ人が発明した、時間と距離を測定する装置の名前だった。それが1890年ごろからベルリンやパリを走る自動車や馬車に取りつけられ、時間や距離に応じて料金を支払うシステムができたことから、常用旅客自動車の名前になった。しかし、タクシーのルーツはこのメーターが取りつけられるより古い17世紀の辻馬車にまでさかのぼる。当時、ロンドン市内を走っていた辻馬車は約700台。18世紀末には1000台にまで増加したという。

日本にタクシーがお目見えしたのは1912年だった。東京・銀座の数寄屋橋そばで「タクシー自働車」という会社が、T型フォードを6台そろえて営業を開始したのが最初だそう。当時の料金は、最初の1・6キロが60銭。現在の価値に換算すると3000円ほどだから、かなりの高額だった。それでも需要は多く、わずか15年でタクシーの台数は1000台以上になったという。

ボーナスを日本ではじめて支給したのは？

Ⓐ 第一銀行

Ⓑ 海援隊

Ⓒ 三菱商会

日本では、夏季と年末に定期的に支給される一時金をボーナスと呼ぶことが多い。これは、江戸時代に徒弟や使用人に「おしきせ」や「小遣い銭」という名で、盆と暮れに小遣いを与えた風習に由来している。しかし、本来のボーナスとは、予定以上の利益が出た場合、その一部を従業員に分配することをさす。じつは、日本ではじめて支給されたボーナスは、こちらの意味が強いものだった。

日本ではじめてボーナスを出したのは、三菱商会だとか。坂本龍馬が作った海援隊の事業を引き継いだ三菱商会は、海運業で莫大な利益をあげた。その利益の一部が1876年（明治9年）に特別支給したのが日本初のボーナスなのである。ちなみに、金額は、上級社員が5円、下級社員が1円だったそうだ。

豆知識 当時の1円を現在の価値に換算すると1万円程度

日本初の警察用オートバイは何色だった？

Ⓐ 白

Ⓑ 黒

Ⓒ 赤

パトカーよりさらに高い機動力を発揮する白バイは、1908年にアメリカのミシガン州デトロイト警察で利用されたのが最初とされている。ただし、白バイという名は日本独自のもので、欧米では単に「警察のオートバイ」や「モーターサイクル・ユニット」などと呼ばれている。

日本の警察がはじめてオートバイを導入したのは1918年（大正7年）だった。アメリカのインディアンというメーカーの車両を輸入し、真っ赤に塗られた。そのため「赤バイ」と呼ばれていた。この赤バイが白バイに変更されたのは、1936年。欧米の警察が使っているオートバイが白色だったのにならって変更されたのだ。ちなみに、現在は法律で「色は白」と定められている。

豆知識 白バイの技術向上のため毎年「白バイ大会」が開かれている

道の駅が最後までなかった都道府県はどこ？

- Ⓐ 沖縄県
- Ⓑ 埼玉県
- Ⓒ 東京都

ドライバーやライダーにとって、オアシスとなっているのが「道の駅」だ。道の駅は、1990年に広島市で行われた「中国・地域づくり交流会」での提案がきっかけになって社会実験が始まった。まず1991年から翌92年にかけて、山口県と岐阜県と栃木県の3県に実験的に設けられた。

そして93年に全国103カ所の道の駅が登録されたのが「はじまり」とする意見もあるが、社会実験に参加した後、正式な道の駅になった山口県阿武町あぶの施設には「道の駅発祥の地」という石碑が建っている。

現在、道の駅は全国に1100カ所以上あるが、最後に設けられた都道府県は東京都。2007年に「八王子滝山」が開設され、47都道府県すべてに設置された。

豆知識 道の駅のトイレは24時間無料で利用できなければならない

世界遺産が最も多い国はどこ？

Ⓐ イタリア

Ⓑ 中国

Ⓒ フランス

私たちには、昔から引き継がれてきた人類共通のかけがえない宝物を未来へ伝えていく義務がある——この考え方のもと、ユネスコ総会で「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」という国際条約が採択された。これが世界遺産という制度の誕生で、1972年のことだった。

そして、1978年にアメリカで開かれた第2回世界遺産委員会で、エクアドルのガラパゴス諸島やポーランドのクラクフ歴史地区、アメリカのイエローストーン国立公園などの12件が世界遺産に登録されたのがはじまりである。

ちなみに、2018年9月末時点での登録数は1092件。最も多くの世界遺産国はイタリアで54件だ。

豆知識 日本の世界遺産登録件数は22件で、世界12位

最も古い盲導犬の記録が発見されたのは？

- Ⓐ 4000年前のエジプト
- Ⓑ 2000年前のイタリア
- Ⓒ 7000年前の中国

盲導犬の訓練はたいへん難しいとされているから、歴史は浅いと思いがちだ。しかし、イタリアのポンペイ遺跡からは、目の不自由な人が犬と一緒に歩いている様子が描かれた紀元1世紀ごろの壁画が発見されている。

とはいうものの、正式に盲導犬の訓練が行われるようになったのは19世紀に入ってから。パリの病院でヨハン・クライン神父が、犬の首輪に細長い棒をつけて訓練したのが最初だそうだ。

日本に盲導犬が紹介されたのは1938年で、その翌年にはドイツから4頭の盲導犬が輸入されるなど育成が始まった。しかし、第2次世界大戦で活動は頓挫し、本格再開したのは1950年からだった。

豆知識 日本の盲導犬は道路の左側を歩くように訓練されている

第5章

スポーツのはじまり おもしろ雑学

——思わず話したくなる「スポーツ」の物語あれこれ



ものの起源

軟式テニス

用具代を節約するために考えだされた

日本テニス協会の調査によると、2017年度の日本のテニス人口は439万人。バブル崩壊後の低迷をようやく脱出し、しっかり増加しているという。

テニスのルーツは13世紀ごろにフランスの王族や貴族、僧侶などが楽しんでいた「ジュード・ポーム（手のひらゲーム）」にたどりつく。ただし、名前からもわかるとおり、手を使って打ち合っていた。ラケットが登場したのは16世紀ごろで、その後、イギリスに伝わると、1874年にウォルター・ウィングフィールド少佐が、テニス用具やルールなどを考えて特許を申請した。そして、そのわずか3年後には第1回全英選手権大会（ウィンブルドンテニス大会）が開かれたのだ。

日本にテニスを紹介したのは、明治に体育教師として来日したアメリカ人ジョージ・リーランドだが、用具がとても高かったので、日本の工場で作ったゴムボールを利用した。これが軟式テニスの由来だという。

ものの起源

テニスのラブ

フランスで発展していたら

いまも「ラブ」は「レフ」のまま

テニスをよく知らない人が首をかしげるのが点数の数え方だ。たしかに「0点」のことを「ラブ」というのは不思議だが、これは、テニスのルーツに理由がある。

テニスに「ジュー・ド・ポーム」といわれていたころ、「0点」は「l'oeuf（レフ）」と呼んでいたという。レフとは卵のことで、数字のゼロと形が似ているのに由来している。その後、テニスはイギリスに伝わって発展するが、イギリス人は「レフ」という発音が苦手で、「ラブ」になったそうだ。

また、点数を15点、30点、40点と数えるのには、時計の文字盤を点数のカウントに使っていた、テニスを愛好していた僧侶たちが15分単位の生活をしてきたなど、諸説ある。でも、それなら40ではなく45になるはず——これについては、「フォーティ・ファイブ」では長いので、「フォーティ」になったという説が有力だ。

ものの起源

カーレース

最速は、なんと蒸気自動車だった

なんであれ、「競う」ことは人間に刻みこまれた本能なのだろうか。それは、ガソリンエンジンで動く自動車が生じたわずか9年後に、カーレースが行われたことからわかる。

世界初のカーレースは、1894年の「パリールーアン・トライアル」だった。126キロを走りきるレースで、ガソリンエンジン車ではなく、電気自動車や蒸気自動車なども出場して優劣を競った。その結果、最も速くルーアンに到着したのは蒸気自動車だった。だが、ドライバーのほかに「かまたき係」が乗っていたので優勝とは認められず、2着と3着のガソリンエンジン車に1等賞金が分け与えられた。

日本のカーレースは、1936年に東京の多摩川河川敷にスピードウェイが建設されたのを機に始まったが、第2次世界大戦で中断。本格的に再開されたのは、1962年に三重県鈴鹿市に鈴鹿サーキットが完成してからである。

ものの起源

格闘技のリング

ボクシングの試合で使われてから

ボクシングやプロレスなどの格闘技が行われる試合場を「リング」という。リングとは「輪」もしくは「輪のような形をしたもの」だが、あのリングは真四角だ。それなのになぜ「輪（リング）」と呼ばれるようになったのか。

リングの名称はまず、ボクシングで使われるようになった。拳で殴り合う「スポーツ」は、紀元前からあったが、現在のボクシングのルールの基礎が作られたのは18世紀のこと。1743年にジャック・ブロートンという人物がボクシングルールを作ったのだが、そのなかに「試合は、硬い土の上に作られた直径25フィート（7・62メートル）のリングの中で行われるものとする」という項目があった。

のちに、試合場は、四方に4本の杭くいを立ててロープを張った正方形になったが、リングという名だけはそのまま使われたというわけだ。

ものの起源

ラグビー

イギリスのサッカーの試合で生まれた

1823年にイギリスのラグビー校でサッカーの試合があった。その途中で、1人の生徒がいたずら半分にボールを抱えて走りだしたのがきっかけで生まれた……。

しかしこのエピソードに対し、現在のラグビーは、イギリスで12世紀ごろからあった「マス・フットボール」が発祥だという説もあり、国王が「風紀を乱す」としてたびたび禁止令を出したという記録も残っている。

とはいうものの、ラグビー校の校庭には「1823年、フットボールのルールを無視し、はじめてボールを腕に抱えて走りだし、ラグビーゲームの独特の形をつくりだしたウィリアム・ウェブ・エリスの功績を記念する」という石碑が残っている。

日本にラグビーが伝わったのは1899年。慶應義塾大学に赴任したエドワード・クラークとケンブリッジ大学に留学していた田中銀之助の2人によって、学生にラグビーの指導が行われたのが最初という。

ものの起源

ラグビー―監督の席

監督が観客席に

座るようになった理由

ラグビーの監督は観客席にいる。他のスポーツを見慣れていると、この監督の居場所に違和感があるが、なぜこうなったのだろうか。

前項で紹介したラグビー校は、パブリック・スクールといって、貴族の子弟たちが通う名門私立高校。ラグビーはこの学校以外にも、イートン校やハロー校といった名門私立高校中心に親しまれていった。このような名門校には、「生徒たちの自立心を養う」という大切な務めがあった。将来は、親の後を継いで領地や組織をまとめるという大切な仕事待ち構えていたからである。

そこで、ラグビーでも、監督の指示を受けず、選手たちだけで戦略を考えるように求められた。やがてそれが、「ハーファタイム以外、監督からの指示を受けることができない」という規則になり、それなら監督は、全体を見渡せる観客席に座って試合状況を確認かめた方がいいだろう、となったわけだ。

ものの起源

ラグビーの

ユニフォーム

横じまのユニフォームという常識は

日本でしか通用しない

日本ではじめてラグビーに触れた慶應義塾大学のユニフォームは黄色と黒の横じま、早稲田大学は、えんじと黒の横じま、明治大学も白と濃紺の横じま、そして日本代表のユニフォームは赤と白の横じま。だから、日本でラグビーのユニフォームというと横じま柄のイメージが強く、横じまのシャツは「ラグーシャツ」とも呼ばれる。

しかし、世界では無地のユニフォームを着ているチームの方が多く、ヨーロッパで「ラグーシャツ」といったら、単色で襟のあるシャツを指している。

ところが、日本は国際試合デビューが遅かったため、すでに単色に空きがなかったので、しかたなく、日本代表は赤と白の横じまのユニフォームを着るようになったという切実な理由がある。そして、大学チームなどもこれにならって横じまユニフォームになった。ちなみに、日本代表が「縦じま」ではなく「横じま」を採用したのは、体格を少しでも大きく見せるためだったらしい。

ものの起源

闘牛

日本の闘牛とスペインの闘牛は似て非なるもの

最近では「動物を虐待する残酷なショーだ」といって闘牛に対する風当たりが強くなっているそうだが、スペインでは国技とされ、いまでも大人気のイベントである。

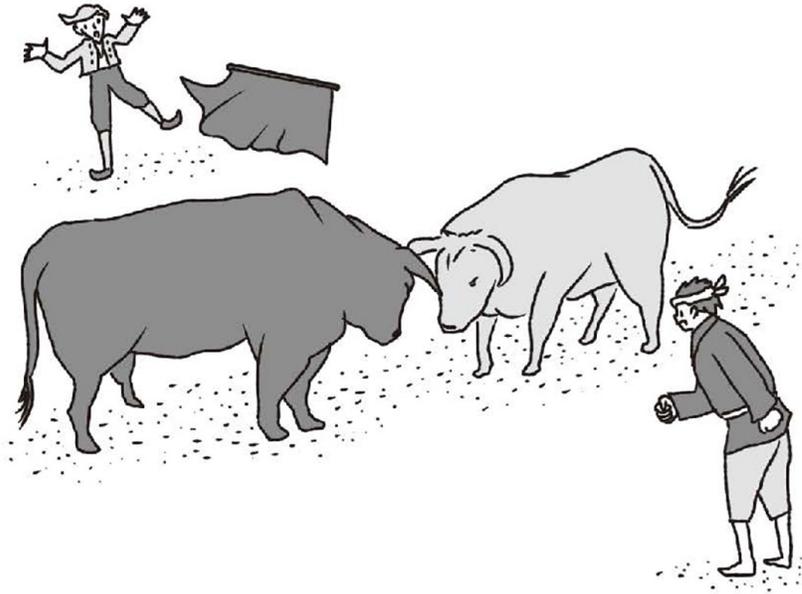
しかし、国技とはいうものの、17世紀末まで王侯貴族の高貴な遊びであり、一般大衆が気軽に観られるようなイベントではなかった。現在のように多数の観客を集めてプロの闘牛士が牛と戦うスタイルになったのは、18世紀のブルボン王朝時代からである。

ところで、日本の一部地域でも闘牛があるのをご存じだろうか。ただし、スペインやメキシコなどの闘牛が人間対牛の戦いなのに対し、日本の闘牛は牛対牛の戦いだ。そのため「牛合わせ」や「角合わせ」ともいう。

もともとは神事だったもので、平安時代末期の1178年に後白河法皇が見物したという記録があるほど古い歴史を持つ。また、鎌倉時代の『鳥獣人物戯画』にも、闘牛の様子が描かれている。

かつては東京の両国国技館でも開かれていたが、1916年に動物愛護の立場から禁じられた。しかし、現在も岩手県や新潟県、島根県、鹿児島県、沖縄県などで行われ、とりわけ新潟県

長岡市・小千谷市の「牛の角突き」は国の重要無形民俗文化財に指定されている。



ものの起源

カーリング

日本初の大会は1937年と、意外と古かった

カーリングは取手のついたストーンと呼ばれる円盤を、標的めがけて滑らせる競技。なんとなく簡単そうだが、高度なテクニックと戦略が必要で、「氷上のチェス」という異名もあるほどだ。発祥の地はスコットランドで、1511年と書かれたカーリング用の円盤が発見されているので、16世紀初頭にはすでに行われていたようだ。ただし、16世紀の画家ブリュッセルの絵にもカーリングに似た遊びが描かれているから、オランダでも同時期に存在していたらしい。

その後、1838年にスコットランドで「グラント・カレドニアン・カーリング・クラブ」が創立され、1959年から世界選手権が開かれるようになった。

日本に紹介されたのは1936年と、意外と古い。長野県の諏訪湖^{すわ}で初披露され、翌年に山梨県の山中湖で大会が開かれたが、本格的に競技人口が増えたのは1998年の長野オリンピックで正式競技とされてからである。

ものの起源

野球

ルーツはイギリス説が有力か

アメリカの「ベースボール起源調査委員会」によると、野球は1839年にニューヨーク州に住む陸軍将校のアブナー・ダブルデーが考えたスポーツだという。しかし、13世紀にイギリスで誕生したという説もある。実際、イギリスで1789年に出版された絵本に「ベースボール」という題の挿絵も発見されている。

ただし、最初の野球チームが作られたのはアメリカで、1846年には1チームを9人とする規則も作られた。さらに、プロ野球チームもアメリカで誕生したシンシナティ・レッドストッキングスが最初である。

日本に野球が渡来したのは1872年。現在の東京大学に赴任したアメリカ人教師ホーレス・ウィルソンが、生徒たちにルールを教えたのが最初である。

プロ野球は、1934年にメジャーリーグが来日した際に結成した日本選抜チーム（現在の読売ジャイアンツ〈巨人〉）が母体となって始まった。

ものの起源

野球の9回制

料理人の苦情がきっかけで9回制になった

卓球やバレーボール、テニスなどは、規定得点制といって、定められた得点を先にあげた方が勝ちである。じつは、野球もはじめはこの規定得点制で、21点を先取したチームが勝ちとされていた。しかし、野球で21点取るのはかなりの実力差がなければ難しい。実際、1日で試合が終わらないということもよくあったようだ。

ところで、当時、野球を楽しんでいたのは上流階級の人たちで、試合後にはパーティが催されるのが常だった。しかし、料理人たちから「終わる時間がわからなければパーティの準備ができない」という苦情が寄せられ、現在のような9回制になったという。

ちなみに、10回ではなくてなぜ中途半端な9回になったのだろうか。これについては、当時アメリカでよく使われていた12進法に由来する説などがあるが、はっきりしたことはわかっていない。

ものの起源

サウスポ―

左腕投手は南側の腕を振るから

野球で左利きの投手をサウスポ―という。サウスは南で、ポ―は腕の意味。では、左腕を使う投手が、なぜ「南の腕」といわれるようになったのか。

これには複数の説がある。ひとつは、メジャーリーグのなかに南部出身の左利きの選手が多かったこと。つまり、南部出身だからサウスポ―というわけだ。

もうひとつは、野球場の配置に由来するという説だ。野球規則には「本塁から投手板を経て2塁に向かう線は、東に向かっていることを理想とする」とある。つまり、左利きのピッチャーがマウンドにいる場合、1塁側（南側）の腕を振るようになる。南側の腕だからサウスポ―と呼ばれるようになったというわけだ。

ちなみに、サウスポ―という言葉がはじめて使われたのは1880年ごろ。『シカゴニュース』の記者か、『ヘラルド新聞』の記者のどちらかが使ったといわれている。

ものの起源

始球式

日本初のボールを投げたのは大隈重信だった

日本の始球式はマウンドから投げるが、メジャーリーグの始球式は客席からボールを投げ、選手がそれをキャッチするという形式で1890年ごろに始まった。

ところが、ロナルド・レーガン大統領がお忍びでボルチモア・オリオールズの試合会場を訪れ、グラウンドから始球式をして以降、メジャーリーグでは、グラウンドかマウンドから行われるようになったのだ。

さて、日本ではじめての始球式は1908年。アメリカのメジャーリーグ選抜と早稲田大学野球部の試合があり、大隈重信がマウンドからボールを投げ、打者が空振りをするという現在の始球式の形式がこのとき成立した。

また、夏の高校野球では上空からボールが投下されるのが始球式となっているが、これが最初に行われたのは1923年の第9回大会。当時はヘリコプターも甲子園球場もなかったことから、複葉機ふくようきから鳴尾球場なるおに向かって投下されたという。

ものの起源

夏の高校野球

かつては敗者復活戦があった

はじめて高校野球大会が開かれたのは1915年の夏。朝日新聞社の主催で「第1回全国中等学校優勝野球大会」が大阪の豊中球場で開催された。名称が中等学校なのは、当時は旧学制が敷かれていたためで、現在の高等学校にあたる。阪神甲子園球場で開催されるようになったのは1924年からだ。また、第2回大会と第3回大会だけは敗者復活制度があった。

これに続き、1923年には毎日新聞社が主催する「全国選抜中等学校野球大会（現在の選抜高等学校野球大会）」が春季に始まった。この特徴は、各地方での試合成績などによって推薦されることだった。

また、1924年に東京で開催された「第1回明治神宮体育大会」は、春・夏の大会で活躍した中等学校のチームによる野球大会だった。この大会が、国民体育大会（国体）の前身なのである。

ものの起源

ナイトゲーム

早稲田大学野球部の2軍対新人の試合だった

夏のプロ野球の楽しみはナイトゲームだろう。アメリカではじめてのナイトゲームは1930年で、なぜかマイナーリーグで最初に行われたという。メジャーリーグでの最初は、1935年のシンシナティ・レッズ対フィラデルフィア・フィリーズ戦である。

日本ではじめてのナイトゲームは、メジャーリーグより2年早い1933年だった。ただしプロ野球ではなく、早稲田大学の戸塚球場で、野球部の2軍対新人の試合が行われた。

プロ野球のナイトゲームは、1948年に横浜ベイブルージェツ球場での読売ジャイアンツ対中日ドラゴンズ戦が最初である。ちなみに、この横浜ベイブルージェツ球場は1876年にクリケット場として造られた施設で、当時はアメリカ軍に接收されていて、いち早く照明設備が完備されていたのだ。

ものの起源

バレーボール

お年寄りでも楽しめる

スポーツとして考えられた

バレーボールは、YMCA（キリスト教青年団）の体育指導員ウイリアム・モルガンが1895年に考えたものだった。彼がバレーボールに求めたコンセプトは、たくさんの人が一度に楽しみ、しかも運動量がさほど激しくないスポーツだった。まさに、その思いどおりになり、最初の公開試合に、かなりのお年寄りも参加していたという記録が残っている。

バレーボールが日本に紹介されたのは明治後期だが、広まったのは大正からで、アメリカのYMCAから派遣されたフランクリン・ブラウンの努力によるものだ。ただし当時、ブラウンが広めていたのは16人制のバレーボールで、それがのちに12人制となり、1925年の第2回明治神宮体育大会からは9人制になった。

6人制が日本で採用されたのは1953年だが、いまでも9人制バレーボールの人気は高く、「全日本9人制バレーボールトップリーグ」も開かれている。

ものの起源

サッカー

ロンドンで世界初の協会が設立された

足で丸いものを蹴って争うというゲームは、紀元前のギリシアやローマ時代の壁画にも描かれている。中国にも紀元前2500年前後に同じような遊びがあったという記録があるほど、古くから行われてきたものだ。

スポーツとしてのサッカーが成立したのは、19世紀に入ってから。1863年にはロンドン周辺の11クラブが集まり、世界最初のサッカー協会「イングリランド・サッカー協会」が設立された。

日本にサッカーが紹介されたのは、そのわずか10年後で、イギリス海軍の少佐が、海軍兵学寮の生徒に教えたのが始まりとされている。

ところで、日本のリーグが発足したのは1993年。当時は10チームでスタートしたが、チーム数の増加とともにJ1、J2の2部リーグ制が導入され、さらにJ3リーグが設立されたのだ。

ものの起源

イエローカード

イエロー、レッドだけではなく

グリーンカードもある

サッカーの試合で、悪質な反則や非紳士的行為を取った選手やコーチに対し、警告の意味で提示するのがイエローカード。また、退場を命じるにはレッドカードが提示される。このようなカードの方法は、FIFAの審判委員ケネス・アストンが考案したものだという。

きっかけとなったのは、1966年にイングランドで開催されたワールドカップの準々決勝で、審判の警告が選手と観客に伝わらなかったことだった。そこでアストンは、万国共通の信号の色を思いついた。警告時にイエローカード、退場（試合の即座中止）時にレッドカードを出すというものだ。それがFIFAで承認され、1970年のワールドカップ・メキシコ大会から採用された。

ちなみに、U・12（12歳以下）の大会では、フェアプレーを發揮した選手やチームに対して、2004年からグリーンカードが提示されるようになった。

ものの起源

フットサル

ブラジル人サッカー選手が日本に紹介した

「フットサル」はスペイン語の「Fútbol de Salón」に由来しており、サッカーを表す「Fut」と、室内を意味する「Sal」を組み合わせた造語だ。ルーツとなった競技は2つあり、ひとつは1930年にウルグアイで考案された「サロンフットボール」。もうひとつは、イギリスではじまった「インドアサッカー」だ。主に欧米で楽しまれていて、壁で跳ね返ったボールも利用できるというスカッシュ風のルールである。

2つの競技の人気が高くなったので、1988年にFIFAが5人制室内サッカーの正式ルールを制定して、これが現在のフットサルのもとになった。

日本では70年代に来日したブラジル人サッカー選手が紹介し、「ミニサッカー」として広まった。その後、1989年の「第1回FIFAフットサルワールドカップ」に出場したが、優勝はブラジルで、日本はグループリーグ敗退に終わった。

ものの起源

フィギュア

スケート

18世紀後半にはすでに技術書があった

最近日本人選手が活躍しているフィギュアスケート。その歴史は古く、1771年にイギリスの砲兵士官が著した本が残されている。この本にはなんとループやスパイラルなど、現在のフィギュアスケートの技術がすでに紹介されている。

フィギュアスケートの世界選手権が最初に開かれたのは、1896年。ロシアのペテルブルクで開催され、現在に至っている。

日本に紹介されたのは、その大会前の1895年ごろだった。しかし普及はなかなか進まず、日本初の競技会が開かれるまでには、それから4半世紀以上待たなければならなかった。

ところで、フィギュアスケートで回転することを「スピン」という。一流選手は60回転以上できるそうだが、なぜ彼らは目を回さないのか。じつは、一流選手も最初のうちは目が回るが、練習をくり返すうちに慣れるという。

ものの起源

サイコロ

ローマを支配したカエサルも遊んでいた？

ゲームには欠かせないサイコロだが、そのルーツがいつ、どこなのかは定かではない。ただし、かなり古いのはたしかだ。インドではインダス文明（紀元前3000〜前1500年）の土製のサイコロが発見されているし、エジプトでも紀元前3200年以前と思われる象牙製のサイコロが発見されている。

ちなみに、紀元前1世紀に英雄カエサルが元老院に背いてルビコン川を渡る際に、「賽さいは投げられた」と叫んだのは有名だが、原文は「Aleajacta est」で、「alea」はサイコロという意味である。つまり、当時すでにサイコロがゲームや勝負ごとに利用されていたわけだ。

日本では、宮城県の多賀城跡や大阪府の狭山遺跡などから7世紀ごろの古いサイコロが発見されていることから、白鳳時代はくほう（645〜710年）にはすでに大陸から伝わっていたと思われる。

ものの起源

スキー

乃木希典が日本のクラブの開会式に
駆けつけた

スキーの歴史は古く、5000年以上前から雪の上を歩くために利用されていたと考えられている。北欧神話にも登場し、北欧のバイキングはスキーを武芸のひとつとしていたようだ。

スキーがスポーツとして考えられるようになったのは、18世紀に入ってから。1769年には北欧のクリスティアニア（現在のノルウェー・オスロ）で最初の競技会が行われたのだ。

日本にスキーを紹介したのは、江戸時代後期に樺太からふとなどを探検した間宮林蔵とされているが、はじめてスキーの指導が行われたのは1911年だった。オーストリア陸軍のテオドル・レルヒ少佐が、来日中に新潟県高田（現在の上越市）の歩兵連隊を指導したのが最初である。翌12年には早くも日本初の競技会が開かれ、「越信スキークラブ」の開会式で乃木希典がスピーチをするほどスキーへの注目度は高かった。

ものの起源

スノーボード

考案者は世界王者となった

スポーツ庁の調査によると、過去1年間にスノーボードを楽しんだ人の割合は、男性2・7%、女性が1・3%。キャンプやバスケットボールを楽しんだと答えた人とほぼ同じ割合だから、人気のスポーツといっていいただろう。

スノーボードの歴史は新しく、1963年に、当時中学生だったアメリカのトム・シムスがスケートボードを加工して作ったスキーボードがルーツとされている。ただし、一般に広まったのは70年代に入ってからで、1981年に初の競技会がコロラド州で開催された。ちなみに、シムスは1983年にスノーボードの世界王者となっている。

日本でも70年代から一部のマニアによって楽しまれていたが、世界に先駆けて1982年に「日本スノーボード協会（JSBA）」が発足し、翌年に第1回JSBA全日本スノーボード選手権大会が開催され、愛好家が急激に増えていった。

ものの起源

ボウリング

基本ルールを作ったのはマルティン・ルター――

紀元前5200年ごろのエジプトの遺跡から、石製のボウリングのピンが発見されたことがある。これが現存する最古のボウリング用具だ。

現在のボウリングに近いルールを作ったのは、宗教改革家として有名なマルティン・ルターだとか。16世紀初頭、ルターは9本のピンをひし形に並べてボールで倒すという競技ルールを作った。ちなみに、この「ナインピン・ボウリング」は、現在もヨーロッパで普通に行われている。

ピンが10本になったのは、アメリカ西部開拓時代に「ナインピン・ボウリングを禁じる」とされたため、ピンを1本足して罪を逃れようとしたのがきっかけだという。

日本にボウリングが伝わったのは江戸末期のことだ。長崎の出島にテンピン・ボウリングのレーンが設置され、1917年には東京・神田のYMCA体育館にも設置された。

ものの起源

ビリヤード

日本ではオランダ人が出島に持ちこんだ

ビリヤードはもともと屋外スポーツの玉突き競技だったが、やがて室内に持ちこまれ、1340年代にはすでに楽しまれていたという。フランスのルイ11世が屋内用のビリヤード台を持っていたという記録があり、1727年にはパリのほぼすべてのカフェにビリヤード台が置かれていたといわれる。

日本に伝わったのは、江戸末期ごろだといわれている。オランダ人がビリヤード台を長崎の出島に持ちこんだのが最初で、1871年（明治4年）には東京にもビリヤード場ができた。しかし、そのころの日本ではビリヤードは高尚なゲームで、出入りしていたのは主に華族や外務省の高官、高級軍人たちだった。

大正時代に入ると、ようやく一般大衆もビリヤードを楽しめるようになり、人気が大爆発した。昭和10年ごろのピーク時には、全国に2万軒ものビリヤード場があったという。

ものの起源

アメリカン

フットボール

ラグビー、ボストンゲーム、サッカーの
いいところ取り

アメリカンフットボールはその名のとおりに、アメリカで作られた競技。頂上決戦の「スーパーボウル」には10万人以上の観客が集まる。

アメリカンフットボールが誕生したのは19世紀末だ。イギリスでラグビー協会が発足したのを受け、いち早くそのルールを取り入れたカナダのマックギル大学と、それ以前からラグビーに似たボストンゲームを楽しんでいたアメリカのハーバード大学が、1874年にラグビーとボストンゲームの試合を行った。

この経験から、ハーバード大学でラグビーとボストンゲーム、サッカーを合わせた新しいスポーツが考えられ、現在のアメリカンフットボールのルーツになった。

日本では1934年に早稲田大学、明治大学、立教大学でチームが作られ、明治神宮外苑競技場（現在建設中の新国立競技場）で、3大学の選抜選手と横浜外国人クラブとのあいだで行われたのが最初の試合だった。

ものの起源

日本初のプロレス

靖国神社の相撲場で行われた

レスリングを職業とする人は、古代ギリシア・ローマ時代からいたが、現在ののようなショー的な要素が強いプロレスが生まれたのは19世紀のアメリカだ。ヨーロッパから導入されたフリースタイルのレスリングが独特の格闘技に発展して「プロレス」と呼ばれるようになったのだ。

当初は、アメリカ国内を巡業するサーカスのイベントだったが、やがて独立して興行になった。1905年に開かれた第1回世界選手権で、アメリカのフランク・ゴッチが、ヨーロッパ出身のジョージ・ハッケンシュミットを破って初代王者となると、アメリカでの人気は沸騰した。

日本ではじめて行われたプロレス興行は、1921年に、アメリカのアド・サンテルが柔道4段の庄司彦男（しんご ひこお）と靖国神社境内の相撲場で戦ったとされ、勝負は引き分けに終わっている。

ものの起源

空手

秘密の武術として沖縄で育まれた

空手の愛好者はなんと世界約190カ国・地域にいて、1億人を超えるそうだ。

日本の空手のルーツは沖縄だが、かつては「唐手」という漢字をあてていた。

沖縄で唐手（空手）が発達したのは、17世紀ごろとされている。沖縄を制圧した薩摩藩は、武器禁止令を発令した。これによって、自分の身を守る武器まで奪われてしまった沖縄の人々は、中国拳法を独自に変化させた唐手の鍛錬を密かに続けたという。ちなみに、当時は「唐手」とは「手」という。これもまた、薩摩藩の役人に武術の存在を知られないためだったという。

1922（大正11）年、東京の「講道館」道場。沖縄から出張していた船越義珍ふなこしぎちんが同門の空手家と2人で、嘉納治五郎かのうじごろうなど柔道家たち数百人に演舞を披露した。このとき、嘉納はその技に感銘を受け、「本土での普及に協力を惜しまない」と話したそうだ。

やがて慶應義塾大学の学内に「唐手研究会（現在の空手部）」ができた。日本ではじめての大学空手部で、それからは空手の武道性が注目され、東京帝国大学（現在の東京大学）、早稲田大

学など東京の大学に研究会ができていったのだ。全国的に受け入れられるようにと、「唐手」という呼び名を「空手」に改めたのは船越である。

かつて船越は師匠から「空手を私闘に使わない」と誓わされたという。そして、「空手に先手なし」という名言を残している。闘うためでなく、鍛錬を重ねて自分を高める空手を目指したのだが、その船越の生涯は、今野敏こんのびんの小説『義珍ぎちんの拳けん』に詳しく語られている。



ものの起源

柔道

青色の柔道着になったのは昭和63年

柔道を日本古来の武術とってはいいないか。厳密な意味でいうと、柔道は1882年（明治15年）に嘉納治五郎が日本古来の「柔術」から編みだした近代的な武術だ。勝ち負けだけでなく、体と心を育てることに重きを置いていて、1911年に学校教育に採用された。これで、柔道は主流の武術となっていったのだ。

第2次世界大戦後の1946年にはGHQの武道禁止令で学校教育からも外されてしまうが、ヨーロッパ柔道連盟が発足するなどで解除となり、1952年には国際柔道連盟が結成された。

そして、東京オリンピックで正式種目（女子はバルセロナ大会）になり、現在は重量別で男女とも7階級ある。ちなみに試合では、対戦する選手が白色と青色の柔道着を着ているが、これは、選手を識別しやすいように1993年から取り入れられた新ルールによるものだ。

ものの起源

ヨガ

広めたのは、なんと旧日本軍のスパイだった!?

健康にいいので日本でも大人気のヨガ。もともとインドでは、心と身体を統一し、物質の束縛から自由になるための修行法だった。起源はとても古く、紀元前2000年以上前に栄えたインダス文明のハラッパー遺跡では、ヨガのポーズらしいものが彫られた印章が出土している。また、紀元前1000年ごろの『ウパニシャッド聖典』には「ヨガ」という言葉が出ている。

世界へ広まったのは、1970年代の反社会的ヒッピー文化がインドの神秘主義に傾倒したのがきっかけといわれているが、日本に伝来したのはこれより1000年以上前にさかのぼる。平安時代の808年に唐から帰国した空海が仏教の極意とともに持ち帰ったが、当時は瞑想が中心で「瑜伽ゆが」といった。現在ののようなヨガを日本に広めたのは、旧日本軍の諜報員として大陸に渡っていた中村天風てんぷうだ。中村はヨガの修行後に帰国し、やがて天風会を設立してヨガの普及に努めたのだ。

ものの起源

マラソン

最遅記録は

54年8カ月6日5時間32分20秒3

紀元前490年の「マラトンの戦」で、ギリシア軍がペルシアの大軍を破った際に1人の兵士がアテネまで走り、その吉報を告げて息絶えた——これがマラソンの起源だ。しかし、このときの距離が42・195キロだったわけではない。

マラソンがこの距離で最初に行われたのは第4回ロンドンオリンピック（1908年）だった。当初は26マイル（約41・842キロ）の予定だったが、アレクサンドラ王妃の目の前で競技者をゴールさせるため、少し距離をのばして42・195キロに変更されたという。

現在のトップアスリートは2時間少々で走りきるが、逆に最も遅い記録というのがある。日本かなくりしそうの金栗四三の持つ「54年8カ月6日5時間32分20秒3」だ。金栗は1912年のストックホルムオリンピックの競技中に行方不明になり、その55年後にストックホルムに招待されてゴールテープを切ったのだ。

ものの起源

クラウチング・

スタート

当初はカンガルー・スタートといわれていた

陸上競技で、地面に両手をつけて走り出すスタート法はクラウチング・スタートと呼ばれる。ただしこれは和製英語で、英語では「クラウチ・スタート (crouch start)」だ。現在、400メートル以下の競技では、クラウチング・スタートになっているが、かつては定めはなかったようだ。

このスタート法がはじめて使われたのは1888年のこと。アメリカ・イェール大学のチャールズ・シェリル選手が、ニューヨークでの大会で使い、みごとに優勝を果たした。ちなみに、このスタートの考案者がオーストラリア人だったことから、当時は「カンガルー・スタート」と呼ばれた。

そして、1896年の第1回オリンピック・アテネ大会でトーマス・バークがただ1人クラウチング・スタートを使用し、男子100メートル走と400メートル走で2冠を達成してから世界に広く知られるようになった。

ものの起源

アイスホッケー

日本ではじめて行われたのは長野県の諏訪湖

残念ながら日本ではあまり人気のないアイスホッケーだが、アメリカでは野球やバスケットボールと並んで「四大スポーツ」に挙げられる超人気スポーツである。

そのルーツは、イギリスやオランダで19世紀初頭から行われていた「バンデイ」という競技だ。それがカナダに伝わり、1860年にロイヤル・カナディアン・ライフルズ連隊の兵士たちがキングストンの氷原で初めてパックを使った試合をしたという。やがて、世界初の公式アイスホッケーチームがカナダのマックギル大学で結成され、ルールも条文化された。

日本ではじめてアイスホッケーが行われたのは1915年。市民スポーツの父といわれる平沼ひらぬま
りようぞう

亮三がアイスホッケーの防具を輸入し、長野県諏訪湖で行われた。ただし、正式な試合は1923年に北海道帝国大学本科と同大学予科の間で行われたものが最初だった。

ものの起源

ゴルフクラブ

日本初のゴルフクラブに

日本人は入会できなかった

よく、セントアンドリュースという町はゴルフの聖地といわれる。それもそのはずで、誕生したのはなんと1754年なのだ。セントアンドリュースのあるスコットランドはゴルフ発祥の地といわれているし、このクラブ自体も22人の貴族によって興され、1834年にはウィリアム4世から「ロイヤル・アンド・エンシエント・ゴルフクラブ」という名誉ある名前もいただいている。さらに、ゴルフのルールを世界に先駆けて作ったのも、このセントアンドリュースだった。

日本初のゴルフ場を作ったのもイギリス人実業家のアーサー・グルームだった。彼は、1901年に兵庫県の六甲山にゴルフ場を作り、神戸ゴルフ倶楽部を設立。ただし、日本人は入会できなかった。

日本人が入会できた最古のゴルフクラブは、1914年に東京郊外の駒沢に発足した東京ゴルフ倶楽部だった。

ものの起源

1ラウンド18ホール

ホール数が減って喜んだ当時のプレイヤーたち

ゴルフは1ラウンド18ホールでプレーするが、なぜ20ホールというキリのよい数字ではないのだろうか。

じつは18ホールの由来もセントアンドリュースのコースにあった。かつては22ホールあったのだが、コースの一部を市に返還することになり、18ホールに縮小された。これを機に、他のゴルフ場も18ホールに統一されるようになったというわけ。

ちなみに、18世紀に使われていたゴルフボールは「フェザーリーボール」といって鳥の羽を馬や牛の皮でくるんだ重いもの。それを軽い木製のゴルフクラブで打っていたから、まったく飛距離が出なかった。22ホールを回るためには150打以上が必要な、ヘビーなスポーツだったのだ。

そのため、18ホールに縮小されて喜んだゴルファーは多かったという。

ものの起源

ゴルフボールの デインプル（穴）

ゴルフ好きの医師がボールを改良した

重いフェザリーボールは1850年代に入って、ようやく姿を消した。代わって登場したのは「ガッティ」というボールだ。これは天然樹脂を型に入れて作られたボールで、品質が一定で量産が可能だったから、手作りで高価、しかも品質にバラつきがあったフェザリーボールに取って代わった。

そのガッティボールを使っていたゴルファーが、ある日気がついた点が「使いこめば使いこむほど飛距離が出るようだ」ということ。次第に増える表面の傷が飛距離をのばしていたため、これが後のデインプルの発想につながったのだ。

ガッティボールもやがて消え、1905年には世界初のデインプルつきボールが登場した。ちなみに、ボールもデインプルつきボールも、発明したのはアメリカの医師だった。大のゴルフ好きで、少しでも飛距離を出したいという気持ちからゴルフボールをあれこれ改良していたという。

ものの起源

キャディ

「貴族の若者」と知ると

バッグなど持たせられない!?

キャディはただのバッグ持ちではなく、勝負を左右する重要な存在だ。プロの試合では競技者と一体とみなされ、キャディがルール違反をした場合は競技者にペナルティが科せられる。

しかし、名前の由来からは、その重要性はまったく想像できない。キャディという言葉が生まれたのは16世紀。フランスに嫁ぎ王妃の座にいたメアリー・スチュアートだったが、夫を失ったのでスコットランドへ戻って女王の座についた。

暇を持て余したメアリーはゴルフという遊びがあることを知り、庭で楽しみ始めた。その際、クラブを運んだり、遠くへ飛んだボールを探す少年たちを、使い慣れたフランス語の「カデ」と呼んだ。カデとは「貴族の若者」という意味だったが、言葉だけが一人歩きして変化し、プレイヤーを補助する人を「キャディ」と呼ぶようになったのである。

ものの起源

ゴルフの

ニッカボッカ

不正をしないという無言のアピールだった

ゴルフア—の中には時々、ニッカボッカという膝下までのゆったりしたズボンをはいている人がいる。ニッカボッカは、もともとオランダ人が好んだズボンで、正式には「ブリーチズ」だ。オランダ人移民に関する本を19世紀初頭に発表したワシントン・アーヴィングという作家が、デイトリヒ・ニッカーボッカーというペンネームを使い、そのズボンについて触れたためニッカボッカーズと呼ばれるようになった。

ゴルフでニッカボッカを履くようになったのは、不正をしていないというアピールをするためとか。ゴルフでは、茂みなどにボールを打ちこんで見失ってしまうとペナルティが科せられるが、それを嫌ってポケットに入れておいたボールをこっそり落とす人がいた。そのために、裾の広がったズボンをはいてくる人もいたらしい。でも、足もとが丸見えのニッカボッカをはいていれば、ボールを落とすのが見えてしまう。こうして「私は不正をしません」という無言のアピールをしたというわけだ。

ものの起源

卓球

ピンポンと名づけたのはイギリス人だった

卓球のルーツは、テニスと同じ13世紀ごろに楽しまれていた「ジュー・ド・ポーム（手のひらゲーム）」といわれている。これが室外へ出てテニスになり、室内に留まりテーブルを使って楽しまれるようになったのが卓球というわけだ。

卓球をピンポンと呼ぶが、これは1898年にイギリス人がアメリカ旅行中に見たセルロイド製のボールをイギリスへ持ち帰り、革張りのラケットで打った際の音が「ピンポン」と聞こえたことから。当時、イギリスで『ピンポン』という歌が大ヒットしたという記録も残っている。

日本に卓球が紹介されたのは明治時代で、岡山の第六高等学校や、横浜でも行われていたという記録がある。1902年にはイギリス留学から帰国した東京高等師範学校の教授がルールブックとラケット、ボールを10セット持ち帰り、パッと広まったという。

ものの起源

相撲

最古の記録は古代バビロンか、

『古事記』の神様か

相撲は日本の国技といわれている。しかし2人の男性が組み合って力くらべをするという競技は、大昔から世界中で行われてきた。最古の記録は、5000年前の古代バビロニアの遺跡で見された取り組み姿の青銅の置物だという。

農耕社会の日本では、豊作に感謝し、五穀豊穰を祈願する神事から生まれたものといわれ、

たてみかつちのかみ

たけみなかたのかみ

いなさ

『古事記』の「建御雷神と建御名方神が出雲の伊那佐の小浜で力比べをし、建御雷神の腕をつかんで投げようとした」という記述が相撲の起源とされている。また、3〜7世紀ごろの古墳時代の遺跡からは相撲の人形も出土している。

実際に相撲を取った最古の記録は、642年に百済の使者をもてなすため、宮廷の健児こんでい（兵士）に相撲を取らせたという『日本書紀』の記述だ。

現在のような職業力士が登場したのは、室町時代後期だった。京都・伏見に誕生した力士集団が地方を巡業したり、祭礼に参加して大衆の人気を得たという。

ものの起源

横綱

かじろう

西ノ海嘉治郎か、明石志賀之助なのか

相撲に欠かせないものといえ、横綱と行司だが、まず登場したのは行司だった。そのきっかけは、織田信長が12年間にわたって開いた「上覧相撲」である。日本全土から多くの力士たちが集まり、熱戦を繰り広げた。この際に勝敗を見極める役目として登場したのが行司だ。

また、現在では力士の最高位を示す横綱だが、元々は階級を示すものではなく、相撲の家元とされる吉田司家から横綱（白麻で編んだ太いしめ縄）を締めることを許された優れた大関力士を指したのだ。

横綱という名称がはじめて番付に記載されたのは1890年で、横綱第1号は西ノ海嘉治郎かじろうである。ただし、初代横綱とされているのは、四十八手の技を考案した江戸とされる時代の力士・明石志賀之助である。

ラグビーボールはもともと何でできていた？

① 豚の膀胱ほっこう

② ヤシの実

③ ダチヨウの卵

ほとんどの球技で使われるのは真円形のボールだ。真円でなければ変則的な動きをするので、競技が成り立たない。だから、プロ野球では1試合に100個近く使うケースもあるという。

ところが、ラグビーで使われているのは楕円形だえんけいのボール。それはなぜなのか。

ラグビー競技が確立したばかりのころに使われていたボールは、ぶ厚い革製で、とても重く硬かった。これでは使いにくく、新しいボールを探していたところ、靴職人が豚の膀胱ほっこうに空気を入れ、その上に牛皮を貼ることを思いついた。実際に作ると楕円形だえんけいになったのだが、「軽いし、楕円形の方がかえって持ちやすい」と選手たちの評判がよく、楕円形のボールがラグビーで使われるようになったそうだ。

豆知識 ヤシの実は堅そうだが、南の島では実際にラグビーに使われていた

はじめて持ち帰られた甲子園の土はどこにある？

Ⓐ 母校の校庭

Ⓑ 鉢植えの中

Ⓒ トロフィーの中

高校野球に出た選手たちは、必ずといっていいほど甲子園の土を持ち帰る。この「儀式」の最初は、1949年の大会だった。準々決勝で倉敷工業高校に敗れた小倉北高のエース福嶋一雄選手は、マウンドの土を握りしめ、無意識のうちにそれをポケットに入れていた。

本人はそれをすっかり忘れていたが、数日後、大会委員長から「君のポケットに大切なものが入っている」と書かれた速達が届いた。驚いた福嶋選手がすぐさまユニフォームを引っ張りだしてポケットを探ってみると、そこには甲子園の土が入っていた。ちなみに福嶋選手は、この土を自宅のゴムの木の植木鉢に入れた。その後、ゴムの木は世代交代をくり返したが、土は当時のままだという。

豆知識 川上哲治が甲子園の土を持ち帰った第1号という説もある

バスケットボール誕生のきっかけは何？

- Ⓐ 背の高い人に有利なスポーツを作りたかったから
- Ⓑ 冬にもできるから
- Ⓒ 誤って大きなボールを作ってしまった

アメリカンフットボールや野球と並んで、アメリカで大人気のスポーツがバスケットボール。年間観客動員数は、なんと2200万人を超えるという。

この人気スポーツが誕生したのは1891年のこと。マサチューセッツ州のYMCA（キリスト教青年団）教師が、冬の間には体育館内で楽しめるスポーツとして考えだしたものだ。同年の12月に行われた最初の試合で、桃の収穫に使う籠（バスケット）がゴールとして使われたので、「バスケットボール」と呼ばれるようになった。

日本にバスケットボールが伝わったのは1908年。アメリカへ留学していた大森兵蔵が帰国後、東京YMCAなどに教えたのが最初である。

豆知識 日本のプロ野球の年間観客動員数は約2500万人

スカイダイビングの最高速度記録は何キロ？

- Ⓐ 時速366キロ Ⓑ 時速512キロ Ⓒ 時速1322キロ

パラシュートでの降下は、1802年にフランスのアンドレ・ガルヌランが気球から脱出するために行ったのが最初である。その後は、もっぱら軍事目的で進められ、第2次世界大戦後のフランスでスポーツとしてスカイダイビングが楽しめるようになり、やがてユーゴスラビアで初の世界選手権大会が開催された。

日本初のスカイダイビングは1961年のこと。アメリカで降下技術を学んできた陸上自衛隊第一空挺団の隊員が千葉県習志野で行った。そして、その5年後には、日米対抗スカイダイビング競技会がアメリカ軍入間基地で開かれた。

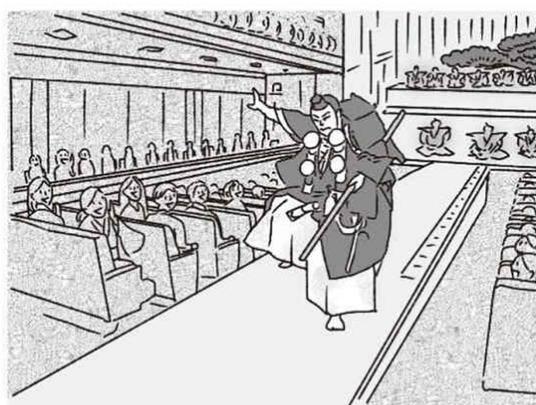
ちなみにスカイダイビングの降下速度は時速200キロほど。しかし、グーグル社の幹部アラン・ユースタスは成層圏から降下し、時速1322キロを記録している。

豆知識 スカイダイビングの死亡事故の発生率は5万回に1件程度

第
6
章

言葉のはじまりおもしろ雑学

— 知れば知るほど面白い、「ちょっとした表現・用語」の起源



ものの起源

無礼講

鎌倉幕府を倒すため

苦肉の策として取り入れられた

会社の宴会やパーティなどで、偉い人が「今日は無礼講でいこう」と言うことがあるだろう。

「無礼講」とは「身分の上下に関係なく、礼儀作法なしで催す宴会」という意味だが、最も有名

な無礼講は、後白河法皇が平氏打倒の陰謀を計画したとされる鹿ヶ谷しがたにの酒宴と、鎌倉幕府を倒した後醍醐天皇が催した宴席だ。

とくに、後者の宴席の様子は『太平記』にも「無礼講といって、参加者は烏帽子えぼしや法衣ほうえなど身分を示すものをすべて脱ぎ捨て、裸同然の格好で薄着の美女たちに酌をさせ飲み食いをした」と描かれている。このように無礼講の様子がわざわざ描かれているのは、当時、宴席では席次が厳しく決められ、公家よりも身分が低かった武家は天皇からはるか遠い席に座らされるのが当たり前だったからである。

格式張った宴席では、戦力となってくれる武家との密議などできなかつたため、諸天皇は苦肉の策として無礼講を利用したのだ。

ものの起源

りえん

梨園

唐の皇帝の庭に梨の木があったから

ワイドショーや週刊誌などで歌舞伎界の話が取りあげられることがあるが、よく目や耳にするのが「梨園」という言葉だろう。たとえば、女性が歌舞伎役者と結婚すると「梨園に入る」と表現するし、歌舞伎界独特のきまりを「梨園のしきたり」などというが、なぜ梨が歌舞伎に関係しているのだろうか。

8世紀の唐の第6代皇帝の玄宗は、音楽・演劇の愛好家だった。それが高じて、宮廷に所属する音楽・演劇の師弟300人あまりを庭に集め、自ら指導した。やがてその庭に音楽教習府が置かれ、師弟たちはそこで腕を磨いたというが、この宮廷の庭には梨の木があった。そこから梨園という言葉が生まれ、音楽・演劇界を示すようになった。

江戸時代に入り梨園という言葉が日本に伝わると、音楽・演劇のなかで当時最もさかんだった歌舞伎界を示すようになったそうだ。

ものの起源

サボタージュ

木靴で仕事を邪魔することから生まれた

ボイコットに似た行為にサボタージュがある。日本では「サボる」といって「自分の都合で仕事や授業を怠ける」という意味の方が一般化してしまっただが、本来は争議戦術のひとつで、「労働者が団結して仕事の能率を落とし、使用者側に損害を与えて紛争の解決を迫ること」を指していた。

サボタージュはフランス語で「意図的に仕事をしない」という意味だが、さらにさかのぼると「木靴」を意味する「サボ」に行き着く。木靴と意図的に仕事をしないということの関係には、いくつも説がある。

有力なのが、ヨーロッパの農民が領主の不当な扱いに抗議して収穫物を木靴で踏みにじたことに由来するという説。労働者たちが賃金引き上げを求め、木靴で工場の機械を壊して仕事をできなくしたという説や、フランスの国鉄でストライキがあったとき、労働者が木靴でレールをガングアン叩いて不満の意思表示をしたという説などだ。

ものの起源

さぼうる

店でサボる人が多いから

命名したわけではない

東京・神保町周辺の学校へ通っていた人なら、「サボる」という言葉を聞いて、喫茶店「さぼうる」を思い浮かべた人も多いのではないだろうか。ローカルな話と思うかもしれないが、「さぼうる」は1955年（昭和30年）創業の東京を代表する老舗喫茶店で、多くの作家や文化人も通いつめた店。店名の由来くらいは知っておいて損はないはずだ。

「さぼうる」は「この店でサボる人が多い」からつけられた名前と考える人もいるだろうが、正しくはスペイン語で「味」という意味の「sabor」が由来だ。

喫茶店つながりでもうひとつ紹介しておきたいのが、コメダ珈琲店の名物「シロノワール」の由来。実は、「シロ」は「白」で、「ノワール」はフランス語の「黒」という意外な組み合わせ。黒っぽいデニッシュの上に白いソフトクリームが載っているので、「白＋ノワール＝シロノワール」と命名したそう。

ものの起源

ガーター勲章

ジェントルマン精神が生んだ最高位の称号

勲章のランクは国によって異なるが、イギリス最高位の勲章を「ガーター勲章」という。ガーターとは、ご存じのとおり女性が使う靴下留めのことで、あまり人様に見せるものではない。それがなぜ、最高位の勲章の名になったのだろうか。

1339年、イギリスとフランスのあいだで百年戦争が勃発した。当初、イギリス軍は優勢で、敵の重要拠点だったカレーの占領に成功し、それを祝う宴が催された。ところがそのとき、国王の教育係だったソールズベリー伯爵夫人が、ダンスの最中にガーターを床に落としてしまったのだ。周囲の者たちが好奇心な視線を向けるなか、エドワード3世がそのガーターを拾いあげ、自分のひざ下につけると、「ガーターはまもなく最高の尊敬を得ることになるだろう」と言った。

エドワード3世は1348年にガーター勲章を制定。その言葉どおり、たいへん名誉ある勲章だったことから、誰もが熱望するようになったという。

ものの起源

ボイコット

なんと悪代官の名前だった

ボイコットとは「一致団結して特定の人を排斥したり、会合や運動などに参加しないこと」という意味だが、人名に由来していることはあまり知られていない。

その由来になっているのは、19世紀末にアイルランドの貴族領地の管理人をしていたチャールズ・カミングラム・ボイコット大尉だ。イングリランドからアイルランドへやってきたボイコット大尉は、借地代の値上げを農民たちに一方的に告げた。もともと苦しい生活を送っていた農民たちは強く反発。1879年に同盟を結成して25%の減額要求を突きつけた。だが、大尉はそれに応じようとしなかった。そこで、農民たちはボイコット大尉の食糧補給手段や通信を断って孤立させてしまった。

やがてボイコット大尉は財産まで奪われ、命からがらイングリランドに逃げ帰ったという。この事件が当時の新聞でも大々的に報道されたため、「ボイコット」が排斥や不参加という意味で使われるようになったというわけだ。

ものの起源

花道

相撲では花を飾り、歌舞伎では花を贈られる

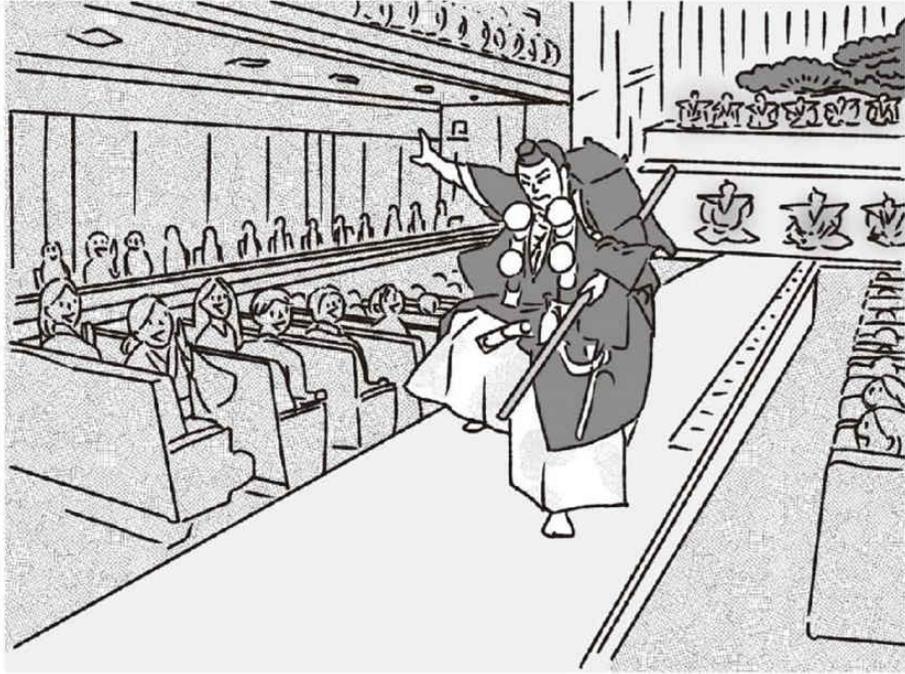
歌舞伎の舞台には「花道」という特殊な設備がある。舞台に向かって左手の観客席の中に設けられた幅1・5メートルほどの通路で、もともとは観客がひいきの役者に花（祝儀のこと）を渡しやすくするために作られた。そのために花道という名前がつけられたといわれる。

花道が登場したのは17世紀後半の寛文年間だが、当時は臨時の設備だった。しかし、能舞台のはしがか

「橋懸り（本舞台の左手から奥に斜めに長くのびた部分）」と同じように、舞台上とは別の場面を設定できると認識されるようになる。演出上の要として重要な場所と考えられるようになる。

り、17世紀末から18世紀初頭の元禄年間には常設となった。そして、『かんじんちよう勸進帳』でろつぼう弁慶が六方を踏むなど、見せ場の多くが花道で演じられるようになった。これは余談だが、1926年までは旧宝塚大劇場にも歌舞伎と同じように客席へ突き出した花道があったそうだ。

ところで、相撲の世界でも力士が支度部屋から土俵へ行き来する際に使う通路のことを花道というが、じつは、歌舞伎よりもこちらの方がはるかに古い歴史を持つ。相撲の花道は、平安時代に行われていた天皇が相撲を上覧する「すまい相撲の節せち」という行事で、力士が頭に花を飾って土俵に向かったことに由来している。1000年近い歴史があるのだ。



ものの起源

十八番

「おはこ」と読むのは

十八番が箱に入っていたから

もうひとつ歌舞伎由来の言葉を紹介しておこう。最も得意とする技や芸のことを「おはこ」という。「十八番」と書いて「おはこ」と読ませることが多いようだが、この十八番とは「歌舞伎狂言組十八番」の略である。

江戸時代後期の大人気役者7代目市川團十郎は、1832年（天保3年）に長男の市川海老蔵ひいきしゆうに8代目團十郎を襲名させ、自身は海老蔵を名乗ると発表した。その際、鼻肩衆（ファン）に配った手紙に記されていたのが「歌舞伎狂言組十八番」だった。これは、初代から4代目までの團十郎が初めて演じたお家芸ともいえる題目を制定したもので、『勸進帳』や「助六」「解脱」のように現在も人気の題目が並んでいた。

市川家ではこの18種の台本を箱に入れて大切に保管していたから、「得意演目↓十八番↓お箱↓おはこ」になったという説がある。ちなみに、市川家以外の歌舞伎役者が「十八番」を演じる際は、いまも市川家に断りを入れるそうだ。

ものの起源

左遷

左は右よりも劣っているという

古代中国思想から生まれた

左遷は、クビや降格とともに、ビジネスパーソンが最も聞きたくない言葉のひとつだろう。しかしなぜ、左に移（遷）されることが悪い意味になったのだろうか。

じつは「左遷」という言葉は、紀元前に司馬遷が記した『史記』にも登場する。これより前から、中国には「右は尊く、左は卑しい」という考え方があった。そのため、皇帝を迎える際にも、地位の高い者から順に右から左へ並ぶのが通例だった。つまり、並ぶ場所が左へ移されるのは、降格させられたのと同じなのだ。実際、戦争で負けた將軍などは容赦なく左遷（降格）させられたという記録が残っている。

宮廷儀式が中国から日本へ伝来した際、この左遷という言葉も同時に伝わったというわけ。ちなみに、その人より優れた人がいないことを「右に出る者がいない」というが、これも左より右が優れているという考え方なのだ。

ものの起源

オーエス

勝海舟がカツコいい言葉として広めたらしい

綱引きといえば、学校の運動会しかイメージが湧かない人も多いだろうが、1900年に開催されたオリンピックの第2回パリ大会から1920年の第7回アントワープ大会までは、陸上種目のひとつとして競われていたメジャーなスポーツだった。

ところで、綱引きといえば思い出されるのが「オーエス」というかけ声だろう。当たり前のように口にしてはいたが、あらためて考えてみると不思議だ。ルーツとしては、英語の「All-out effort」（全力で努力せよ）」だとか、フランスで中世から使われていた「引っ張れ！」という意味の「hissez」というかけ声に変化したものだという説が有力のようだが、勝海舟が関与しているという、なんともユニークな説もある。

神戸の海軍操練所をフランス海軍士官が訪れ、帆船の帆を張るためロープを思い切り引く際、彼らは「Hoi hisse」というかけ声をかけていた。それを聞いた勝が、カツコいいかけ声として「オーエス」を一般に広めたというのだ。

ものの起源

スチュワーデス

豚小屋の女性番人と言っても怒らないで！

現在「スチュワーデスは性差別用語のため、キャビンアテンダントと呼ぶのがふさわしい」とされている。しかし、外国人にはキャビンアテンダントが通じないことが多いという。キャビンは船の客室や小屋のことを指し、アテンダントは世話係、案内係という意味で、飛行機とはなかなか結びつかないそうだ。

そもそも、スチュワーデスとはどういう意味だったのか。スチュワーデスという言葉が現役のところ、男性乗務員はスチュワード (steward) といったが、じつはこれ、古い英語で豚小屋をあらわす「stig」と、見張り番という意味の「ward」が組み合わされてできている。つまり、スチュワーデスは「豚小屋の女性番人」という意味だ。でも怒らないでほしい。当時、豚は貴重な財産だったので、その番をするのはとても重要な仕事だった。つまり、スチュワーデスはかけがえのないお客様の世話をする大切な役目を担った女性を指していたわけだ。

ものの起源

超ド級（超弩級）^ど

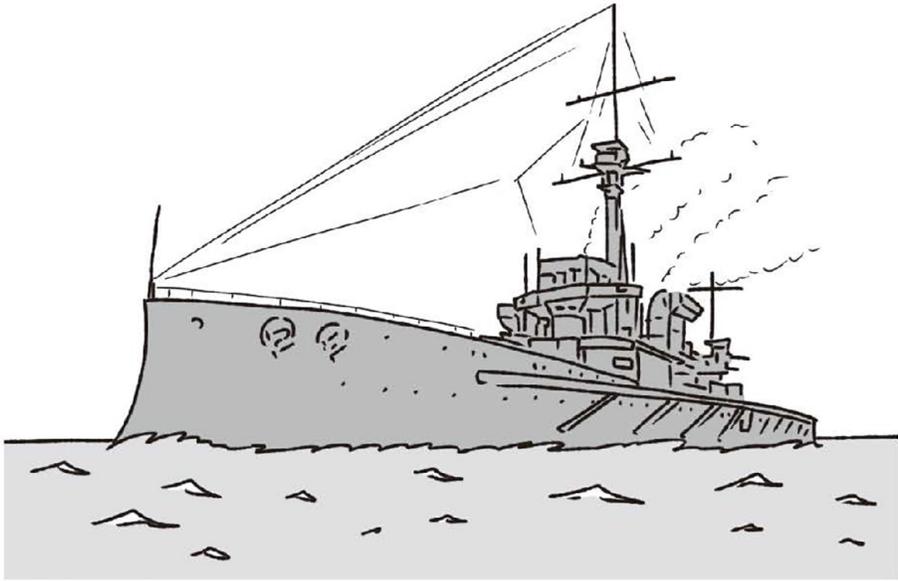
「弩級」や「超超弩級」もあった

いままでのものとは比べものにならないほど高性能な新製品が登場すると、テレビニュースや雑誌などで「超弩級の〇〇」と紹介されることがある。「超ド級」と書かれていることもあり、「カタカナをはさんで格好つけているつもりかな」などと思ってしまうのだが、言葉のルーツから考えると、じつは、こちらの方が正しい使い方もしれない。なぜなら、超弩級の「弩」とは、1906年に竣工したイギリスの超大型戦艦「ドレッドノート」のことだからだ。

ドレッドノートは、常備排水量1万7900トン、速力21ノット、主砲12インチ（30センチ）という、当時としては他に類を見ないほど巨大で高性能な戦艦だった。ちなみに、ドレッドノートの大きさは、現在海上自衛隊が保有している最大の護衛艦「いずも」とほぼ同じで、当時の戦艦には速力を20ノットを出せるものさえなかったといえ、その大きさと高性能ぶりがわかるだろう。

超巨大戦艦ドレッドノートは他国の海軍に大きな衝撃を与え、それに対抗すべく各国でも巨大戦艦が造られ始めた。こうして、ドレッドノートに類する大きさの戦艦を「ド級艦」、ひと回り

大きな戦艦を「超ド級艦」、さらに巨大な戦艦を「超超ド級艦」と呼ぶようになった。これが時代とともに「他を圧倒する性能や大きさ」という意味に変わっていったのだ。



ものの起源

そんたく しんしやく

忖度と斟酌

忖度ならギリギリセーフだけど、

斟酌はギリギリアウト？

国会答弁でたびたび登場し、2017年の流行語大賞にも選ばれた言葉が「忖度」。これは「相手の心を推し量る」という意味とされている。

もともとは中国で紀元前から使われ、最古の記述は紀元前9〜前7世紀ごろの詩から孔子が305編を選んでまとめた『詩経』しきやうにある。また、西暦210年ごろ書かれた『述志令』にも出てくるが、どちらも「人の考えを推し量り、自分が不利益にならないようにする保身の行為」という意味で使われ、現代日本の意味よりも好ましくないニュアンスが含まれているのがわかる。

忖度に似た言葉に「斟酌」があるが、こちらは「相手の事情や心情などをくみ取り、手加減する」という意味。つまり、忖度よりもさらに一歩踏み込み、何らかの手心を加えるという意味だ。日本の忖度ならグレーかもしれないが、中国の忖度、または斟酌まで行くと不正だと言われる可能性が出てくるといったところだろうか。

ものの起源

台風の名

名前を決めたのは

台風委員会に加盟している14カ国

最近、台風に名前がついているのをご存じだろうか。たとえば、2018年の台風18号は「サンサン」、19号は「ヤギ」といった具合だ。かつては、アメリカによって英語の人名がつけられていたが、日本を含む14カ国・地域が加盟している「台風委員会」が、2000年から独自のアジア名を使うことを決定して現在に至っている。用意されている名前は140個で、日本からは前述の「ヤギ」のほか「コグマ（小熊）」や「コンパス」など10個の名前が提示されている。

ちなみに、台風の年間発生数は25、6個くらいだから、140個の名前は5年ほどで使い切ってしまう計算になる。その後は、再び最初に戻って再利用されるようになっていく。

この名前とは別に、とくに災害の大きかった台風については上陸地点や被害が大きかった地点などの名前をつけ、「伊勢湾台風」などと呼ばれることになっている。

ものの起源

太平洋と大西洋

「穏やかな海」と「ヨーロッパの西にある海」という意味

太平洋と大西洋——当たり前のように使い分けているが、同じ「たい」という読みなのになぜ「太」と「大」なのか。まず、太平洋は英語で「Pacific Ocean」だが、17世紀にヨーロッパの地図が漢語に訳された際には「寧海」とされていた。これは「静かな海」という意味で、その後、「平和」という意味の「太平海」と表記されるようになり、これが日本に伝わった。「太平海」が「太平洋」になったのは明治維新前後で、1859年の『地理全志』という書物には、すでに太平洋という記載がある。

大西洋は英語で「Atlantic Ocean」という。これは古代ギリシア神話に登場するアトラス神の海という意味だが、この呼び方は紀元前6世紀のギリシアでも使われていた古いものである。しかし、日本では「アトラス神の海」という言葉がしっくりこなかったため、「ヨーロッパの西にある大洋（大きな海）」という意味から「大西洋」と命名されたといわれている。

ものの起源

段取り

段取りがいいのは歌舞伎の演出家？

それとも石工職人？

仕事が早い人にそのコツを聞くと「段取り八分、仕事二分」という答えが返ってくる。思わず納得してしまうが、よくよく考えてみると段取りというのは不思議な言葉だ。「物事を行う手順や準備」という意味だが、なぜ段を取ることが手順や準備をさすようになったのだろうか。

段取りという言葉が最初に使われたのは、歌舞伎の世界だという。「段」とは、芝居の一区切りのことで、それをどう構成するかが段取りと表現された。たしかに映画や芝居は構成次第で面白くもつまらなくもなる。

また、もともとは石工職人が使った言葉という説もある。石段を作る際には、階段の勾配こうはいや段数、段の幅や高さなどをあらかじめ決めておかなければならない。これを段取りといい、うまく石段を作る職人は「段取りがいい」と評価されたという。そして、これが他の物事にも使われるようになったようだ。

ものの起源

いっし

一矢を報いる

一矢を報いたのは鎌倉時代の武将、

しょうにかげすけ

少弐景資だった

「一矢報いてやったよ」などと使われることが多いのだが、正しくは「一矢を報いる」という。言葉の由来は、鎌倉時代後期に成立したといわれる『八幡愚童訓』はちまんぐうどうくんにある。これには元寇について記されており、この中に1度目の元寇「文永の役（1274年）」に九州の御家人たちの指揮をした武将・少弐景資が放った1本の矢が、元の副司令官を射止めたという話がある。

当時、鎌倉幕府軍は劣勢で、元軍は博多に上陸を果たしていた。しかし、この少弐の一矢で元軍はひるみ、戦況が逆転。幕府軍は元軍を撤退させることに成功したとされる。このことから「相手の攻撃に対し、わずかながらでも反撃する」ことを「一矢を報いる」というようになった。

ちなみに、この少弐は2度目の元寇の「弘安の役」にも参戦し、再度、元を撤退させることに成功したという。

ものの起源

びた一文

現代風に言い換えると「1円」になる？

びた一文とは「ほんのわずかな金」という意味。「びた」はひらがなで書かれることが多いが、もともとは「鏝」びたという漢字が使われていた。これは「鏝銭」びたせんが略されたものだ。鏝銭とは、縁が欠けていたり、形が崩れてしまったり、穴の位置がズレている粗悪な硬貨をさす。

日本では8世紀初頭から硬貨を製造していた。それが有名な「和同開珎」だが、技術力と材料の銅の不足で品質が安定せず、割れたり形が崩れていることがよくあった。室町時代に入り、中国から高品質の「永楽銭」えいらくせんが輸入されると、そうした国産硬貨は鏝銭とされ、敬遠されるようになった。これに対し、永楽銭は良銭を意味する「撰銭」えりぜにと呼ばれ、当時は撰銭1文が鏝銭4文に相当したようだ。製造技術が向上し、割れたり形が崩れている硬貨が姿を消したあとも、鏝銭の言葉だけは残り、最小額面の銅銭をさすようになったそうだ。

ものの起源

打ち合わせ

もともと日本の伝統音楽由来の言葉だった

打ち合わせは「事前の相談」という意味だが、もともとは地唄（三味線音楽）や箏曲（琴がそうぎょく主体となる音楽）などの和楽器を使った演奏で使われた言葉だった。具体的には、同一または似た旋律の曲を半拍または1拍ずつずらして合奏すること。または、異なる曲や異なる旋律を合唱することを「打ち合わせ」とっていた。

これが「ものともものがうまく合うようにすること」という意味を持ち、現在のように使われるようになったわけだ。

ところで、日本の伝統音楽から生まれた意外な言葉がもうひとつある。「頭取」だ。現在は銀行のトップをさすが、もともとは雅楽ががくの首席演奏者のことだった。江戸時代に入ると、歌舞伎などの興行責任者や、米の売買をする米会所の代表も頭取と呼ばれるようになり、1869年に現在の銀行の前身の「為替会社」が設置されると、その代表も頭取とされ、のちに銀行のトップの名称になった。

ものの起源

談合

かつては戦争回避のために行われていた

公共事業などの入札で、事前に話し合って落札する業者を決定し、入札金額や内容を調整することを談合と呼ぶ。公務執行妨害罪のひとつで、懲役3年以下または250万円以下の罰金になる。

もともと談合は「話し合うこと」「相談」という意味で使われていたが、戦争を回避するための重要な会合をさすことも多かったようだ。つまり、現在のように悪い意味はまったくなかったというわけだ。

たとえば、山梨県には談合坂サービスエリアという高速道路の施設がある。通説によると、これも「戦国時代に北条氏と武田氏が和議調停の話し合いを行ったところ」「武田信玄の娘が北条氏に嫁ぐ際、婚儀の約束事について相談した場所」という故事がある。ただし現在は談合坂という地名はなく、上りSAは山梨県上野原市大野、下りSAは同市野田尻にある。

ものの起源

100万ドルの

夜景

もともとの意味はとても「現金」なものだった

美しい夜景を「100万ドルの夜景」と呼ぶことがある。ドルで表現しているのだからサンフランシスコかニューヨークあたりの夜景かと思いがちだが、なんと神戸の夜景のことだったのだ。

この言葉が最初に使われたのは1953年。関西電力の広報誌に書かれた「百万弗ドルの夜景」というコラムが最初である。残念ながら、内容はロマンチックなものではなく、六甲山の頂上から神戸市内を見下ろして見える電灯の数はおよそ496万個だから、その1カ月の電気代をドル換算するとおよそ100万ドルになるという話だった。

しかし、あまりにも語呂がよかったため、「100万ドルの夜景」という言葉だけが1人歩きしてロマンチックな意味で使われるようになった。ちなみに神戸の夜景は、長崎の夜景、函館の夜景とともに、いまも日本3大夜景のひとつに挙げられている。

ものの起源

2ちゃんねる

関東では放送局の割り当てが
なかったから命名

2ちゃんねるは、1999年に西村博之氏が開設した日本最大規模のインターネット掲示板の名前だ。少し古くなるが、2008年の時点では推定1000万人が利用していたという。

2ちゃんねるの名前は、かつて関東地方でテレビの2チャンネルには放送局が割り当てられず、そのためテレビゲームの入力などに利用されていたことに由来している。そこで「なんでも入力（掲載）できる自由な場所」という意味で名づけられたという。

ちなみに、アメリカにもこの2ちゃんねるに似た巨大掲示板があるが、そちらの名前は「4chan」。ニューヨーク在住のクリストファー・プール氏が2003年に立ち上げた掲示板で、名前からもわかるとおり、日本にあるような掲示板をアメリカでも立ち上げたいと考えて作られたそうだ。

ものの起源

13日の金曜日

テンプル騎士団が逮捕されたのは事実だが

忌数いみかずというものがある。「不吉だ」と避けられる数字で、たとえば日本の場合には「4」や「9」が忌数とされることが多い。欧米で最も有名な忌数は「13」だろう。なかでも「13日の金曜日」は嫌われている。

13日の金曜日が悪い日とされるのは、フランス王フィリップ4世がテンプル騎士団をいっせいで逮捕したのが10月13日の金曜日だったという史実からだが、じつは、これ以外に13日の金曜日に起きた悪い出来事はあまり見当たらない。

ただし、キリストの最後の晩餐ばんさんに参加したのが13人だった。キリストが十字架に架けられたのは金曜日だった。アダムとイヴが禁断の果実を食べて追放されたのも金曜日だったといわれ、この「13」と「金曜日」が合体して「13日の金曜日」が禁忌になったようだ。ちなみに、「13」が忌数、「金曜日」が凶日とされるようになったのは17世紀ごろらしい。

ものの起源

ラッキーセブン

残念ながら日本では通用しないかも

忌数とは逆に、好まれる数字もある。「7」はその代表で、「ラッキーセブン」という言葉もあるくらいだ。ラッキーセブンが使われるようになったのは、1930年代にメジャーリーグのサンフランシスコ・ジャイアンツがたびたび7回に逆転劇を演じたのがきっかけだそう。また、これより以前の1885年の優勝決定戦でシカゴ・ホワイトストッキングス（現在のシカゴ・カブス）が7回に得点し、それが優勝の決め手になったからという説もある。いずれにしても、メジャーリーグの試合がラッキーセブンの語源だ。

ただし、日本ではラッキーセブンが通用しないかもしれない。名古屋大学の加藤英明教授らが2005年に行われたプロ野球の全試合を分析したところ、ホームゲームの7回裏に得点する確率は26・2%と、全インニングの平均（26・9%）より低いとわかったそう。

ものの起源

ハヤシライス

はやし

早矢仕さんが作ったからなのか

牛肉を細切れにして薄切り玉ねぎとともにデミグラスソースで煮込んだ西洋料理のことを「ハッシュドビーフ」という。日本では、これをご飯にかけてたものをハヤシライスと呼ぶが、それは「ハッシュドビーフ・ウイズ・ライス」が訛なまったもの——。この説に強く反論しているのが、大手書店の丸善である。

『丸善百年史』と『早矢仕有ゆう的てき年譜』によると、「医師でもあつた丸善創業者の早矢仕有ゆう的てきが、明治初期に滋養のある食べ物として肉と野菜を煮込んで作った料理が『ハヤシ』の由来であり、それを栄養失調の患者に食べさせたのが始まり」という。

ただし、当時日本にはデミグラスソースが伝わっていなかったから、早矢仕が作った料理も醤油か味噌で味つけされていたようである。また、丸善のレストランで出されていた「早矢仕ライス」も、最初はトマトソースで煮込まれていたものだった。

さて、みなさんはどちらを信じると認定するだろうか。

ものの起源

二枚目と三枚目

イケメン俳優の名前は

看板の2番目に掲げられた

見た目のよい男性のことを「イケメン」という。これは「イケてるメン (men)」もしくは「イケてる面 (顔)」の略とわかるのだが、「二枚目」がなぜ見た目のよい男性をあらわす言葉になったのか。もともと二枚目は歌舞伎の役柄のひとつで、かつては「和事^{わごと}」といい、おしろいを塗って登場する美男子の役をさした。江戸時代の元禄期に坂田藤十郎や中村七三郎によって確立した芸風だ。

京都や大坂で顔見世興行が行われる際には、人気役者の名前を並べた看板を6枚掲げることになっていたが、この美男子役の役者の看板は、2枚目に掲げられるのが通例だった。このことから、美男子のことを二枚目と呼ぶようになった。

面白い人のことを「三枚目」というが、これも同じように道化役の役者の看板が3枚目に掲げられたから。ちなみに、歌舞伎の世界には「二枚目は三枚目の心で演じよ」という口伝があるそうだが、これは現実世界でも大いに参考になる言葉だ。

ものの起源

十二支

猫がないのはネズミに嘘をつかれたから？

十二支のルーツをたどると、西アジアで占星術として発達した「十二宮」に行き着く。この占星術がインドに伝わり、仏教などとともに中国にもたらされて十二支と言われるようになった。

ただし当時、中国では時間と空間をあらわすための記号的な役割しか持っていなかったという。やがてこの「記号」に、動物を割り当てて示すようになり、六世紀半ばに日本へ伝来したが、現在私たちが使っている十二支である。

中国で十二支に動物を割り当てるとき、できるだけわかりやすいものを選んだというのだが、なぜか猫がない。これについては、お釈迦様が干支を決める際、「希望者は1月1日にいらっしやい」と通達をした。しかし、ネズミが猫に「集まるのは1月2日」と嘘を教えたので、猫は出られなかったという。ちなみに、これは日本の民話だが、当時の中国には猫がいなかったという説もある。

ものの起源

セ・リーグと

パ・リーグ

2リーグに分かれたのは
新聞社同士の争いが発端

スポーツの章でも紹介したが、日本にプロ野球が誕生したのは1934年（昭和9年）。現在の読売ジャイアンツ（巨人）が結成されたわけだが、1チームでは試合ができない。そこで読売新聞社社主だった正力松太郎が尽力し、大阪タイガース、東京セネターズ、阪急、名古屋金鯱、大東京、名古屋という6チームが生まれ、日本職業野球連盟が結成された。

終戦後にプロ野球は大人気となり、新加入を希望する球団が複数あらわれたが、そのなかの「毎日オリオンズ」の受け入れについて大紛糾した。「読売」としては、なんとしてもライバル会社の「毎日」を阻みたかったのだらう。その後も意見がまとまることはなく、読売ジャイアンツを中心とする反対派8球団が「正当な連盟」という意味を込めて「セントラル・リーグ」と名乗り、賛成派の7球団が「国際的な視野を持つ」という意味で「パシフィック・リーグ」と名乗るようになった。

ものの起源

関東と関西

分けていたのは

すずかのせき ふわのせき あらかのせき

鈴鹿関、不破関、愛発関の三関

飛鳥時代の「大化の改新」当時は、鈴鹿関（三重県亀山市）、不破関（岐阜県不破郡関ヶ原町）、愛発関（福井県敦賀市と滋賀県高島市の境周辺）のことを三関といい、ここより東側を関東といっていた。

しかし、平安末期には現在に近い、あしがら足柄峠、うすい箱根峠、碓氷峠を結ぶ線から東側で、かつ陸奥（現在の東北地方）より南を関東と呼ぶようになった。

関西という言葉も、関東と同様に鈴鹿関、不破関、愛発関の三関より西の地域をさしていたが、平安時代中期に入ると、愛発関よりも逢坂関（おうさかのせき滋賀県大津市）が重要視されるようになった。鈴鹿関、不破関、逢坂関より西を関西と呼ぶようになった。

現在のように、大阪・京都周辺をさすようになったのは江戸に徳川幕府が置かれて以降で、関東の定義が定まったのに呼応するかたちで、関西も地域が定まっていたといわれる。

ものの起源

ヘルメット

ルーツは、あのヘルメス神と同じ？

ヘルメットの歴史は古い。4600年前に栄えた古代都市ウルから出土した「ウルのスタンダード」という遺物のモザイク画には、シュメール人兵士がヘルメットをかぶっている様子が描かれている。その後も兵士が防具として使ってきたが、「ヘルメット」という言葉で呼ばれるようになったのは15世紀ごろという。

インドとヨーロッパの言語に共通する、守る、隠す、覆うおおという意味の「kernos」に由来し、これが古代フランス語の「helme」になり、「小さい」という意味の「et」がかちちゅうついて「helmet」になったという。このことからわかるとおり、当時のヘルメットは甲冑かちゅうの中にかぶる一回り小さなものだったらしい。

ちなみに、ギリシア神話のヘルメス神の名前に由来するという説もある。たしかに、ヘルメス神はヘルメットをかぶっている姿で描かれることが多いので、一度たしかめてみてほしい。

ものの起源

もしもし

「申す申す」が「もしもし」に変わった？

ここ数十年で電話は、固定電話から携帯、そしてスマホへと驚くべき進化を遂げた。ところが、誰かに電話をかけたときに発する第一声はいまだに「もしもし」。いまだにといつたが、そもそもいつからこの奇妙な言葉を発しているのだろうか。

英語圏では「ハロー」というのが一般的で、挨拶の言葉なら「こんにちは」の方がふさわしいと思うのだが、なぜ日本では「もしもし」なのか。

この奇妙な言葉の由来についても諸説あるが、最も信憑性しんぴやうが高いと思われるのは、電話が普及しはじめたときに、「これから話をいたします」という意味で「申します、申します」あるいは「申す、申す」と言っていたのが、「もしもし」に変わったという説だ。昔の電話は性能が悪く、相手の声がいまとは比べものにならないほど聞き取りにくかったため、話しはじめる前に言葉が必要だったのだ。ただし、「申す、申す」が「もしもし」に変わったのがいつごろなのかはわかっていない。

ものの起源

「はい、チーズ」

テレビCMの影響だった

カメラつき携帯電話やスマホの登場で、デジタルカメラの出荷台数は減少の一途をたどっていたが、2017年に増加に転じたという。もしかすると、簡単な写真はスマホで、大切な写真はデジタルカメラで撮るという「棲み分け」ができてつつあるのかもしれない。

ところで、日本では写真を撮るときに、よく「はい、チーズ」と声をかけるが、このかけ声が広まったのは、1963年にオンエアされたチーズのCMがきっかけだったという。このCMは、笑顔を作れずに困惑していた日本人モデルに、外国人カメラマンが「チーズと言ってごらん」とアドバイスして自然な笑顔を作らせたという内容。この商品の宣伝文句が「チーズで笑顔になる」だったこともあり、「はい、チーズ」というかけ声が急激に広まった。

ちなみに、アメリカやイギリスでも「Say cheese!」と叫ぶのは一般的だ。

ものの起源

トヨタ

かつては存在していた「トヨダ」の自動車

本田宗一郎が創業した会社は本田技研、鈴木道雄が創業した会社はスズキ。ところが、同じ乗り物メーカーでも、豊田（とよだ、と濁る）佐吉が創業した会社の名前は「トヨタ自動車」といって濁点がない。じつは、同社で初期に製造されていた自動車は「トヨダ」ブランドだった。もちろん会社の前身である「豊田自動織機製作所自動車部」の「豊田」も当初はトヨダと濁っていた。

「トヨダ」が「トヨタ」に変更されたのは、1936年に行われた「トヨダマーク」の懸賞募集で、応募総数約3万点のなかから採用されたのが、濁音のない「トヨタ」だった。この予想外の採用理由についてトヨタでは、「濁音がない方が爽やかな印象があり調子もいい」「総画数が縁起のいいとされている8画になる」「社名を創業者の苗字である『トヨダ』から『トヨタ』に変更することによって、個人企業から社会的存在へ発展するという意味を込められる」という3点を挙げている。

ものの起源

1週間の曜日

最初は「土曜日」がはじまりだった

1週間には、日・月・火・水・木・金・土という7つの名前がつけられている。これはいうまでもなく、太陽系に存在する星の名前に由来したものである。しかし、それにしても並びがおかしい。太陽（日）を起点とするなら、日・水・金・月・火・木・土になるはずだが、どうして現在のような並びになったのか。

曜日に使われている星が、他の星（シリウスなど遠くにある恒星）と違う動きをすることは、かなり昔から知られていたことで、紀元前の古代バビロニアもしくはエジプトでは1日を24等分して、これらの星を当てはめていた。その際、最初の時間として当てはめられた星の名前を、1年のはじめの1日から順に羅列すると「土・日・月・火・水・木・金」となった。

これが日曜日はじまりとなったのは、キリスト教が広まった後のこと。キリストが復活した日が日曜日とされたことから、最初の日に置き換えられたといわれている。

ものの起源

S O S

「Save Our Ship」の略だなんて

知ったかぶりはしないこと

無線通信にまったく興味がない人でも、「S O S」が救難信号であることくらいは知っているはず。このS O Sは「Save Our Ship（私たちの船を助けてくれ）」の略語だと自慢げに語る人もいるが、残念ながらこれはまったくのこじつけだ。

じつは、S O Sにはなんの意味もなく、単に最も聞き取りやすいモールス符号を並べただけ。モールス符号は短点の「トン」と長点の「ツー」という2種類の信号の組み合わせでアルファベットや数字をあらわすが、そのなかで2文字だけが同じ信号の連続となっている。それが「S || トン・トン・トン」と「O || ツー・ツー・ツー」だ。この最もシンプルな組み合わせの信号なら送信も受信も簡単なので、S O Sが救難信号になったというわけ。

ちなみに、このS O Sをはじめて打電したのは1912年4月14日、北太平洋で氷山に激突して沈没したあのタイタニック号だった。

つじつま

「辻褄」とは、本来どこをさした言葉？

- Ⓐ 道路の幅と高さ
- Ⓑ 着物の縫い目と裾
- Ⓒ 妻と夫の性格

国会で、野党が閣僚に対し、「あなたの発言は、まったく辻褄が合っていない！」などと追及することがある。いまさら言うまでもないだろうが、「辻褄が合わない」とは「話の筋道が合っていない」という意味だ。また、お金の勘定があわないうちに「辻褄を合わせておく」と使うが、これは「もっともらしく合わせる」という意味で、どちらもあまりいい意味ではない。

しかし、「辻褄」はもともと裁縫用語で、「辻」は縫い目が十文字に合うところ、「褄」は着物の裾の左右の端をさす言葉。本来なら、着物の縫い目や裾の左右端が合っているのは当然のこと。それが「道理」や「筋道」という意味に通じるために、「辻褄が合わない」「辻褄を合わせる」のように使われるようになった。

豆知識 芸妓さんになることを「褄を取る」というそうだ

「ピンからキリまで」と言うが、上等なのはどちら？

- Ⓐ ピン Ⓑ キリ Ⓒ どちらも上等

「ひと口に〇〇と言っても、ピンからキリまでであるから」

こんな使い方をすることがよくある。もちろん、「最上級のものから最下級のものまで」という意味だと知って使っているのだろうが、どちらが最上・上等なのかわかっていない人は多いようだ。

ピンとはポルトガル語で「点」を意味する「ピンタ (pinta)」が語源。もともとはサイコロの「一」をあらわし、これが転じて「上等」「最高」「一番」という意味に使われるようになった。「キリ」もポルトガル語で「十字架」を意味する「クルス (cruz)」が語源といわれている。それが「十」という意味に使われるようになり、やがて「最悪」「下等」という意味に変化したようだ。

豆知識 「キリ」は天正カルタの最後の1枚のことという説もある

ドレミファソラシドを考案したのはどこの国の人？

- Ⓐ フランス Ⓑ オーストリア Ⓒ イタリア

音楽にまったく興味がない人でも、「ドレミファソラシド」が音階をあらわす言葉ということくらいは知っているはず。この、誰もが知っている音階名が考案されるきっかけを作ったのは、11世紀のイタリアの音楽理論家グイード・ダレッツォといわれている。

当時の聖歌集には、音の長さや高さが曲線や直線を使って表現されていた。これではわかりにくいと考えたダレッツォは、3〜4本の線を引き、その線上と線間に音符を書き入れて音高を示し、音階をウト (ut)、レ (re)、ミ (mi)、ファ (fa)、ソル (sol)、ラ (la) の6つに分けた。これが15世紀ごろに、現在の五線譜とドレミファソラシドに変化していったという。

豆知識 ダレッツォが譜面を作るのに利用したのは『グレゴリオ聖歌』

「ちちんぷいぷい」、この不思議な言葉の由来は？

- Ⓐ おならの音 Ⓑ 密教の経典にある呪文 Ⓒ 漢方薬の名前

子どもがケガをしたり体の痛みを訴えたときに、「ちちんぷいぷい」と気持ちをまぎらわすことがある。ところがこの語源が、おならの音だったという説があるというのだから驚きだ。しかも、そう主張しているのは日本の民俗学の第一人者柳田国男である。

柳田説によると、日本各地に『屁へこき爺じい』という民話が伝わっていて、その内容は「日本一の屁こき爺を自称する老人が、領主の前でさまざまな音色のおならをした。そのなかで最もウケたのが『ちちんぷいぷい』という音のおならで、老人は領主からたくさんの褒美ほうびをもらった」というもの。褒美をもらえたからよい結果をあらわす言葉になり、やがてケガが治るおまじないになったそうだ。

豆知識 「智仁武勇御代の御宝ちじんぶゆう おんたから」という言葉が由来という説もある

本郷陽二（ほんごう・ようじ）

1946年東京生まれ。早稲田大学文学部仏文科卒業。光文社カッパブックス編集部を経て、編集企画プロダクション「幸運社」を設立。歴史・雑学・日本語からビジネス・発想まで幅広いジャンルの書籍で活躍。

主な著書に『頭のいい人が使っている敬語のルール』『「どこか品のある人」の言葉づかい』（以上、三笠書房《知的生きかた文庫》）、『頭のいい子に育つなるほど雑学』『今さら他人に聞けない 小学校で覚えた漢字』（以上、KADOKAWA）、『頭がいい人の敬語の使い方』『これで差がつく！大人の「国語力」養成講座』（以上、日本文芸社）、『日本人が「9割間違える」日本語』（PHP研究所）、『初対面でも、相手がどんどん話し出す！沈黙がコワイ人のための聞き上手のコツ』（朝日新聞出版）などがある。

本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。

本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。

また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

もののはじまり おもしろ雑学

電子書籍版

発行日 2019年2月10日

著者 本郷陽二（ほんごう・ようじ）

発行者 押鐘太陽

発行所 株式会社三笠書房

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-3-1

03-5226-5731

<http://www.mikasashobo.co.jp>

制作 誠宏印刷株式会社

(C) Yoji Hongo

●三笠書房『ものはじまり おもしろ雑学』(2019年2月10日 初版第1刷発行)に基づいて電子書籍版は制作されました。